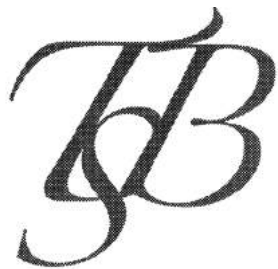


平成29年度  
授 業 概 要  
(シラバス)

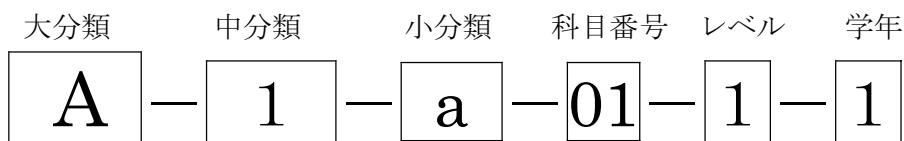


東北生活文化大学短期大学部

## シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の目的(到達目標)	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1/3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

中分類：科目の区分

小分類：科目群

A・・・食物栄養学専攻

1・・・学科共通教養科目

B・・・子ども生活専攻

2・・・基幹科目

K・・・学科共通

3・・・専攻科目

# 生活文化学科共通教養科目

# 生活文化学科共通教養科目

授業科目	生物と生命倫理					担当者	堀江 佐知子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>本講義は、生き物の不思議さを知り、それらを取り巻く環境について考える講義である。生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになること。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 原始地球の誕生									
3. 地球と生命の誕生と進化									
4. 魚の進化									
5. 植物の進化									
6. 哺乳類の進化									
7. 鳥の進化									
8. 昆虫の進化									
9. 人類の進化									
10. ヒトの設計図、遺伝子									
11. 心臓・血管									
12. 骨と筋肉									
13. 免疫									
14. 脳と心									
15. 講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習	生物に関する話題を新聞や書籍などから見つけておくこと。								
事後学習	講義で疑問や興味を持ったことは、自ら調べたり質問をして理解に努めること。								
履修上の注意	特にテキストは使わず、プリントなどで進める。復習を行い、理解に努めること。								
成績評価の方法・基準	レポートおよび期末試験（50%）と受講態度（50%）により評価する。								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	無し								

授業科目		地球環境学				担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専・子専2年	
<b>授業の概要</b>										
<p>私たち人間を含む生物が生存できる環境は、どのように作られ、どのように守られているのか、自然科学的な立場から考察する。特に、生物の生存に有利な環境が生物自身によって生み出されたことを強調し、人がその環境を急速に破壊しうる能力を持っていること、それゆえ人には地球環境を維持する責務があることを説明する。</p>										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
<p>重力、電磁場、電磁波、放射線、元素、エネルギーなど、物理の基本的事項に慣れる。「地球の誕生」「生物の誕生」の謎について理解する。生物が地球環境に与える影響を理解する。環境問題を取り上げることができる。</p>										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. ガイダンス：地球環境学で何を学ぶのか。										
2. 太陽系形成の謎：太陽系の始まり、重力と惑星の形成、生物が生存できる範囲										
3. 地球の形成：初期の地球についてどこまでわかっているのか										
4. 地球の特徴：生物が生存できる環境とは？										
5. 地球の持つ環境維持システム(1)：太陽と磁気圏、電磁波、放射線										
6. 地球の持つ環境維持システム(2)：大気と海流、エネルギー収支										
7. 地球の持つ環境維持システム(3)：地球の自転、月の影響、宇宙船地球号										
8. なぜ、金星や火星は地球になれなかったのか。テラフォーミングの試み										
9. 生物と地球環境の相互作用(1)：生物誕生の謎、生物最初の30億年と環境への影響										
10. 生物と地球環境の相互作用(2)：多細胞生物の誕生・進化と環境への影響										
11. 生物と地球環境の相互作用(3)：生物の大絶滅に見る地球環境の変動										
12. 生物と地球環境の相互作用(4)：人間の登場と環境への影響										
13. 地球環境問題：地球温暖化の現状と取り組み、再生エネルギー、持続可能性社会										
14. 地球環境問題：さまざまな環境汚染										
15. 生物多様性の危機と環境への影響と小テスト										
<b>事前学習</b>		前回までのストーリーを、プリント・ノートを見て復習しておくこと。								
<b>事後学習</b>		プリント等の宿題を出すので取り組むこと。								
<b>履修上の注意</b>		教科書はないが、資料と自分自身のメモが教科書となる。資料の整理と、授業中の書き込みを怠らないこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>		提出物(60%)。小テスト(40%)。								
<b>教科書</b>		適時、資料を配布する。								
<b>参考書</b>		なし								

授業科目	消費生活と経済					担当者	舩谷 謙二		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専・子専2年
<b>授業の概要</b>									
現在われわれが享受している豊かな消費生活は高度経済成長によってもたらされたが、その過程はまた多様な消費者問題の歴史でもある。この授業では経済のメカニズムや発展の歩みを概観しつつ「消費者問題」について教授する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
(1) 消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。 (2) 消費生活の問題には経済的側面と法的制度的側面とがあることに気づくことができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認、提出物の書き方									
2. 経済発展と消費生活の変容（1970年代まで）									
3. 経済発展と消費生活の変容（1980年代から）									
4. 消費生活のメカニズム：需要と供給の生活から（最適消費の理論）									
5. 消費生活のメカニズム：需要と供給の生活から（雇用と物価）									
6. 理念としての消費者と現実の消費者（消費者主権）									
7. 消費者問題の概要（1）消費者保護基本法（1968年）の基本視角									
8. 消費者問題の概要（2）PL法から消費者基本法（2004年）へ									
9. クレジット社会の消費者問題									
10. 情報化社会の消費者問題									
11. 高齢化社会の消費者問題									
12. 企業・消費者・行政									
13. 消費者保護から自立支援へ									
14. 消費者政策と消費者教育									
15. ゆたかな消費生活をおくるために									
事前学習	テレビや新聞などで消費生活に関するニュースを継続的にチェックしておくこと。								
事後学習	授業で学習した事項や用語について事典（辞典）などで確認しておくこと。								
履修上の注意	特になし。								
成績評価の方法・基準	授業中の小テスト（75%）、提出物（25%）								
教科書	プリントを配布する。								
参考書	〔第四の消費〕〔三浦 展〕〔朝日新聞出版〕〔828円〕								

授業科目	社会学					担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専1年
<b>授業の概要</b>									
日常において当然の如く考えている社会事象や現実を社会学はどのように考えるのか、その方法や概念について、日常での具体例を示しながら解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
基本となる社会学の概念を学びながら、社会とは何か、社会における自分とは何かを考え、社会を批判的に見る視点を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス、授業説明、アンケート									
2. 社会学とは、社会科学との関わり									
3. 社会の概念について									
4. 社会学の歴史（近代社会学、E.デュルケームの社会学）									
5. 社会学の歴史（M.ウェーバーの社会学、現代の社会学）									
6. 社会のきまりごと、規範とは									
7. 社会化とは									
8. 個人と他者、集団									
9. 家族・ライフコースと社会									
10. 学校と社会									
11. 医療・健康と社会									
12. ジェンダーとセクシャリティ									
13. 地域と社会									
14. メディアとコミュニケーション									
15. まとめ									
事前学習	授業内容として取り上げる概念や知識等について、関連する書籍や資料をもとに可能な範囲で調べて予習しておくこと。								
事後学習	授業で扱った内容については、配布プリントを参考により理解を深めるよう復習を行うこと。								
履修上の注意	授業中の私語は慎むこと。								
成績評価の方法・基準	受講態度（50%）、レポート（50%）。								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目	日本国憲法					担当者	横田 尚昌		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>憲法という言葉は、よく耳にするけれども、いったい何だろう？という問いに答えられるように講義します。そこでは、憲法の各条文が定めていることの要点・枠組みを、生活の中で起こり得る事例を掲げながら解説していきます。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>「一人ひとりの人間を個人として尊重する」という憲法の基本理念の意味が理解できる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 憲法とは何か									
2. 国民主権と象徴天皇制そして平和主義									
3. 選挙制度と政党									
4. 国会のしくみ									
5. 内閣の役割									
6. 裁判所の機能									
7. 地方自治とは何か									
8. 人権とは何か									
9. 人権の分類と適用範囲									
10. 幸福追求権、法の下での平等									
11. 内心の自由（思想及び良心の自由、信教の自由、政教分離原則）									
12. 表現の自由									
13. 経済的自由権									
14. 社会権									
15. 参政権、国務請求権									
16. 試験									
事前学習	新聞で憲法に関わる記事に触れたら、これを熟読し論点を整理しておく。								
事後学習	基本的な用語の定義や概念を、説明できるようにする。								
履修上の注意	今どのようなことが我が国で問題になっているのかを把握しておくこと。								
成績評価の方法・基準	定期試験（1回）70%、不定期に実施するレポート（3回）30%								
教科書	とくに教科書は指定せず、少し詳しいレジュメを配布して授業を行います。								
参考書	[いちばんやさしい憲法入門 第4版補訂版][初宿正典ほか][有斐閣][1,728円]								



授業科目	日本国憲法					担当者	横田 尚昌			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専2年	
<b>授業の概要</b>										
<p>憲法という言葉は、よく耳にするけれども、いったい何だろう？という問いに答えられるように講義します。そこでは、憲法の各条文が定めていることの要点・枠組みを、生活の中で起こり得る事例を掲げながら解説していきます。</p>										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
<p>「一人ひとりの人間を個人として尊重する」という憲法の基本理念の意味が理解できる。</p>										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. 憲法とは何か										
2. 国民主権と象徴天皇制そして平和主義										
3. 選挙制度と政党										
4. 国会のしくみ										
5. 内閣の役割										
6. 裁判所の機能										
7. 地方自治とは何か										
8. 人権とは何か										
9. 人権の分類と適用範囲										
10. 幸福追求権、法の下での平等										
11. 内心の自由（思想及び良心の自由、信教の自由、政教分離原則）										
12. 表現の自由										
13. 経済的自由権										
14. 社会権										
15. 参政権、国務請求権										
16. 試験										
事前学習	新聞で憲法に関わる記事に触れたら、これを熟読し論点を整理しておく。									
事後学習	基本的な用語の定義や概念を、説明できるようにする。									
履修上の注意	今どのようなことが我が国で問題になっているのかを把握しておくこと。									
成績評価の方法・基準	定期試験（1回）70%、不定期に実施するレポート（3回）30%									
教科書	とくに教科書は指定せず、少し詳しいレジュメを配布して授業を行います。									
参考書	[いちばんやさしい憲法入門 第4版補訂版][初宿正典ほか][有斐閣][1,728円]									

授業科目		文化史				担当者	針生 隆			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専・子専2年	
<b>授業の概要</b>										
時代時代での為政者・権力者サイドが意図的に生み出した「文化」と庶民生活から生み出された「文化」の違いに視点をあて、歴史における庶民（市民）の生きるエネルギーを実感できるようにしたい。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
高校までの「日本史」の授業が、主に政治・経済分野などに重点を置いて学習してきたと思われるが、今般は時代時代での文化を復習し、現代の生活・文化の歴史性（ルーツ）が理解できるようになる。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. ガイダンス（文化とは・100人の村）										
2. 日本にある世界遺産について										
3. 日本史の流れⅠ（古代から近世）										
4. 日本史の流れⅡ（近代から現代）										
5. DVD鑑賞（国立博物館の紹介）										
6. 同上										
7. 日本の年中行事										
8. 生活史Ⅰ（食・服飾・住居）										
9. 生活史Ⅱ（その他）										
10. 比較文化史（日本と他国との生活文化の比較）										
11. DVD鑑賞（広島・長崎）										
12. 博物館研修										
13. 博物館研修										
14. 日本伝統工芸展研修										
15. まとめ										
<b>事前学習</b>		高校の教科書「日本史」を常に学習しておくこと。								
<b>事後学習</b>		自分で興味をもったテーマは図書館で掘り下げて学習すること。								
<b>履修上の注意</b>		選択授業なので、受講態度、ミニレポートの評価に重きをおく。								
<b>成績評価の方法・基準</b>		期末レポート50%、受講態度30%、ミニレポート20%								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。									
<b>参考書</b>	授業で紹介									

授業科目	心理学					担当者	植松 公威			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専1年	
<b>授業の概要</b>										
心理学では条件操作的な実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学における条件操作的な実験の意義について述べる。後半では現代の心理学の背景として行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ説明する。また、記憶の実験を通して記憶のメカニズムを考える。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
1 「条件操作的な実験による仮説検証」がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。 2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。 3 自我防衛のメカニズムの具体例から種類の名称を答えられるようになる。										
<b>授業計画お及び内容</b>										
1. ガイダンス (教授内容と教育目標)										
2. 心理学における条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話などを通して－										
3. 心理学の目標と研究のプロセス										
4. 心理学実験の一例－説得における「一面 (片面) 提示」と「二面 (両面) 提示」の効果－										
5. 実験心理学の始まり										
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学 (ワトソンの理論)										
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学 (スキナーの理論)										
8. スモールステップの事例										
9. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論 (バンデュラの理論)										
10. 現代の心理学の背景④ 精神分析 (フロイトの理論)										
11. 抑圧による心身への影響										
12. 精神分析における自我防衛のメカニズム										
13. 記憶の実験 ー系列位置曲線と系列位置効果ー										
14. 記憶のしくみ ー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー										
15. エビングハウスの忘却曲線										
16. 学期末試験										
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。									
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからないところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。									
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。									
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%									
教科書	授業前にプリントを配布する									
参考書	授業の中で適宜、紹介する。									

授業科目	健康管理学					担当者	土屋 葉子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専2年
<b>授業の概要</b>									
“健康”。それを守る事は人間にとって非常に重要な課題である。本講義では、健康でより良い生活を送ることのできる能力や知識を身につけ、実践できるように考えていく。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
自身の健康について興味を持ち、それを守る事のできる知識、能力を身に付けること。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 健康の概念									
2. 青年期の発育と発達①身体的特性									
3. 青年期の発育と発達②呼吸・循環機能の発達									
4. 性の科学 ○性とは									
5. ○男性・女性の生理①女性のライフサイクル									
6. ○男性・女性の生理②男性のライフサイクル									
7. ○結婚・妊娠									
8. ○妊娠・出産									
9. ○性行為感染症									
10. ○性行為感染症 (AIDS について)									
11. ○避妊									
12. 更年期障害について									
13. 健康管理 ○ライフステージ別の健康管理 (前思春期・思春期)									
14. ○ライフステージ別の健康管理 (成熟期・更年期)									
15. ○ライフステージ別の健康管理 (老年期)・まとめ									
16. 試験									
事前学習	次時学習についての関連情報を図書館等で収集する。								
事後学習	学んだことを日々の生活にいかすように努める。								
履修上の注意	初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。								
成績評価の方法・基準	受講態度 70%、期末試験 30%								
教科書	授業中にプリントを配布する								
参考書	その都度、指示する								

授業科目	健康スポーツ I				担当者	土屋 葉子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	講義・実技	開講期	前期	対象	食専・子専1年
<b>授業の概要</b>									
生涯スポーツという事が近年盛んに謳われている。スポーツ・各種運動を通じ、運動を日常のものにするべく基礎技術の実習を行うとともに、運動の必要性、健康のあり方を見直し、将来に向けての身体作りの一歩とする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
運動の楽しさを体感し、将来に向けて、自身の体力を維持できる知識、能力を身に付けること。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 新体力テスト									
3. 新体力テスト (シャトルラン)									
4. 台原森林公園									
5. 球技 (バレーボール・バスケットボール他) ①									
6. 球技 (バレーボール・バスケットボール他) ②									
7. 大縄跳び(8の字跳び・全員跳び)									
8. インディアカ①基礎練習 2人組									
9. インディアカ②基礎練習 グループ分け									
10. インディアカ③基礎練習 サーブ練習									
11. インディアカ④ゲーム 総当たり 1回目									
12. インディアカ⑤ゲーム 総当たり 2回目									
13. インディアカ⑥ゲーム 総当たり 3回目									
14. 台原森林公園									
15. 新体力テスト (シャトルラン)									
事前学習	体力作りに努める								
事後学習	体力維持に努める。								
履修上の注意	毎回、10～15分間走を行う。 初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。								
成績評価の方法・基準	受講態度・平常点 90%、レポート 10%								
教科書	授業中にプリントを配布する。								
参考書	その都度、指示する。								

授業科目		健康スポーツⅡ			担当者	土屋 葉子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	講義・実技	開講期	後期	対象	食専・子専1年
<b>授業の概要</b>									
本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立つ事のできる運動の技術の実習を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
将来に向けて、自身の体力を維持できる知識、能力を身につけ、またそれらを今後の生活に役立てる事ができるような実践力を身に付けること。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス・新体力テスト (シャトルラン)									
2. ソフトボール①基礎練習キャッチボール (1)									
3. ソフトボール②基礎練習キャッチボール (2)									
4. ソフトボール③打撃練習									
5. ソフトボール④ゲーム (1)									
6. ソフトボール⑤ゲーム (2)									
7. ドッジボール①様々なボールを使用									
8. ドッジボール②グループ変え (1)									
9. ドッジボール③グループ変え (2)									
10. 大縄跳び (8の字跳び・全員跳び)									
11. 二人三脚 (クラス全員)									
12. ダブルダッチ①基本の跳び方									
13. ダブルダッチ②応用編									
14. 台原森林公園									
15. 新体力テスト (シャトルラン)									
<b>事前学習</b>		体力作りに努める							
<b>事後学習</b>		体力維持に努める。							
<b>履修上の注意</b>		毎回、10～15分間走を行う。 初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。							
<b>成績評価の方法・基準</b>		受講態度・平常点 90%、レポート 10%							
<b>教科書</b>		授業中にプリントを配布する。							
<b>参考書</b>		その都度、指示する。							

授業科目		日本語基礎				担当者	清水 浩一郎			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専1年	
<b>授業の概要</b>										
前半は日本語能力の基礎となることから問題を演習を通じて学習する授業をおこなう。後半では日本語の特性や実践的な用法について講義をおこないます。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
まず日常的に使用する言葉や文法を習得します。その上で、日本語に関する基礎的な知識の講義を通じて、学生或いは社会人として要求される日本語能力を学習します。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. ガイダンス：履修上の注意・講義の目的と概要についての説明										
2. 日本語能力の基礎①：漢字と慣用句										
3. 日本語能力の基礎②：文法と表記										
4. 日本語能力の基礎③：敬語										
5. 日本語能力の基礎④：敬語の練習問題										
6. 日本語能力の基礎⑤：文章作法										
7. 日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割										
8. 日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴										
9. 日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴										
10. 日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴										
11. 日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性										
12. 「国語に関する世論調査」①：文化庁が実施した日本語意識調査について紹介										
13. 「国語に関する世論調査」②：平成 22～23 年度調査についての分析										
14. 「国語に関する世論調査」③：平成 24～25 年度調査についての分析										
15. 講義のまとめ										
16. 試験										
<b>事前学習</b>		配布資料に目を通しておいください。								
<b>事後学習</b>		講義と配布資料の内容をまとめ、授業内容に対する理解を深めるよう努めてください。								
<b>履修上の注意</b>		講義の始めに小テストを実施しますので（2回目以降）、遅刻しないようにしてください。								
<b>成績評価の方法・基準</b>		期末試験（50%）と受講態度（50%）で評価します。特に受講態度を重視しますので、初回のガイダンスで説明する履修上の注意を厳守してください。								
<b>教科書</b>	講義前にプリントを配付します									
<b>参考書</b>	授業中適宜紹介します									

授業科目	国語表現法					担当者	清水 浩一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専・子専1年
<b>授業の概要</b>									
自己紹介文や手紙文、論作文の書き方や文章の要約、履歴書やエントリーシートなど、各種の文書を書く上での要点を講義します。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
日本語を「読み」・「書き」・「話す」ための要点を理解し、各種文章・文書を実際に作成することで、実践的な日本語表現能力の習得を目標とします。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：授業の概要と履修上の注意について説明します									
2. スピーチ①：人前で話をする際の方法や留意事項について学びます									
3. スピーチ②：自己紹介のスピーチ原稿を作成します									
4. 文書作成①：履歴書や履歴書に添付する文書の書き方を学びます									
5. 文書作成②：履歴書を作成します									
6. 文書作成③：エントリーシートの書き方を学びます									
7. 文書作成④：エントリーシートを作成します									
8. 文書作成⑤：履歴書・エントリーシートを完成させます									
9. 論作文①：論作文の書き方を学びます									
10. 論作文②：出題されたテーマについて論作文を作成します									
11. 論作文③：前回に引き続き、論作文の作成をおこないます									
12. 文章の要約①：文章の要点を簡潔にまとめる方法を学びます									
13. 文章の要約②：文章を読んで要約文を作成します									
14. 手紙・案内文①：手紙や案内文の書き方を学びます									
15. 手紙・案内文②：手紙や案内文を作成します									
事前学習	配付された資料を予め読んでおいてください。								
事後学習	学習した内容は必ず復習し、課題作成に活かしてください。 また課題作成が遅れている場合、次の授業までに進捗させること。								
履修上の注意	授業への積極的な参加を希望します。 また、実際に文書を作成し、課題として提出してもらいます。								
成績評価の方法・基準	試験は実施しません。提出課題（50%）と受講態度・授業への参加状況（50%）で評価します。なお、課題は必ず提出してください。未提出のものがある場合には評価の対象としないことがあります。								
教科書	プリントを配付します								
参考書	無し								



授業科目	国語表現法				担当者	清水 浩一郎			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専・子専2年
<b>授業の概要</b>									
自己紹介文や手紙文、論作文の書き方や文章の要約、履歴書やエントリーシートなど、各種の文書を書く上での要点を講義します。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
日本語を「読み」・「書き」・「話す」ための要点を理解し、各種文章・文書を実際に作成することで、実践的な日本語表現能力の習得を目標とします。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：授業の概要と履修上の注意について説明します									
2. スピーチ①：人前で話をする際の方法や留意事項について学びます									
3. スピーチ②：自己紹介のスピーチ原稿を作成します									
4. 文書作成①：履歴書や履歴書に添付する文書の書き方を学びます									
5. 文書作成②：履歴書を作成します									
6. 文書作成③：エントリーシートの書き方を学びます									
7. 文書作成④：エントリーシートを作成します									
8. 文書作成⑤：履歴書・エントリーシートを完成させます									
9. 論作文①：論作文の書き方を学びます									
10. 論作文②：出題されたテーマについて論作文を作成します									
11. 論作文③：前回に引き続き、論作文の作成をおこないます									
12. 文章の要約①：文章の要点を簡潔にまとめる方法を学びます									
13. 文章の要約②：文章を読んで要約文を作成します									
14. 手紙・案内文①：手紙や案内文の書き方を学びます									
15. 手紙・案内文②：手紙や案内文を作成します									
事前学習	配付された資料を予め読んでおいてください。								
事後学習	学習した内容は必ず復習し、課題作成に活かしてください。 また課題作成が遅れている場合、次の授業までに進捗させること。								
履修上の注意	授業への積極的な参加を希望します。 また、実際に文書を作成し、課題として提出してもらいます。								
成績評価の方法・基準	試験は実施しません。提出課題（50％）と受講態度・授業への参加状況（50％）で評価します。なお、課題は必ず提出してください。未提出のものがある場合には評価の対象としないことがあります。								
教科書	プリントを配付します								
参考書	無し								

授業科目		英語 I			担当者	佐藤 恵			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
世界の食文化を扱ったテキストを用い、各国の歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解を深めながら実践的な基礎英語力を養う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. USA: Some More S'Mores (Dictation & Reading)									
3. " (Comprehension & Exercises)									
4. Brazil: On the Menu—Meat, Meat and More Meat! (Dictation & Reading)									
5. " (Comprehension & Exercises)									
6. Ethiopia and Eritrea: Coffee is Our Bread (Dictation & Reading)									
7. " (Comprehension & Exercises)									
8. Turkey: The Priest Fainted (Dictation & Reading)									
9. " (Comprehension & Exercises)									
10. Greece: Stolen Meat! (Dictation & Reading)									
11. " (Comprehension & Exercises)									
12. Spain: The Basque Country (Dictation & Reading)									
13. " (Comprehension & Exercises)									
14. France: The Dish That Cost the King His Head (Dictation & Reading)									
15. " (Comprehension & Exercises)									
16. 試験									
<b>事前学習</b>		リスニング以外の予習可能な演習問題については、わからない語を辞書でひきながら予め自分なりに解いてくること。							
<b>事後学習</b>		学習内容を振り返り、特に事前にはわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
<b>履修上の注意</b>		予習をした上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
<b>成績評価の方法・基準</b>		平常点（授業への参加状況および課題発表・提出で総合的に判断する） 40%、学期末試験 60%							
<b>教科書</b>		〔World Cuisine〕〔Tim Wharton 他〕〔英宝社〕〔1,900 円〕							
<b>参考書</b>		なし							

授業科目	英語 I				担当者	佐藤 恵			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活での様々な場面の英語表現を学習していく中で、保育現場のみならず、日常生活で役立つ基礎的な英語力を養う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけ、保育の現場や日常生活での身近な話題に関して、易しく簡潔な文であれば読み書きし、聞き取りすることができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 挨拶と自己紹介									
3. アルファベット									
4. 入学前英語課題復習									
5. 新学期・園の人々・園舎									
6. 登園・家族									
7. 室内あそび・欠席の連絡									
8. 外あそび・遊具									
9. 伝承童謡									
10. 園庭・けんか									
11. 文法① (動詞)									
12. 昼食・献立表									
13. 着替え・おはなし									
14. トイレ・お昼寝									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	リスニング以外の予習可能な演習問題については、わからない語を辞書でひきながら予め自分なりに解いてくること。								
事後学習	学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。								
履修上の注意	予習をした上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	平常点 (授業への参加状況および課題発表・提出で総合的に判断する) 40%、学期末試験 60%								
教科書	〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900円〕								
参考書	なし								

授業科目		英語Ⅱ			担当者	佐藤 恵			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
世界の食文化を扱ったテキストを用い、各国の歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解を深めながら実践的な基礎英語力を養う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. Italy: No Pasta! (Dictation & Reading)									
3. " (Comprehension & Exercises)									
4. Portugal: A Dish for Every Day of the Year (Dictation & Reading)									
5. " (Comprehension & Exercises)									
6. Switzerland: Don't Drop your Bread! (Dictation & Reading)									
7. " (Comprehension & Exercises)									
8. Sweden: The Most Disgusting Smelling Food in the World! (Dictation & Reading)									
9. " (Comprehension & Exercises)									
10. China: Eight Cuisines (Dictation & Reading)									
11. " (Comprehension & Exercises)									
12. India: The Humble Dal (Dictation & Reading)									
13. " (Comprehension & Exercises)									
14. UK: Just What Is a 'Pudding'? (Dictation & Reading)									
15. " (Comprehension & Exercises)									
16. 試験									
事前学習	リスニング以外の予習可能な演習問題については、わからない語を辞書でひきながら予め自分なりに解いてくること。								
事後学習	学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。								
履修上の注意	予習をした上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	平常点（授業への参加状況および課題発表・提出で総合的に判断する）40%、学期末試験 60%								
教科書	〔World Cuisine〕〔Tim Wharton 他〕〔英宝社〕〔1,900 円〕								
参考書	なし								

授業科目		英語Ⅱ			担当者	佐藤 恵			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
保育の英語を扱ったテキストを用い、行事を中心に園生活での様々な場面の英語表現を学習していく中で、保育現場のみならず、日常生活で役立つ基礎的な英語力を養う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけ、保育の現場や日常生活での身近な話題に関して、易しく簡潔な文であれば読み書きし、聞き取りすることができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
-----									
2. 病気・身体の名称									
-----									
3. 感情・緊急連絡									
-----									
4. 園行事① 遠足									
-----									
5. 行事の案内状・電話連絡									
-----									
6. 運動・動作									
-----									
7. 園行事② 運動会									
-----									
8. 散歩(1)・地図									
-----									
9. 散歩(2)・交通									
-----									
10. お絵かき・お手紙									
-----									
11. 文法③ (前置詞)									
-----									
12. 園行事③ クリスマス									
-----									
13. 雪の日・工作									
-----									
14. 降園・お知らせ									
-----									
15. まとめ									
-----									
16. 試験									
<b>事前学習</b>		リスニング以外の予習可能な演習問題については、わからない語を辞書でひきながら予め自分なりに解いてくること。							
<b>事後学習</b>		学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
<b>履修上の注意</b>		予習をした上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
<b>成績評価の方法・基準</b>		平常点 (授業への参加状況および課題発表・提出で総合的に判断する) 40%、学期末試験 60%							
<b>教科書</b>	〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900円〕								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目		情報処理 I				担当者	松尾 広		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心に、情報収集・整理・分析・文書作成・プレゼンテーションへの利用法、インターネット利用法の基礎を解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
一般的なビジネス文書の作成、データの集計・加工とグラフ作成、プレゼンテーションのためのシンプルなスライド作成ができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成 (インデント・タブ・行ぞろえ)									
3. Word による文書作成 (練習問題)									
4. Word による文書作成 (表)									
5. Word による文書作成 (表、練習問題)									
6. Word による文書作成 (図)									
7. Word による文書作成 (図、練習問題)									
8. Excel による表計算 (計算式・関数)									
9. Excel による表計算 (計算式・関数)									
10. Excel による表計算 (関数、練習問題)									
11. Excel による表計算 (グラフ)									
12. Excel による表計算 (グラフ、練習問題)									
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (基本操作)									
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (レイアウト)									
15. まとめの課題 (Word、Excel、PowerPoint)									
<b>事前学習</b>		前回の内容にもう一度目を通しておくこと							
<b>事後学習</b>		もし、つまづいたところがあったら、くりかえしてみること							
<b>履修上の注意</b>		ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。テキストを読み返すなど、自力で解決しようとする手間を惜しまないこと							
<b>成績評価の方法・基準</b>		毎回の授業で提出する課題と受講態度 40%、まとめの課題 60%							
<b>教科書</b>		[実践ドリルで学ぶ Office 活用術] [noa 出版]							
<b>参考書</b>		使用せず							

授業科目		情報処理 I				担当者	松尾 広		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心に、情報収集・整理・分析・文書作成・プレゼンテーションへの利用法、インターネット利用法の基礎を解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
一般的なビジネス文書の作成、データの集計・加工とグラフ作成、プレゼンテーションのためのシンプルなスライド作成ができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成 (インデント・タブ・行ぞろえ)									
3. Word による文書作成 (練習問題)									
4. Word による文書作成 (表)									
5. Word による文書作成 (表、練習問題)									
6. Word による文書作成 (図)									
7. Word による文書作成 (図、練習問題)									
8. Excel による表計算 (計算式・関数)									
9. Excel による表計算 (計算式・関数)									
10. Excel による表計算 (関数、練習問題)									
11. Excel による表計算 (グラフ)									
12. Excel による表計算 (グラフ、練習問題)									
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (基本操作)									
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (レイアウト)									
15. まとめの課題 (Word、Excel、PowerPoint)									
<b>事前学習</b>		前回の内容にもう一度目を通しておくこと							
<b>事後学習</b>		もし、つまづいたところがあったら、くりかえしてみること							
<b>履修上の注意</b>		ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。テキストを読み返すなど、自力で解決しようとする手間を惜しまないこと							
<b>成績評価の方法・基準</b>		毎回の授業で提出する課題と受講態度 40%、まとめの課題 60%							
<b>教科書</b>		[実践ドリルで学ぶ Office 活用術] [noa 出版]							
<b>参考書</b>		使用せず							

授業科目	情報処理Ⅱ				担当者	松尾 広			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
授業の概要									
Word、Excel、PowerPoint の操作と応用、アプリケーション間の連携、説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
栄養価計算・栄養指導用の資料などの作成やデータ処理を効率的に行えるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成 (応用問題)									
3. Word と Excel の連携									
4. Excel による表計算 (データベース、並べ替え、抽出)									
5. Excel による表計算 (データベース、練習問題)									
6. Excel による表計算 (ピボットテーブル)									
7. Excel による表計算 (ピボットテーブル、練習問題)									
8. Excel による表計算 (入力規則)									
9. Excel による表計算 (応用問題)									
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (練習問題)									
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (スタイル)									
12. 説得型プレゼンテーション作成 (構成)									
13. 説得型プレゼンテーション作成 (スライド作成)									
14. まとめの課題 (Word)									
15. まとめの課題 (Excel)									
事前学習	前回の内容にもう一度目を通しておくこと								
事後学習	もし、つまずいたところがあったら、くりかえしてみること								
履修上の注意	ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。テキストを読み返すなど、自力で解決しようとする手間を惜しまないこと								
成績評価の方法・基準	毎回の授業で提出する課題と受講態度 40%、まとめの課題 60%								
教科書	[実践ドリルで学ぶ Office 活用術] [noa 出版]								
参考書	使用せず								



授業科目	情報処理Ⅱ				担当者	松尾 広			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
授業の概要									
Word、Excel、PowerPoint の操作と応用、アプリケーション間の連携、説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
保育の現場で使用される教材・配布物等の作成やデータ管理を効率的に行えるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成 (応用問題)									
3. Word と Excel の連携									
4. Excel による表計算 (データベース、並べ替え、抽出)									
5. Excel による表計算 (データベース、練習問題)									
6. Excel による表計算 (ピボットテーブル)									
7. Excel による表計算 (ピボットテーブル、練習問題)									
8. Excel による表計算 (入力規則)									
9. Excel による表計算 (応用問題)									
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (練習問題)									
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成 (スタイル)									
12. 説得型プレゼンテーション作成 (構成)									
13. 説得型プレゼンテーション作成 (スライド作成)									
14. まとめの課題 (Word)									
15. まとめの課題 (Excel)									
事前学習	前回の内容にもう一度目を通しておくこと								
事後学習	もし、つまずいたところがあったら、くりかえしてみること								
履修上の注意	ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。テキストを読み返すなど、自力で解決しようとする手間を惜しまないこと								
成績評価の方法・基準	毎回の授業で提出する課題と受講態度 40%、まとめの課題 60%								
教科書	[実践ドリルで学ぶ Office 活用術] [noa 出版]								
参考書	使用せず								

授業科目	スタディスキルズ				担当者	食物栄養学専攻教員全員			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「本学の歴史」「施設活用」「生活面も含めた短大生としての学び方」を学習するほか、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指す。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>本学の歴史を理解する。各科目の理解に不可欠な基礎学力（語彙力、計算力、英文法）を身につける。学内における生活上の常識を身につける。学内施設使用の仕方を理解する。一般的な学習方法や学科・専攻の学習目的を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンスおよび短大生活におけるマナー（1年生担任、池田）									
2. 短大における学修について（学長による講話）									
3. 学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）とノートのとり方（池田、1年生担任）									
4. 学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート等）（松尾、他）									
5. e-learning（国語）の後半の学習（伊藤、他）									
6. e-learning（国語）の復習（池田、他）									
7. 学習方法に関するアドバイス（講義・演習・実習の特性、学外実習とその準備について等）（池田、他）									
8. 図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、1年生担任、他）									
9. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、齋藤、伊藤、佐藤、永沼、済渡、益田）									
10. e-learning（数学）の復習（池田、他） ※上記、「7,8,9」は3回並行して行う。									
11. e-learning（英語）の復習（佐藤、他）									
12. 入学前課題の総復習（松尾、他）									
13. 専門科目を学ぶ上での最低限の目標（齋藤、永沼、他）									
14. お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）									
15. 短大生活と就職活動、時事問題、その他の諸注意、各種アンケート（1年生担任、他）									
<b>事前学習</b>	入学前課題を事前に復習しておくこと。								
<b>事後学習</b>	基礎的な学習は授業のみならず就職活動にも役に立ちます。プリントで間違った問題を復習すること。学習方法や生活上の注意は短大生活全般で実践すること。								
<b>履修上の注意</b>	配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前に配られた課題を使用することがあるので指示に従い持ってくる。提出物は期限通り提出すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	提出物の提出状況と内容（100%）。								
<b>教科書</b>	毎回資料を配布する。								
<b>参考書</b>	e-learning の教材								

授業科目	スタディスキルズ				担当者	子ども生活専攻教員全員			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>本学の歴史や施設を知った上で、生活面も含めた短大生としての学び方を学修する。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上と共に、短大における学習がどのように将来と結びつくのか考える。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。</li> <li>・学区内施設利用の仕方を理解する。</li> <li>・学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。</li> <li>・学内における生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。</li> </ul>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス [1年担任・池田 他]									
2. 学習ポートフォリオの記入 [1年担任・池田 他]									
3. 短大における学習について（学長講話）[山田学長]									
4. 学習方法に関するアドバイス（授業形態の特性、学外実習とその準備について）[松尾 他]									
5. 入学前課題（国語：前半）の復習① [山崎・横山 他]									
6. 入学前課題（国語：後半）の復習② [山崎・横山 他]									
7. 図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）[図書館司書・大坪 他]									
8. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学） [山崎・大瀬戸 他]									
9. 入学前課題（数学）の復習 [池田・三浦 他]									
10. 一般教養①（文章表現）[針生・土屋 他]									
11. 一般教養①（漢 字）[山崎・三浦 他]									
12. 一般教養①（地 理）[大瀬戸・安部 他]									
13. 一般教養①（ことわざ）[大坪・横山 他]									
14. 短大生活と就職活動 [就職支援センター・針生 他]									
15. まとめと後期への課題 [1年担任 他]									
事前学習	入学前課題に関する授業の際には、事前に復習しておくこと。								
事後学習	復習に務め、普段の学習・生活に生かすようにする。								
履修上の注意	配布資料はファイルに閉じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。提出物は期限通り提出する。								
成績評価の方法・基準	受講態度・授業への参加状況（50%）提出物の提出状況・内容（50%）								
教科書	事前に必要なプリントを配布する。								
参考書	授業内で指示する。								

授業科目	キャリアアップセミナー				担当者	食物栄養学専攻教員全員			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
発表や思考の補助手段としての手法（コンセプトマップ、ピラミッドストラクチャ）を学ぶ授業を行う。ブレインストーミング、電話対応演習（ロールプレイ）などを通して、コミュニケーションの方法やビジネスマナーを学ぶ授業を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考えたとともに他者の意見を傾聴するなどコミュニケーション能力を身につけること。</li> <li>・チームで問題解決をするための能力を修得すること。</li> <li>・就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了すること。</li> </ul>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学習ポートフォリオ記入（池田、1年生担任）									
2. コンセプトマップとは何か。（池田）									
3. コンセプトマップを活用した自己紹介と、その他の活用法（池田）									
4. ブレインストーミング① 「ブレインストーミングとは何か」「テーマ設定」（松尾、池田）									
5. ブレインストーミング② 「ブレインストーミングとKJ法の実践」（松尾、池田、齋藤、伊藤、佐藤、永沼、益田、済渡）									
6. ブレインストーミング③ 発表準備（松尾、池田、齋藤、伊藤、佐藤、永沼、益田、済渡）									
7. ブレインストーミング④ 発表（同上）									
8. 説明と質問の発想方法① 5W1Hの活用法とピラミッドストラクチャ（池田）									
9. 説明と質問の発想方法② 説明とは疑問に答えるプロセスである（ピラミッド構造の活用）（池田）									
10. 履歴書、添え状、封筒の常識（池田、齋藤、佐藤）								下記12,13と並行	
11. エントリーシートを書くための自己PR作成（池田、齋藤、佐藤）								下記12,13と並行	
12. 言葉の使い方と電話対応の基本（松尾、伊藤、永沼、益田、済渡）								上記10,11と並行	
13. 電話対応の練習（実践的な例）（松尾、伊藤、永沼、益田、済渡）								下記10,11と並行	
14. キャリアデザインとビジネスマナー（外部講師による）									
15. 就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（池田、1年生担任）									
事前学習	ブレインストーミング等、道具が必要となる場合には、授業前から準備すること。発表など際には事前の準備を行うこと。								
事後学習	授業で作成した文書はのちに役に立つものなので、ファイルに綴じ整理し、必要時に参照すること。								
履修上の注意	自ら参加することが大事な授業なので、積極性を持って取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	提出物の提出状況と内容（100%）。								
教科書	毎回資料を配布する。								
参考書	e-learningの教材								

授業科目		キャリアアップセミナー			担当者	子ども生活専攻教員全員			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
短大生活及び保育・教育実習や就職活動、その後の社会生活を送るために必要なスキル（マナー、文章指導や一般教養など）を学ぶようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
学生・社会人としてのマナーや一般教養を学びながら、卒業時に保育関係の職場への就職とそこで働き続けるために必要な力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション [1年担任 他]									
2. 挨拶と言葉遣い [土屋・安部・三浦 他]									
3. 服装と礼儀作法 [土屋・大瀬戸 他]									
4. 食事のマナー [山崎・横山 他]									
5. 掃除の仕方 [大坪・針生 他]									
6. キャリア教育①（保育者セミナー） [就職支援センター 他]									
7. 手紙の書き方 [1年担任 他]									
8. キャリア教育②（ファッション講座） [就職支援センター 他]									
9. 履歴書・実習生調書の書き方①（説明） [針生・土屋・安部]									
10. 履歴書・実習生調書の書き方②（記入） [針生・土屋・安部]									
11. キャリア教育③（就職情報サイトの活用） [就職支援センター 他]									
12. 面接・自己PRの仕方①（説明と原稿作成） [大坪・横山 他]									
13. 面接・自己PRの仕方②（実際の練習） [全教員]									
14. キャリア教育④（公務員試験について） [針生・就職支援センター 他]									
15. キャリア教育⑤（2年就職内定者報告会） [2年担任]									
事前学習	入学前課題に関する授業の際には、事前に復習しておくこと。								
事後学習	復習に務め、普段の学習・生活に生かすようにする。								
履修上の注意	配布資料はファイルに閉じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。提出物は期限通り提出する。								
成績評価の方法・基準	受講態度・授業への参加状況（50%）提出物の提出状況・内容（50%）								
教科書	事前に必要なプリントを配布する。								
参考書	授業内で指示する。								

授業科目		キャリアサポートセミナーⅠ			担当者	大学教職員				
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	食専1年	
<b>授業の概要</b>										
様々な外部講師の講話、ワークシートの作成、グループワーク、模擬試験等を通じ、自己理解、職業・業界・企業理解、基礎学力養成等を具体的に指導し、就職内定に至る現実的方法を学ぶ。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
①広い視野で考え、将来の進路を選択・決定する力を身につける。 ②書類選考、SPI、面接等の就職選考試験に合格する力を身につける。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. 人生の楽しみ方(働くことの意義)					16. 第2回SPI模擬試験					
2. アンガーマネジメント(感情のコントロール)					17. ビジネスマナーセミナー(マナーの基本)					
3. 就活スタートアップ(就活の現状・基礎知識)					18. プレゼンテーションセミナー(魅力的な表現法)					
4. 第1回SPI模擬試験					19. SPI模擬試験解説会(非言語編)					
5. 公務員試験・教員採用試験ガイダンス					20. SPI模擬試験解説会(言語編)					
6. 自己理解Ⅰ(自分から見た自分)					21. ES・履歴書セミナーⅠ(ES・履歴書の意味)					
7. 自己理解Ⅱ(他者から見た自分)					22. ES・履歴書セミナーⅡ(自己PR)					
8. 職業理解Ⅰ(世の中の流れ・仕組み・働く意味)					23. ES・履歴書セミナーⅢ(志望動機)					
9. 進路を考えるセミナー(幅広い視野で進路を考える)					24. 面接対策セミナーⅠ(面接の基本)					
10. 職業理解Ⅱ(業種・職種・様々な働き方)					25. 面接対策セミナーⅡ(ロールプレイ)					
11. 職業理解Ⅲ(他者の力を借りた職業理解)					26. ワークルールセミナー(労働法の基礎知識)					
12. SPIセミナーⅠ(損益算、仕事算、割合)					27. 産学連携協議会セミナー(求める人材像)					
13. SPIセミナーⅡ(速さ、集合)					28. 総括セミナー(この1年の振り返り)					
14. SPIセミナーⅢ(組合せ、確率、グラフの領域)					29. 人事採用担当者セミナー(求める人材像)					
15. SPIセミナーⅣ(同義語・反義語・文章理解)					30. 内定者による就活報告会(内定者から学ぶ)					
<b>事前学習</b>		授業の際に次回の内容を予告するので、そのことについて予習すること。								
<b>事後学習</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みを把握して強みは一層強化し、弱みは克服するよう意識すること。</li> <li>授業中に指導された内容を必ず次回の授業までに復習して、確実に身につけておくこと。</li> </ul>								
<b>履修上の注意</b>		この授業は、就職活動に必要な要素を盛り込んでいる。授業に集中し、就職決定力向上に努めること。授業中のおしゃべり、居眠り、無断欠席は厳禁である。								
<b>成績評価の方法・基準</b>		授業態度(50%)、課題提出(50%)								
<b>教科書</b>		授業時にプリントを配布する								
<b>参考書</b>		内定のツボ [佐川泰宏] [東京アカデミー] [1,000円]								

授業科目	キャリアサポートセミナーⅡ				担当者	大学教職員			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b> 具体的な就職活動を通して、就職内定が得られるように、実践的な体験型学習など各種 集団指導や個別指導を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> ① グループディスカッション、小論文の基礎力を身につける。 ② 就職活動中及び将来働く上で必要な労働法の基礎知識を身につける。 ③ 現在の就職環境を理解する									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 一歩踏み出す勇氣 (就活生へのエール)									
2. グループディスカッション (GD) セミナーⅠ (GDとは、自由討論型GD体験)									
3. グループディスカッション (GD) セミナーⅡ (ディベート型GD・企画型GD体験)									
4. グループディスカッション (GD) セミナーⅢ (課題解決型GD体験、全体振り返り)									
5. 小論文セミナーⅠ (小論文の基本、課題取組み)									
6. 小論文セミナーⅡ (課題取組み、全体振り返り)									
7. ワークルールセミナー (労働法の基礎知識)									
8. これからの就職活動 (就職環境、今後の見通し)									
9. 学内単独会社説明会Ⅰ (会社名後日発表 任意参加)									
10. 学内単独会社説明会Ⅱ (                    "                    )									
11. 学内単独会社説明会Ⅲ (                    "                    )									
12. 学内単独会社説明会Ⅳ (                    "                    )									
13. 学内単独会社説明会Ⅴ (                    "                    )									
14. 学内単独会社説明会Ⅵ (                    "                    )									
15. 学内単独会社説明会Ⅶ (                    "                    )									
事前学習	自宅履歴書・ESや論作文を書いた上で授業を受講し、改善すべき課題を把握できるようにすること。また、筆記試験対策を怠らないこと。								
事後学習	授業で把握した改善すべき課題の解決に取り組み、就職支援センターの添削、模擬面接等のサポートを受けること。								
履修上の注意	毎回定められた授業に出席すること。指示された課題に誠実に取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	授業態度 (50%)、課題提出 (50%)								
教科書	授業時にプリントを配布する								
参考書	授業中に指示								

# 生活文化学科基幹科目



# 生活文化学科基幹科目

授業科目	生活文化概論				担当者	伊藤 常久			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食・子専1年
<b>授業の概要</b>									
生活と文化との関わりとその全体像の理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について概観しながら、私たちにとって「生活文化とは何か」について、主体的に考えていけるよう解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
生活文化を多角的な視点から捉えることで、生活文化における自分たちの位置づけについて思考できるようになることに加え、将来、生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス (授業の位置づけ、進め方、アンケート)									
2. 生活文化とは									
3. 生活文化の関連領域 (家政学や生活学との関わり)									
4. 生活と文化 (福祉、健康、安全、幸福など)									
5. 生活史 (江戸時代の生活、生活と職業)									
6. 生活史 (明治、大正時代の生活)									
7. 生活史 (昭和から現在までの生活)									
8. 生活文化とジェンダー、家族、確認テスト1									
9. 生活文化と保育、子育て									
10. 生活文化と食、栄養									
11. 生活文化と衣、ファッション									
12. 生活文化と住環境									
13. 生活文化と芸術									
14. 生活文化と情報									
15. これからの生活文化、まとめ、確認テスト2									
事前学習	授業内容として取り上げる概念や知識等について、関連する書籍や資料をもとに可能な範囲で調べて予習しておくこと。								
事後学習	授業で扱った内容については、配布プリントを参考により理解を深めるよう復習を行うこと。								
履修上の注意	授業中の私語は慎むこと。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出 (50%)、提出課題 (30%)、確認テスト (20%)。								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目		生活文化各論				担当者	生活文化学科教員全員		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食・子専1年
<b>授業の概要</b>									
短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野に関連する話題を通じて、生活文化を多様な視点から考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。生活文化における自分たちの位置づけを考えることができるようになること。生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになること。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス (松尾) 授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内など) 情報社会におけるセキュリティについて (松尾)									
2. 生活・文化史 (針生)									
3. 生と性 (土屋)									
4. 離乳期の咀嚼機能獲得について (済渡)									
5. 生活文化と社会福祉 (大瀬戸)									
6. 栄養補給ルートと QOL の関係 (済渡・益田)									
7. 絵本と生活文化 (三浦)									
8. 食べ物の情報と本当の食の安全 (永沼)									
9. 子どもと遊び (山崎)									
10. 情報化社会における生活文化の変化 (池田)									
11. 生活文化と安全安心 (伊藤)									
12. 暮らしの中の音楽 (大坪)									
13. 英国の生活文化と伝承童謡 (佐藤)									
14. 保育園・幼稚園での主な集団感染事例と発生予防 (齊藤)									
15. 振り返り・・・(池田), 自分と生活文化 (まとめの作文) … (伊藤)									
<b>事前学習</b>	テーマごとに作文を書くので、資料と作文を組み合わせ、うまく整理しておくこと。								
<b>事後学習</b>	最終回に自分との生活文化との関わりについてまとめるので、そのために必要な情報 (授業の資料や新聞ニュース等) を日ごろから整理していきましょう。								
<b>履修上の注意</b>	作文は期限通り提出しましょう。やむをえず欠席した場合でも、資料をもらい、提出物が出せるよう努力しましょう。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	各回の作文内容 (94%) とファイル提出 (6%)。								
<b>教科書</b>	毎回資料を配布する。								
<b>参考書</b>	なし								

# 食物栄養学専攻専攻科目

# 食物栄養学専攻専攻科目

授業科目	健康づくりとレクリエーション			担当者	伊藤 常久				
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
レクリエーションに関する基礎理論を理解すると共に、コミュニケーションゲームやダンス等、健康づくりに向けた集団によるレクリエーション演習を行う。また、対象等に応じてレクリエーションを支援できる技術について演習・解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
レクリエーションについての理解を深め、人（個・集団）とコミュニケーションする能力及びコミュニケーションを促進する方法を身につける。対象や場に応じた健康づくりにつながるレクリエーションとその支援のための技術を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
-----									
2. コミュニケーション・ワーク①アイスブレイキングの意義									
-----									
3. コミュニケーション・ワーク②アイスブレイキングのプログラミング									
-----									
4. コミュニケーション・ワーク③ホスピタリティとその示し方									
-----									
5. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク①アクティビティとは									
-----									
6. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク②アクティビティの提供									
-----									
7. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク③健康づくりのアクティビティ									
-----									
8. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク④指導実習（相互指導）									
-----									
9. 対象にあわせたレクリエーション・ワーク①基本技術									
-----									
10. 対象にあわせたレクリエーション・ワーク②段階的アレンジ									
-----									
11. 素材とアクティビティの活用①チャレンジ・ザ・ゲーム									
-----									
12. 素材とアクティビティの活用②ニュースポーツ（フライングディスク）									
-----									
13. 素材とアクティビティの活用③ニュースポーツ（ラダーゲッター）									
-----									
14. 素材とアクティビティの活用④ウォークラリー									
-----									
15. レクリエーション活動と評価、まとめ									
-----									
<b>事前学習</b>	授業前に配布資料を読み、授業のねらいや内容を予め把握しておくこと。								
<b>事後学習</b>	配布プリントを参考に自分が実施・指導できるように充分復習すること。								
<b>履修上の注意</b>	実際に体験することがレクリエーションでは重要であり、毎回扱う内容も異なる。出席だけでなく、積極性・主体性を重んじる。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	受講態度：授業への参加・取組状況（70%）、レクリエーション活動での指導・発表（30%）。								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。								
<b>参考書</b>	〔レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～〕〔公益財団法人日本レクリエーション協会編〕〔公益財団法人日本レクリエーション協会〕〔2,160円〕								

授業科目	健康調査法演習				担当者	伊藤 常久			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
健康とは、身体的、精神的、社会的な能力が相互に調和し、且つ良好な状態であると定義されている。この授業では、健康の諸側面をどのように捉えるのか、実際の健診や地域や学校で行われている体力測定並びに質問紙調査の考え方とその方法を中心に解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
人々の健康状態を知る手立てとして、体力・筋力に関する測定のほか、生活習慣や心理・社会的なアンケート調査の方法について、演習を通じて学ぶ。健康観の多様性を踏まえながら、健康の諸段階（レベル）とその把握の仕方について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 健康調査法演習について（ガイダンス）									
2. 健康の定義、健康指標、国民健康栄養調査									
3. 健康とライフステージ、体力の基本構造									
4. 体格・体型の測定①（身体組成とは：身長、体重）									
5. 体格・体型の測定②（体脂肪、除脂肪体重、BMI）									
6. バイタルサイン（脈拍、呼吸、血圧、体温）									
7. 体力の測定①（パワーと持久性：握力、足底筋力、歩数）									
8. 体力の測定②（柔軟性と平衡性：長坐位体前屈、開・閉眼片足立ち）									
9. 測定結果の扱い方（データの評価と解釈）									
10. アンケート調査①（健康意識：健康度自己評価、健康満足度）									
11. アンケート調査②（健康行動：ライフスタイル、生活習慣）									
12. アンケート調査③（健康心理：ストレス、抑うつ、）									
13. アンケート調査④（健康社会：社会的支援、社会関係資本）									
14. 調査結果の扱い方（データの評価と解釈、測定・調査結果との関連）									
15. まとめ									
事前学習	該当する内容あるいはキーワードについて、関連する書籍や資料をもとに予め調べておくこと。								
事後学習	講義で扱った内容は必ず復習し、配布プリントを参考に理解を深めること。								
履修上の注意	遅刻や欠席が多い学生は、成績評価の対象から外す場合がある。								
成績評価の方法・基準	受講態度（50%）、レポート（50%）。								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目	有機化学				担当者	菅野 修一			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
身の回りのあらゆる場面に存在する有機化合物を分子レベルで理解するため、物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合の仕組みを知ること重点を置く。ここでは有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
身の回りの多くの”もの”が有機化合物からなることを理解し、”もの”と化学式の関連を理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養学における有機化学の重要性の認識について									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用									
7. 分子式、組成式、次性式、有機化合物の異性体									
8. 分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造									
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子体									
12. 非共有電子体、配位結合、金属結合、不対電子									
13. メタン分子、軌道電子昇位、混成軌道、 $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名									
16. 試験									
事前学習	教科書の指定ページの熟読。								
事後学習	小テストの準備。								
履修上の注意	予習・復習をしっかりと行うこと。								
成績評価の方法・基準	毎回行う小テスト 30%・課題レポート 30%、期末試験 40%を総合的に評価する。								
教科書	[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する								

授業科目	数学基礎演習				担当者	池田 展敏			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b> 到達目標にあるような数学の基礎的項目について、問題を解くなどの演習を行う。日常生活や、栄養・調理、さらに統計学に役に立つ計算能力が身につくよう課題を出していく。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 次にあげる数学に関連する基礎的知識や計算技術を習得する。「数量感覚」「式と計算」「いろいろな単位」「方程式」「濃度」「場合の数・順列・組み合わせ」「図形」「グラフの意味と描画」「比例と一次関数」「指数関数」									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンスと栄養価計算の基本例題									
2. 式と計算（四則演算と計算規則、式の展開など）									
3. 数量感覚の演習									
4. 分数と割合の計算									
5. 基本的な単位									
6. 濃度、速度、エネルギーなど、いろいろな単位									
7. 化学等への応用(モル濃度、密度)									
8. 前半のまとめ									
9. 一次方程式、連立一次方程式									
10. 比例とグラフ									
11. 数列									
12. 数列とグラフ（2次関数、指数関数などのいろいろな関数）									
13. 2次関数とグラフ図形（直角三角形と合同）									
14. 順列と組み合わせいろいろな場合の数									
15. 総合問題									
事前学習	高校の初年次レベルの問題を復習する内容なので、e-learning 等を活用し、各回の内容に照らし合わせて復習しておくこと。								
事後学習	出題された問題のうちわからない所は、質問等を積極的に行い解決に努めること。小テストの対策と復習を行うこと。								
履修上の注意	問題プリントが多数あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。電卓を使う時があるので用意しておくこと。								
成績評価の方法・基準	ノート提出・提出物状況等の授業への取り組み方（50%）、小テスト（50%）。								
教科書	パワーポイントの資料を配布する。								
参考書	なし								

授業科目	栄養情報処理演習				担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>業務上必要となるさまざまな文書（連絡文書、チケットなど）や、エクセルの各種関数を活用したデータ処理、ウェブページの基本について、パソコンを操作しながら学べるようにする。「画像の活用」や「実際に印刷する」ことを意識して授業を行う。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>「word」を活用して、画像情報の活用やレシピ表のレイアウトができる。専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。エクセルを活用し、栄養価計算など栄養に関わる情報処理ができるようになる。アンケート調査の一連の流れ（調査計画、用紙作成、結果集計、表・グラフの活用、統計処理）を理解する。ウェブページの基本を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 授業の内容、進め方、画像情報入力の確認					16. エクセルによる簡易的な栄養価計算				
2. 表と画像を活用したレシピ表の作成					17. エクセル（ドロップダウン）				
3. 別メニューを同一レイアウトで作成					18. エクセル（vlookup）				
4. シール作成ソフトの使い方と注意点					19. レーダーチャートの基本				
5. シールの印刷					20. 栄養価計算 1（シートの活用法）				
6. チケット作成ソフトの使い方と注意点					21. 栄養価計算 2（表名前・食品群を整理）				
7. チケットの印刷					22. 栄養価計算 3（栄養価データ入力）				
8. 統計調査の目的、方法など					23. 栄養価計算 4（実例の入力）				
9. アンケート用紙の作成					24. レーダーチャートによる評価				
10. アンケート結果の集計					25. （エクセル）栄養価計算への応用				
11. アンケート結果の集計の続き					26. ウェブページの基本				
12. 統計調査のデータ解析（度数分布）					27. ウェブページ（リンクや写真活用）				
13. 統計調査のデータ解析（散布図）					28. ウェブページコンテンツを考える				
14. 統計調査のデータ解析（クロス表集計）					29. 給食便りとしてのコンテンツを考える				
15. 統計調査のデータ解析（検定）					30. 補足事項とまとめ				
事前学習	配った資料に目を通し、前回とのつながりを意識して授業に臨むこと								
事後学習	授業時間で完成しなかった提出物については、空き時間等を利用し完成を目指すこと。わからない点などは質問にくること。								
履修上の注意	配った資料はファイルに閉じ整理に努めること。提出物の期限を守ること。								
成績評価の方法・基準	提出物（100%）								
教科書	パワーポイントの資料を配布する。								
参考書	〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕								



授業科目	学校・地域の安全安心 (防災及び救急処置を含む)				担当者	伊藤 常久					
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年		
<b>授業の概要</b>											
<p>学校や地域での保健・安全について、健康問題、安全上の課題等について取り上げながら概観する。心身の健康問題は勿論のこと、自然災害に対する防災・減災にも触れながら、学校生活や地域生活において子どもの安全・安心を守るための考え方について論述する。</p>											
<b>授業の目標(到達目標)</b>											
<p>子どもの命と安全に関わる課題とその対策には、幼稚園や保育所、学校における専門職(養護教諭や保育士、保健体育科教員)のみならず、地域全体で取り組む必要があるものが少なくない。この授業では、①現在の学校や地域における保健と安全に関する活動を知ると共に、②子どもの命と健康、安全安心を守るための基本的な考え方について理解する。</p>											
<b>授業計画及び内容</b>											
1. ガイダンス											
2. 学校・地域とは、安全安心の意義											
3. 学校や地域等での事故や災害に対する法制度											
4. 学校や地域における事故と現状											
5. 安全教育と事故予防											
6. 救護方法① 救急処置の理論と実践(止血法、搬送法)											
7. 救護方法② 心肺蘇生法の理論と実践											
8. 学校や地域における災害と現状											
9. 阪神淡路大震災・東日本大震災・近年の自然災害とその教訓											
10. 災害時の人の心理・行動											
11. 災害情報システム											
12. 「考える」防災教育											
13. 防災対策① 自助の意義、耐震化・安否確認・水食料等の備蓄											
14. 防災対策② 共助の意義、学校と地域の避難所											
15. 学校と地域における保健安全の連携、まとめ											
事前学習	講義で取り上げる事柄やキーワードについて、関連する書籍や資料をもとに予め調べておくこと。										
事後学習	学習した内容は必ず復習し、配布プリントを中心に理解を深めること。										
履修上の注意	マス・メディアを通じて報道される子どもの健康や安全に関する問題について、普段から関心を持つこと。										
成績評価の方法・基準	受講態度(50%)、レポート(50%)。										
教科書	授業前にプリントを配布する。										
参考書	なし										

授業科目	社会福祉論				担当者	伊藤 常久			
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
日本や諸外国における社会福祉の歴史や発展について触れながら、少子高齢化の進む日本における高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉のあり方と課題について解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
日本における社会福祉の概念や制度、歴史について知ると共に社会福祉と個人並びに社会生活との関連について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは									
2. 日本における社会福祉の歴史と発展									
3. 諸外国における社会福祉の歴史									
4. 社会福祉のニーズとは									
5. 社会福祉に携わる専門職									
6. 社会福祉援助技術									
7. 諸外国における社会福祉の現状とその制度 (VTR)									
8. 障害者福祉・身体障害者補助犬法									
9. 高齢者福祉									
10. 児童福祉									
11. 子どもの権利条約									
12. 貧困問題と社会福祉									
13. ボランティア									
14. これからの社会福祉									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	該当する内容あるいはキーワードについて、予め調べておくこと。								
事後学習	講義で扱った内容は必ず復習し、理解を深めること。								
履修上の注意	講義毎のテーマに関連した文献や資料を熟読し、参考にする。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出(50%)、筆記試験(50%)。原則として追・再試験は行わない。								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目		公衆衛生学				担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生学との関係について説明し、公衆衛生の概念や歴史に関しても触れながら制度や法規、公衆衛生活動等について、我が国と海外のデータを示しながら具体的に解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
個人や集団を対象とする健康の保持増進や疾病予防に関する理論と合わせ、実際に行われる公衆衛生活動及び保健・医療・介護システム等の概要について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス、公衆衛生学とは、健康の概念									
2. 健康指標									
3. 疫学とは									
4. 疫学と研究デザイン									
5. 主要疾患の現状と予防対策									
6. 生活習慣と保健行動（グループワーク）									
7. 保健行動の理論									
8. ヘルスプロモーション									
9. 健康日本 21（第2次）									
10. 環境と健康									
11. 産業保健									
12. 医療制度・介護保険制度									
13. 母子保健・健やか親子 21									
14. 学校保健									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	教科書の該当する内容を予め読んでおくこと。								
事後学習	講義で扱った内容は必ず復習し、テキスト及び配布プリントを中心に理解を深めること。								
履修上の注意	講義毎のテーマに関連した文献や資料を熟読し、参考にする。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。原則として追・再試験は行わない。								
教科書	〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024円〕								
参考書	なし								

授業科目	健康管理概論				担当者	伊藤 常久			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b> 日本は世界でも有数の長寿国となっているが、健康を保持・増進するためには心身の健康管理に加え、社会的な健康を高めることも重要である。健康づくりに不可欠な運動・栄養・休養の意義について概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 国内外の疾病構造の変遷（感染症、生活習慣病等）を踏まえ、運動・栄養・休養を柱とする健康管理のあり方について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス（授業の位置づけ、進め方、アンケート）									
2. 健康とは（定義・歴史）									
3. 日本の人口構造と平均寿命の変遷									
4. 高齢化と少子化社会と健康									
5. 現代の健康状態と疾病									
6. ライフスタイル、生活習慣の現状と課題									
7. メタボリックシンドロームと予防									
8. 健康を支えるからだの仕組み									
9. 体脂肪、BMI、基礎代謝と健康									
10. 栄養と健康									
11. 運動・体力と健康									
12. ストレス・休養と健康									
13. 加齢・老化と健康									
14. 社会関係資本と健康									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	授業内容として取り上げる概念や知識等について、関連する書籍や資料をもとに可能な範囲で調べて予習しておくこと。								
事後学習	授業で扱った内容については、配布プリントを参考により理解を深めるよう復習を行うこと。								
履修上の注意	授業中の私語は慎むこと。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目	解剖生理学				担当者	大崎 雄介			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
解剖学は人体の構造を、生理学は人体の機能を学ぶ。機能と構造は密接に関わることから、本授業では解剖学と生理学とを関連づけながら講義する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
人体の構造と機能に関する知識を基にした栄養指導や栄養教育ができる栄養士となるために、人体の構造と機能に関する基本的な知識を習得することが目標である。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション、細胞の構造と機能									
2. 組織の構造と機能・皮膚の構造と機能・体温調節									
3. 血液・免疫系									
4. 呼吸器系									
5. 循環器系									
6. 腎臓・泌尿器系									
7. 生殖器系									
8. 内分泌系									
9. 神経系									
10. 感覚器系									
11. 骨格系									
12. 筋系									
13. 消化器系 1 (上部消化器系)									
14. 消化器系 2 (下部消化器系)									
15. まとめと復習									
事前学習	教科書に沿って授業を進めるので、事前に教科書を読んで予習すること。								
事後学習	ノートを作成し、疑問点などを整理して復習すること。授業内容の資料を配付するので予習・復習に活用し、疑問点は次回の講義中に質問すること。								
履修上の注意	解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要であるので、事前に生物学の復習を行っていることが望ましい。								
成績評価の方法・基準	受講態度 60% (小テスト等による評価を含む。) レポート 40%								
教科書	[栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能] [志村二三夫 他 編] [羊土社] [3132 円]								
参考書	無し								

授業科目		運動生理学			担当者	土井 豊			
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>本授業では、運動に伴う生理的な諸現象を理解し、運動実施者の特性に応じた適切な運動の強度・時間・頻度等の設定を考慮した運動処方作成に必要な内容について解説する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>運動は、健康づくりの3本柱として栄養・休養とともに位置づけられている。そこで本授業では、運動時の生理的反応について理解するとともに、生活習慣病予防や要介護予防に必要な運動処方を作成するための知識を習得する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 「運動生理学」概説(ガイダンス)									
2. 健康づくりのための「健康運動」の重要性について									
3. 運動と呼吸系の生理学：運動時における呼吸機能のしくみ									
4. 運動と循環系の生理学：運動時における循環機能のしくみ									
5. 運動と筋肉の生理学：筋肉の種類やトレーニングによる筋肉の変化等について									
6. 運動とエネルギー代謝：運動時におけるエネルギー供給系について									
7. 代謝からみた運動能力：有酸素運動と無酸素運動について									
8. 運動と環境について：暑さ寒さと運動、及び気圧と運動等について									
9. 健康・体力づくりのためのトレーニングの基礎について									
10. 運動処方の基礎：運動処方の手順と留意事項について									
11. 生活習慣病と運動処方1：肥満者のための運動処方の実際について									
12. 生活習慣病と運動処方2：メタボリックシンドロームと運動処方の実際について									
13. 生活習慣病と運動処方3：ロコモティブシンドロームと運動処方の実際について									
14. 高齢者のための運動処方：老化による身体機能低下に対する運動処方の実際について									
15. まとめ及び総括									
16. 期末試験									
<b>事前学習</b>	授業内容に関する事柄を予習する。								
<b>事後学習</b>	復習を通じて、授業内容の確認、及び不明な点の発見と解決を行う。								
<b>履修上の注意</b>	正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	受講態度と随時課すレポート、及び期末試験の成績を基に総合的に評価する。その内訳については、受講態度50%、レポート10%、期末試験40%。								
<b>教科書</b>	〔健康のためのスポーツ生理学〕〔池川繁樹編著〕〔光生館〕〔1,800円〕								
<b>参考書</b>	適宜紹介する。								

授業科目	生化学					担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>生化学とは生命現象を生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>生体を構成する各成分の種類と構造およびこれらの化学的性質・生体機能を理解できるようになることを目標とする。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 生化学とは、細胞の構造、生体構成成分									
2. タンパク質・アミノ酸の化学：アミノ酸とは、アミノ酸の種類									
3. タンパク質・アミノ酸の化学：アミノ酸の性質、タンパク質とは									
4. 糖質の化学：糖質とは、糖質の分類・性質									
5. 脂質の化学：単純脂質、複合脂質、脂肪酸の特徴と種類									
6. 酵素：酵素とは、酵素の分類と性質									
7. 糖質の代謝：解糖系									
8. 糖質の代謝：クエン酸回路									
9. 中間試験、エネルギー代謝：電子伝達系									
10. 脂質の代謝：トリアシルグリセロールの代謝、脂肪酸の $\beta$ -酸化									
11. 脂質の代謝：リン脂質・コレステロールの代謝									
12. タンパク質・アミノ酸の代謝：体内でのアミノ酸の利用、尿素回路									
13. 情報高分子の構造と機能：核酸の種類・構造と機能									
14. 情報高分子の構造と機能：タンパク質の生合成									
15. 個体の調節機能と恒常性									
16. 試験									
事前学習	教科書・参考書の授業範囲を熟読すること。これまでに学習した栄養学等の学習内容と関連が深いので参照して、以前の学習内容の復習をしておくこと。								
事後学習	板書ノート・配布資料を見直して授業の復習をすること。								
履修上の注意	内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。								
成績評価の方法・基準	中間試験・・・30%、期末試験・・・60%、平常点（提出物等）・・・10%								
教科書	〔わかりやすい生化学〕〔林 寛他〕〔三共出版〕〔2,592円〕								
参考書	無し								



授業科目		病理学			担当者		曾根 正彦		
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
病理学は医学全体と密接に関連しており、その基本をなす学問である。この授業では主に病理学の総論として病因、退行性病変・代謝異常、循環障害、進行性病変、炎症、免疫、感染症、腫瘍、先天異常、老化などを講義する。また講義内容に関して共同学習し、学習成果の発表を授業中に2回行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
栄養士の仕事は種々の医療分野に関連している。病理学は病気の本質を明らかにする学問であり、様々な疾病に対応できる栄養の専門家になれるよう、病理学の基本的知識を習得することを目標とする。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション、病因(内因、外因) 共同学習グループ分け									
2. 退行性病変と代謝異常(退行性病変:萎縮・変性・壊死) 共同学習テーマ選択									
3. 退行性病変と代謝異常(物質代謝異常) 共同学習									
4. 循環障害(局所の循環不全) 共同学習									
5. 循環障害(全身の循環不全)、進行性病変(細胞の増殖と再生、化生) 共同学習									
6. 進行性病変(肥大と過形成、創傷治癒) 共同学習									
7. 共同学習 1回目のプレゼンテーション									
8. 炎症(炎症の原因、炎症に関与する細胞と化学伝達物質) 共同学習									
9. 炎症(炎症局所にみられる基本的変化、炎症の分類、炎症の全身反応) 共同学習									
10. 免疫(免疫応答のしくみ、免疫担当細胞、液性免疫と細胞性免疫) 共同学習									
11. 免疫(アレルギーのしくみ、自己免疫疾患、免疫不全) 共同学習									
12. 感染症(発症とその防御、院内感染、人畜共通感染症、感染症法など) 共同学習									
13. 腫瘍(種類と名称、腫瘍の形態、腫瘍の発育、腫瘍と宿主) 共同学習									
14. 共同学習 2回目のプレゼンテーション									
15. 腫瘍(悪性度の病期、腫瘍の原因、腫瘍の疫学、腫瘍の分類)、先天異常、老化など									
16. 試験									
事前学習	教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を読んで予習し、分からないところがあったら講義中に質問すること。協同学習のテーマの内容をよく学習すること。								
事後学習	自分のノートを作り知識を整理しながら復習すること。講義中に理解できないところや疑問点があったら講義中または講義終了後に質問すること。								
履修上の注意	病理学の学習のためには生物学、解剖生理学の知識が重要である。以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習することが望ましい。								
成績評価の方法・基準	期末試験(60%程度)、共同学習発表(30%程度)と受講態度(10%程度)で評価する。								
教科書	[わかりやすい病理学][岩田隆子監修][南江堂][2,700円]								
参考書	使用せず。								



授業科目	食品学					担当者	永沼 孝子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割について解説する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
食品を構成する各成分の化学的理解や、食品の各成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得し、おいしく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境									
2. 水分 (1) 水の構造と性質									
3. 水分 (2) 水が食品中で果たす役割、食品成分表について									
4. 炭水化物 (1) 糖の種類と構造									
5. 炭水化物 (2) 糖の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖									
6. 脂質 (1) 脂肪酸の構造と性質									
7. 脂質 (2) 油脂の酸化、脂質の栄養									
8. タンパク質 (1) タンパク質の構造と構成アミノ酸									
9. タンパク質 (2) タンパク質の性質と栄養価									
10. 脂溶性ビタミン									
11. 水溶性ビタミン									
12. ミネラル									
13. 食品の呈味成分、色素、香気成分									
14. 食品の機能性成分、食品の物性とおいしさ									
15. これまでのまとめ									
16. 試験									
事前学習	受講するにあたって、講義内容が良く理解できるように、事前に教科書にて授業概要に記された内容を概覧しておく。								
事後学習	教科書、ノートを見直して講義内容を整理し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして疑問点を解決する。								
履修上の注意	正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートをしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。								
成績評価の方法・基準	平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20%，学期末の試験 80%の割合で評価する。								
教科書	[新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論（第2版）] [化学同人] [2,808円]								
参考書	なし								

授業科目		食品機能学				担当者	齋藤 紀行				
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年		
<b>授業の概要</b>											
食品が持つ三次機能とは何か、その評価法について学ぶ。また、生体の生理機能に作用する食品成分を科学的に解説し、それぞれの食品に含まれる機能成分とその生体に作用する機序について解説する。											
<b>授業の目標(到達目標)</b>											
食品中には、栄養成分以外に生体の生理機能に働く成分がある。栄養士には、食品が持つ機能成分を十分理解することが理解することが求められる。本授業では、食品中のどの成分が、生体の生理機能にどのように作用するかを習得し、機能性食品の有用性を理解する。											
<b>授業計画及び内容</b>											
1. 食品の機能概要：食品成分、食品成分の動態、食品の特性と機能											
2. 栄養機能、嗜好機能、生理機能											
3. 生理機能成分の検定、分類、検索											
4. 特定保健用食品											
5. 系統別生理機能－1：消化器系に機能する食品成分											
6. 系統別生理機能－2：循環系に機能する食品成分											
7. 系統別生理機能－3：内分泌系、神経系に機能する食品成分											
8. 系統別生理機能－4：免疫系の生理機能											
9. 系統別生理機能－5：免疫系に機能する食品成分											
10. 系統別生理機能－6：がん抑制に機能する食品成分											
11. 生体抗酸化物質と食品機能成分											
12. 主な食品の機能性1：農産食品											
13. 主な食品の機能性2：果実類											
14. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例1											
15. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例2											
<b>事前学習</b>	講義予定項目について配付資料で学習しておくこと。										
<b>事後学習</b>	講義ノート、配付資料に沿って復習すること。										
<b>履修上の注意</b>	食品機能成分は化学物質であり、作用部位は生体であることから、有機化学と生物学を復習して講義に臨むこと。										
<b>成績評価の方法・基準</b>	講義への取り組み（50%）、提出課題（20%）、課題（30%）で評価する。										
<b>教科書</b>	資料を配布										
<b>参考書</b>	無し										

授業科目	食品学実験 I				担当者	永沼 孝子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	実験	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
さまざまな食品に含まれる栄養素について、その特性を調べる。これらを通して、化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用法、データのまとめ方、レポートの書き方を習得させる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
食品を扱う上で、基礎的な技術と心構え、化学実験の基礎的理論と手技を習得する。また、実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食品学実験に関する化学の基礎 I (実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方)									
2. 食品学実験に関する化学の基礎 II (数値の取り扱い、濃度計算法、実験器具の扱い方)									
3. ジャガイモからデンプンの分離									
4. デンプン粒の顕微鏡観察 (顕微鏡の使い方習得・ヨウ素反応の理解)									
5. 糖の定性反応 (呈色反応、還元反応)									
6. タンパク質の定性反応 I (ビウレット反応、ニンヒドリン反応、硫化鉛反応)									
7. タンパク質の定性反応 II (薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定)									
8. 脂質の定性反応 (エステル、不飽和脂肪酸の定性、油脂の鮮度判定)									
9. 油脂の物理的変化 (乳化反応、相転移)									
10. 食品の色に関する実験 (酵素的褐変アントシアンの色の変化)									
11. 食品の色に関する実験 (非酵素的褐変)									
12. 容量分析 (1) 中和滴定 I 中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習									
13. 容量分析 (2) 中和滴定 II 食酢中の酢酸の定量 (講義、標準溶液の作製と評定)									
14. 容量分析 (3) 中和滴定 III 食酢中の酢酸の定量 (試料の測定、計算)									
15. これまでの実験についてのまとめと濃度計算の演習									
事前学習	テキストを熟読し、実験方法を図式化しておく。さらに実験操作をシミュレーションして、安全かつ正確に実験できるように準備する。								
事後学習	実験ノートの項目(「目的」「方法」「結果」など)を正確に記録し、それらに基づいて考察をまとめる。								
履修上の注意	正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。								
成績評価の方法・基準	平常点(授業への参加状況、実験に臨む態度)50%、レポートおよびノート50%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。								
教科書	[食品学総論実験・実験で学食品学] [江角彰彦著] [同文書院] [2,592円] 授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)								
参考書	なし								

授業科目	食品学実験Ⅱ				担当者	永沼 孝子			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実験	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
食品中に含まれる水分、脂質、たんぱく質などの各種成分を抽出して、定量分析を行う。これらを通じて、食品試料の扱い方、化学実験における器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を習得させる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。具体的には、食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのかを実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス、食品中の一般栄養成分分析についての説明、濃度計算小テスト									
2. 食品中の水分の定量(常圧乾熱法)									
3. 食品中の脂質の定量Ⅰ(ソクスレー法による脂質の抽出)									
4. 食品中の脂質の定量Ⅱ(ソクスレー法による脂質の抽出および乾燥、重量測定)									
5. 食品中のタンパク質の定量(ケルダール法)Ⅰタンパク質の酸分解									
6. 食品中のタンパク質の定量Ⅱ(ケルダール法による水蒸気蒸留のトレーニング)									
7. 食品中のタンパク質の定量Ⅲ(ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-1)									
8. 食品中のタンパク質の定量Ⅳ(ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-2,まとめ)									
9. 食品中の灰分の定量(直接灰化法)									
10. 食品中のミネラルの定量Ⅰ灰化試料中のリンの定量(分光光度計の説明,標準溶液の調製)									
11. 食品中のミネラルの定量Ⅱ灰化試料中のリンの定量(検量線の作製)									
12. 食品中のミネラルの定量Ⅲ灰化試料中のリンの定量(試料中のリンの定量、計算)									
13. 緑茶中のタンニンの定量Ⅰ(標準溶液の調製と検量線の作製)									
14. 緑茶中のタンニンの定量Ⅱ(緑茶中のタンニン量の測定と算出)									
15. これまでの実験のまとめと濃度計算演習									
事前学習	テキストを熟読し、実験方法を図式化しておく。さらに実験操作をシミュレーションして、安全かつ正確に実験できるように準備する。								
事後学習	実験ノートの項目(「目的」「方法」「結果」など)を正確に記録し、それらに基づいて考察をまとめる。								
履修上の注意	正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。								
成績評価の方法・基準	平常点(授業への参加状況、実験に対する態度)50%、レポートおよびノート50%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。								
教科書	[食品学総論実験・実験で学食品学][江角彰彦著][同文書院][2,592円] 授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)								
参考書	なし								

授業科目		食品衛生学				担当者	齋藤 紀行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
食品の安全性が脅かされた事例、安全性を脅かす生物学的及び化学的な要因を科学的な面から解説する。また、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
栄養士にとって安全な食品の確保に関する知識、技術の習得は重要である。本授業では、食品の安全を脅かすものについて学び、安全を確保する方法と仕組みを習得し、食品の安全性確保に関する知識を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食生活と食品の安全性について									
2. 食品衛生法について									
3. 食品と微生物									
4. 食品の変質									
5. 食品の変質防止									
6. 食中毒と感染症									
7. 細菌生食中毒－感染型食中毒									
8. 細菌生食中毒－毒素型食中毒									
9. ウイルス性食中毒									
10. 自然毒食中毒									
11. 有毒物質による食品汚染									
12. 食品添加物									
13. 食品の器具・容器包装の安全性									
14. 食品衛生行政									
15. 食品衛生学のまとめ									
16. 試験									
事前学習	講義予定項目について教科書を読んでおく。								
事後学習	講義ノート、教科書に沿って講義内容を復習する。								
履修上の注意	微生物による食中毒が多く発生するため、微生物に関する語句を充分理解した上で講義に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組み（40%）、提出課題（20%）、試験（40%）で評価する								
教科書	〔エキスパート食品衛生学〕〔白石淳編〕〔化学同人〕〔2700円〕								
参考書	無し								

授業科目	食品衛生学実験 I				担当者	齋藤 紀行			
単位数	1	必・選	必	授業形式	実験	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>ヒトの手指、鼻腔・咽頭あるいは身の回りに多くの微生物が生息することを培地で可視的に、染色法で微視的に観察する。食品の着色を目的として認可されている酸性タール系色素を薄層クロマトグラフィー法で調べる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>栄養士にとって安全な食品の確保に関する知識、技術の習得は重要である。食品による健康被害の主な原因は細菌汚染である。本実験では、食品の安全を脅かす細菌の観察と細菌の危害防止の目的で添加されている食品添加物を確認する検査方法を習得し、食品の安全確保の重要性を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 実験の概要説明と諸注意									
2. 手指の汚れの科学的検査									
3. 滅菌法・消毒法									
4. 培地作成									
5. 環境微生物の観察－1：検体採取									
6. 環境微生物の観察－2：検体の培地接種と培養法									
7. 環境微生物の観察－3：発育細菌の観察									
8. 環境微生物の観察－4：微生物の染色法									
9. 環境微生物の観察－5：微生物の顕微鏡観察									
10. 飲料水の水質検査									
11. 食器等の衛生検査									
12. 食品添加物試験 I：酸性タール系色素									
13. 食品添加物試験 I：酸性タール系色素									
14. 食品中のアレルゲン検査									
15. 実験のまとめ									
事前学習	実験項目について微生物学あるいは食品衛生学の教科書を熟読し、実験の目的を理解しておく。								
事後学習	実験の目的、結果をレポートにまとめ、目的が達成できたかを確認する。								
履修上の注意	白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験記録を綿密に取る。								
成績評価の方法・基準	実験への取り組み（60%）、レポート（40%）								
教科書	授業前に資料配布								
参考書	〔食品衛生学実験〕〔清水英世編〕〔みらい〕〔2,476円〕								

授業科目		食品衛生学実験Ⅱ			担当者		齋藤 紀行		
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実験	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>油脂性食品の変敗の指標となる酸価と過酸価物価、食品添加物の発色剤の検査法、食品の鮮度測定法、ヒスタミン食中毒の原因となる魚肉からのヒスタミン検査法を学ぶ。更に、食中毒の原因となる細菌の検査法について学ぶ。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>食品衛生学実験Ⅰに示した到達目標に加えて、食品の安全性確保に関する検査法の技術と食中毒原因菌検査法の知識・技術を習得して、食品の安全確保の重要性を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 実験の概要説明と諸注意									
2. 油脂性食品の変質判定試験：過酸化物価									
3. 油脂性食品の変質判定試験：酸価									
4. 食品添加物試験Ⅱ：発色剤									
5. 食品の鮮度測定									
6. 食品中のヒスタミン試験									
7. 食品中の生菌数測定－1：準備									
8. 食品中の生菌数測定－2：実施									
9. 食品中の生菌数測定－3：判定									
10. 加熱、消毒薬の殺菌効果－1：準備、実施									
11. 加熱、消毒薬の殺菌効果－2：判定									
12. 食品中の食中毒菌検査－1：準備									
13. 食品中の食中毒菌検査－2：実施									
14. 食品中の食中毒菌検査－3：判定									
15. 食品の安全性検査実施施設の見学									
<b>事前学習</b>	実験項目について、食品衛生学の教科書を熟読し実験の目的を理解しておく。								
<b>事後学習</b>	実験の目的、結果をレポートにまとめ、目的が達成できたかを確認する。								
<b>履修上の注意</b>	白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験記録を綿密にとる。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	実験への取り組み(60%)、レポート(40%)								
<b>教科書</b>	授業前に資料配布								
<b>参考書</b>	〔食品衛生学実験〕〔清水英世編〕〔みらい〕〔2,476円〕								



授業科目	微生物学				担当者	齋藤 紀行			
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
微生物の種類と大きさ・増殖性の違いを学び、それぞれの微生物の特徴を理解させる。更に、微生物の病原性、人の感染防御機構、微生物の増殖抑制法等について解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
微生物学は他の専門科目の基礎となる。微生物にはヒトの健康の良好にかかわるものと、健康を損なうものがあること、またそれぞれの微生物の特徴を習得し、微生物と人との関わりかたを理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 微生物学の歴史：伝染病と微生物									
2. 微生物学の歴史：感染症と治療									
3. 微生物の特徴：微生物の種類と構造									
4. 微生物の特徴：微生物の増殖性									
5. 微生物の特徴：微生物の分類									
6. 有用微生物：微生物を利用した食品									
7. 病原微生物：病原性を持つ細菌、ウイルス、その他									
8. 病原微生物：病原因子									
9. 病原微生物：発症機構									
10. 感染と免疫：感染について									
11. 感染と免疫：自然免疫と獲得免疫									
12. 感染と免疫：免疫関連細胞と因子									
13. 感染と免疫：免疫機構									
14. 感染と免疫：腸管免疫									
15. 滅菌と消毒：滅菌法と消毒法									
16. 試験									
事前学習	講義予定項目について教科書を読んでおくこと。								
事後学習	講義ノート、配付資料に沿って授業内容を復習すること。								
履修上の注意	微生物の理解には、生物学の理解が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して履修に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組み(50%)、課題(20%)、試験(30%)で評価する。								
教科書	〔エキスパート微生物学〕〔小林秀光編〕〔化学同人〕〔2500円〕								
参考書	無し								



授業科目	栄養学 I					担当者	永沼 孝子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、栄養素（特に三大栄養素）が消化・吸収されるしくみ、生体内での機能について詳しく解説する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>栄養の意義について学び、食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。また、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における役割を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養の概念（栄養とは何か。栄養の意義と目的、食品の栄養機能）									
2. 健康と栄養（食物の役割、病気の予防・治療と栄養）									
3. 摂食行動（食欲の調節、食事のタイミング）									
4. 消化器の構造と機能									
5. 消化・吸収の機構(唾液腺、胃腺、膵臓、胆のう、小腸、膜消化、能動輸送、受動輸送)									
6. 糖質の栄養 I（糖質の消化・吸収機構、血糖値の調節）									
7. 糖質の栄養 II（糖の代謝と肝臓・筋肉・脂肪組織の役割）									
8. 糖質の栄養 III（糖質の代謝経路、内呼吸の役割）、小テスト									
9. 脂質の栄養 I（脂質の種類と構造、消化と吸収）									
10. 脂質の栄養 II（脂肪酸・コレステロールの代謝、脂質の体内移動）									
11. 脂質の栄養 III（脂質の代謝）、小テスト									
12. たんぱく質の栄養 I（たんぱく質の構造、消化・吸収）									
13. たんぱく質の栄養 II（アミノ酸の体内利用、体たんぱく質の代謝）									
14. たんぱく質の栄養 III（たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係）、小テスト									
15. これまでのまとめ									
16. 試験									
事前学習	<p>受講するにあたって、講義内容が良く理解できるように、事前に教科書にて授業概要に記された内容を概覧しておく。</p>								
事後学習	<p>教科書、ノートを見直して講義内容を整理し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして疑問点を解決する。</p>								
履修上の注意	<p>正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートをしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。</p>								
成績評価の方法・基準	<p>平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20%、学期末の試験 80%の割合で評価する。</p>								
教科書	<p>[栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第 3 版] [田地 陽一編] [羊土社] [3,024 円]</p>								
参考書	<p>なし</p>								

授業科目	栄養学Ⅱ				担当者	永沼 孝子			
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養学Ⅰに続いての学習となる。Ⅰで学んだ三大栄養素に加え、ビタミン、ミネラルなどの栄養素としての性質と、生理機能について講義する。また、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>本授業では、栄養学Ⅰに引き続いて、栄養の意義について学び、食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。また、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における役割を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 三大栄養素についての小テスト									
2. ビタミンの栄養Ⅰ 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能									
3. ビタミンの栄養Ⅱ 水溶性ビタミン(VB1, B2, B6, B12, ナイアシン)の構造と栄養機能									
4. ビタミンの栄養Ⅲ 水溶性ビタミン (パントテン酸、葉酸、ビオチン、VC)の構造と栄養機能)									
5. ミネラルの栄養Ⅰ 多量ミネラルの栄養機能、ビタミンに関する小テスト									
6. ミネラルの栄養Ⅱ 微量ミネラルの栄養機能									
7. 水の栄養的意義									
8. 電解質の役割									
9. エネルギー代謝Ⅰ エネルギー代謝の定義、食物エネルギー									
10. エネルギー代謝Ⅱ エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法									
11. 遺伝と栄養Ⅰ (遺伝子と遺伝の仕組み、発現)									
12. 遺伝と栄養Ⅱ (遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧)									
13. 遺伝と栄養Ⅲ (遺伝子と疾病：肥満、生活習慣病)									
14. 非栄養素の生理機能(食物繊維、難消化性オリゴ糖、アルコール)									
15. これまでのまとめ									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	受講するにあたって、講義内容が良く理解できるように、事前に教科書にて授業概要に記された内容を概覧しておく。								
<b>事後学習</b>	教科書、ノートを見直して講義内容を整理し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして疑問点を解決する。								
<b>履修上の注意</b>	正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートをしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点(授業態度、小テスト、レポート)の成績20%、学期末の試験80%の割合で評価する。								
<b>教科書</b>	[栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第3版][田地 陽一編][羊土社][3,024円]								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目	栄養学実験				担当者	永沼 孝子			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実験	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養学は、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、栄養生理に対する理解を深めることができるように、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方、データのまとめ方、レポートの書き方について学習させる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。具体的には、食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのかを実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養学実験と生体試料の取り扱い方の解説、濃度計算問題小テスト									
2. 緩衝液の原理、作用についての理解と調製									
3. ヒト血中成分の定量 (1) 血糖値の定量 -I グルコース標準液の調製									
4. ヒト血中成分の定量 (2) 血糖値の定量 -II ヒト血漿中のグルコース濃度の定量									
5. ヒト血中成分の定量 (3) 血漿中のたんぱく質の定量-I 検量線の作成									
6. ヒト血中成分の定量 (4) 血漿中のたんぱく質の定量-II 総たんぱく質、アルブミン定量									
7. ヒト血中成分の定量 (5) 血漿中の脂質の定量-I 血漿中トリアシルグリセリドの定量									
8. ヒト血中成分の定量 (6) 血漿中の脂質の定量-II 血漿中総コレステロールの定量									
9. 酵素消化実験 I アミラーゼの活性測定(1) (糖標準溶液の調製と検量線の作製)									
10. 酵素消化実験 II アミラーゼの活性測定(2) (酵素消化反応と産生糖の定量)									
11. 酵素消化実験 III ペプシンの活性試験 (ヘモグロビンの消化)									
12. 尿中ビタミンCの測定 I ヒドラジン法(ビタミンC検量線の作成)									
13. 尿中ビタミンCの測定 II (尿中ビタミンCの定量)									
14. 味覚変化に関する実験 (味の変調作用)									
15. 栄養学実験のまとめと濃度計算問題小テスト									
事前学習	テキストを熟読し、実験方法を図式化しておく。さらに実験操作をシミュレーションして、安全かつ正確に実験できるように準備する。								
事後学習	実験ノートの項目(「目的」「方法」「結果」など)を正確に記録し、それらに基づいて考察をまとめる。								
履修上の注意	正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。								
成績評価の方法・基準	平常点(授業への参加状況、実験に対する態度)50%、レポートおよびノート50%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。								
教科書	授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)使用。初回授業前に配布								
参考書	必要に応じて資料配布(各実験時配布)								

授業科目	ライフステージ栄養学				担当者	永沼 孝子			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
成長・発達・妊娠・加齢などの人のライフステージや、運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴を把握するとともに、日本人の食事摂取基準の意味を理解する。さらにそれぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要。									
2. 日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）									
3. 妊娠期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
4. 新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）									
5. 授乳期・離乳期の栄養（生理的特徴、栄養ケア）									
6. 授乳期・離乳期の栄養（離乳期の栄養、離乳支援）									
7. 幼児期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
8. 学童期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
9. 思春期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
10. 成人期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
11. 更年期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
12. 高齢期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）									
13. 運動と栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、栄養ケア）									
14. ストレスと栄養、特殊環境と栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、栄養ケア）									
15. これまでのまとめ									
16. 試験									
事前学習	受講するにあたって、講義内容が良く理解できるように、事前に教科書にて授業概要に記された内容を概覧しておく。								
事後学習	教科書、ノートを見直して講義内容を整理し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして疑問点を解決する。								
履修上の注意	正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートをしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。								
成績評価の方法・基準	平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20%，学期末の試験 80%の割合で評価する。								
教科書	[栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学] [栢下 淳編] [羊土社] [3,024 円]								
参考書	[日本人の食事摂取基準(2015年版)] [第一出版] [2,916 円]								

授業科目	ライフステージ栄養学実習 I				担当者	川俣 幸一			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。アセスメントの結果を基に自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、更には食事計画から献立作成までの実践的な栄養管理能力を解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
1) 自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける									
2) 自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
-----									
2. 食事調査法① (実施方法の練習)									
-----									
3. 食事調査法② (栄養価計算の練習)									
-----									
4. 身体活動量を求める実習① (24時間タイムスタディ法、説明)									
-----									
5. 身体活動量を求める実習② (24時間タイムスタディ法、演習)									
-----									
6. 3日間の食物摂取状況の把握① (栄養価計算、説明)									
-----									
7. 3日間の食物摂取状況の把握② (栄養価計算、演習)									
-----									
8. 食事計画① (加重平均食品群別栄養成分表の作成、説明)									
-----									
9. 食事計画② (加重平均食品群別栄養成分表の作成、演習)									
-----									
10. 食事計画③ (食品構成表の作成、説明)									
-----									
11. 食事計画④ (食品構成表の作成、演習)									
-----									
12. 食事計画⑤ (献立の作成、説明)									
-----									
13. 食事計画⑥ (献立の作成、演習)									
-----									
14. 食事計画⑦ (献立の栄養価計算)									
-----									
15. まとめ									
事前学習	事前に配布する予習プリントを熟読すること								
事後学習	板書やノート、配布資料を見直して復習する事								
履修上の注意	ライフステージ栄養学・栄養指導論等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。								
成績評価の方法・基準	課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%								
教科書	なし								
参考書	「食品成分表」 「エネルギー早わかり」[女子栄養大学出版]「1,460円」 「調理のためのベーシックデータ」[女子栄養大学出版]「1,890円」								

授業科目	ライフステージ栄養学実習Ⅱ				担当者	川俣 幸一			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食、評価を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
1) 各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。									
2) 各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 概論 / 食品構成① (ライフステージ別)									
2. 食品構成② (           "           )									
3. 新生児期・乳児期栄養① (乳汁栄養)									
4. 新生児期・乳児期栄養② (離乳食前期)									
5. 新生児期・乳児期栄養③ (離乳食中期)									
6. 新生児期・乳児期栄養④ (離乳食後期～完了期)									
7. 幼児期・学童期栄養① (お弁当)									
8. 幼児期・学童期栄養② (アレルギー対応食①)									
9. 幼児期・学童期栄養③ (アレルギー対応食②)									
10. 幼児期・学童期栄養④ (麺類・行事食)									
11. 思春期栄養 (貧血と高鉄分食)									
12. 妊娠期栄養① (つわりを考えた食事)									
13. 妊娠期栄養② (付加量を考えた食事)									
14. 成人期栄養 (更年期と高カルシウム食)									
15. 老年期栄養 (低栄養予防の食事)									
事前学習	事前に配布する予習プリントを熟読すること								
事後学習	板書やノート、配布資料を見直して復習する事								
履修上の注意	身だしなみが整わない学生は実習に参加させず欠席とします(例:爪を短く切る、ピアス・指輪を外す、髪を帽子内に入れるなど)。教員の指示に従わない学生も同様です(調理実習時の危険防止のため)。								
成績評価の方法・基準	課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%								
教科書	プリントを配布する								
参考書	なし								



授業科目	臨床栄養学概論					担当者	菅原 詩緒理		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b> 様々な病態を理解し、その栄養療法について授業する。さらに、その知識をもとに実践内容を解説する。「臨床栄養学基礎編・疾患別編」[本田桂子][羊土社][2916円・3024円]									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 1. 各疾患における基本的な病態・病状および栄養療法を習得する。 2. 栄養管理方法や他職種との連携について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス シラバスの説明他、栄養管理（栄養スクリーニング・アセスメント）									
2. 消化器疾患（潰瘍・胃がん・炎症性腸疾患）									
3. 代謝系疾患1（肥満・るいそう・メタボリックシンドローム）									
4. 代謝系疾患2（糖尿病）									
5. 代謝系疾患3（糖尿病食品交換表）									
6. 代謝系疾患4（脂質異常症）									
7. 代謝系疾患5（痛風・高尿酸血症）									
8. 呼吸器系疾患（慢性閉塞性肺疾患）									
9. 循環器系疾患（高血圧症）									
10. 腎疾患（慢性腎臓病・糖尿病性腎症）									
11. 血液疾患（貧血）									
12. 術前・術後の管理									
13. 摂食・嚥下障害									
14. 他職種との関わり									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	次回の授業内容は教科書等を用いて、予習する。								
事後学習	授業内容を復習し理解を深める。								
履修上の注意	特になし								
成績評価の方法・基準	受講状況 40%、期末試験 60%								
教科書	「臨床栄養学基礎編」[本田桂子][羊土社][2916円] 「臨床栄養学疾患別編」[本田桂子][羊土社][3024円]								
参考書	[糖尿病食品交換表][日本糖尿病学会][900円]								

授業科目	臨床栄養学各論				担当者	福岡 敦子				
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年	
<b>授業の概要</b>										
臨床栄養学概論で学んだ各疾患の病因や病態に加えさらに、それぞれの疾患と治療をおこなうための栄養食事療法の必要性を学び、基礎知識を習得する。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
臨床栄養学概論から更に多様な疾患に対し、それぞれの疾患に合わせた病態と治療のための適切な運動療法、食事療法、手術、また生活習慣の改善などの学習を深めていき、栄養士として必要な専門的知識を身に付ける。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. 胃・十二指腸潰瘍・下痢・便秘の復習										
2. クロウン病・潰瘍性大腸炎										
3. 肝臓疾患										
4. 胆石症 胆のう炎 膵炎										
5. 循環器疾患										
6. 腎臓 泌尿器疾患 透析										
7. 内分泌疾患										
8. 神経疾患 精神疾患										
9. 呼吸器疾患 血液系疾患										
10. 感染症 免疫 アレルギー疾患										
11. 癌 術前・術後										
12. 摂食機能障害 身体障害 知的障害										
13. 乳幼児・小児疾患										
14. 妊産婦・授乳婦の疾患										
15. 更年期疾患 高齢者疾患										
16. テスト										
事前学習	1 回目の授業を受けるために前期、臨床学概論の復習をすること、特に検査値など 2 回目以降は、授業で行う項目について教科書を読んでくること									
事後学習	当日の授業で行った項目について教科書とノート（板書した内容）を復習すること									
履修上の注意	健康や衛生、疾病などの情報に関心を持つこと									
成績評価の方法・基準	定期試験						70%、			
	受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻）						30%			
教科書	[臨床栄養学] [佐藤和人] [医歯薬出版] [3,996 円]									
参考書	[食品交換表] [日本糖尿病協会] [文光堂] [価格] [972 円]									



授業科目		臨床栄養学実習				担当者		益田 裕司		
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	食専2年	
授業の概要										
一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。										
授業の目標(到達目標)										
臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。										
授業計画及び内容										
1. 病院での栄養士の仕事 治療食の特色について										
2. 一般治療食 常食・全粥食 献立作成										
3. 一般治療食 常食・全粥食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について										
4. 糖尿病食献立提出 一般治療食 常食・全粥食 実習										
5. 脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング										
6. 脂質異常症食献立提出 糖尿病食 実習										
7. 高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング										
8. 高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食 実習										
9. 腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング										
10. 腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食 実習										
11. 胃・十二指腸潰瘍食について 腎臓病食実習ミーティング										
12. 胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食 実習										
13. 摂食・嚥下障害食について 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング										
14. 摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食 実習										
15. 摂食・嚥下障害食 実習										
事前学習	献立作成前に、各疾患の特徴を確認しておくこと。									
事後学習	調理実習後は、実施献立の改善点を見つけること。									
履修上の注意	毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。									
成績評価の方法・基準	平常点 50% (平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。) レポート 50% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)									
教科書	[ビジュアル治療食 300] [医歯薬出版] [5,184 円]									
参考書	[食品交換表 第7版] [文光堂] [972 円]									

授業科目		栄養指導論 I				担当者	済渡 久美		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b> 栄養指導の歴史、関係法規、栄養指導に必要な基本的事項について解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 栄養指導の必要性を認識し、実施するために必要な基本的知識及び方法を習得し、対象者の健康保持・増進、QOLの向上を支援する力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養指導の定義と意義									
2. 栄養指導の沿革① 鎌倉期～大正期									
3. 栄養指導の沿革② 昭和期									
4. 栄養指導の沿革③ 平成期									
5. 栄養指導と関係法規① 栄養士法 健康増進法									
6. 栄養指導と関係法規② 母子保健法 地域保健法 食品衛生法 食品表示法									
7. 栄養指導と関係法規③ 食育基本法									
8. 栄養指導と関係法規③ 学校給食法									
9. 栄養指導に必要な基本的事項① 食事摂取基準									
10. 栄養指導に必要な基本的事項② 食生活指針・食事バランスガイド									
11. 栄養指導に必要な基本的事項③ 諸外国のフードガイド									
12. 栄養指導に必要な基本的事項④ 食糧需給表									
13. 栄養指導に必要な基本的事項⑤ 国民健康・栄養調査・乳幼児栄養調査									
14. 栄養指導と運動指導									
15. 栄養指導と休養指導									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	教科書を熟読し課題を整理しておくこと								
<b>事後学習</b>	復習プリントに従って授業内容について確認すること								
<b>履修上の注意</b>	単元毎にまとめをしっかりとすること								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 40% (平常点は、予習・復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する)、試験 60%								
<b>教科書</b>	[Nブックス 栄養指導論] [相川りゑ子] [健帛社] [2,376円]								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目	栄養指導論Ⅱ				担当者	済渡 久美			
単位数	2	必・選	栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養指導を実施するために必要なマネジメントサイクルの流れ及び栄養指導の方法について解説する。各ライフステージの栄養課題の特徴と栄養指導の要点を解説する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>栄養指導実施するために必要な基本的知識及び方法を習得し、対象者の健康保持・増進、QOLの向上を支援する力を身につける。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養指導マネジメントサイクルの概要									
2. 栄養指導の対象者アセスメント：対象者の特性把握の方法・課題抽出									
3. 栄養指導の計画と方法①：行動科学理論・行動変容技法									
4. 栄養指導の計画と方法②：学習形態・教材・媒体・評価方法									
5. 集団指導の特徴：一斉学習・グループ学習									
6. 個別指導の特徴：カウンセリング・コーチング									
7. 妊娠期・授乳期の栄養指導									
8. 乳幼児期の栄養指導									
9. 学童期の栄養指導									
10. 思春期の栄養指導									
11. 成人期の栄養指導①生活習慣病予防									
12. 成人期の栄養指導②事業所給食における栄養指導									
13. 成人期の栄養指導③特定保健指導									
14. 高齢期の栄養指導・高齢者施設における栄養指導：栄養ケア・マネジメント									
15. スポーツ栄養指導									
16. 試験									
事前学習	教科書を熟読し課題を整理しておくこと								
事後学習	復習プリントにより授業内容について確認すること								
履修上の注意	単元毎にまとめをしっかりとすること								
成績評価の方法・基準	平常点 40% (平常点は、復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する)、試験 60%								
教科書	[エスカパーシック 栄養指導論] [古畑公] [同文書院] [2,057円]								
参考書	なし								

授業科目		栄養指導論実習			担当者	済渡 久美			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養指導に必要なアセスメントを行い栄養指導計画をたて、計画に基づき模擬栄養指導を行う。集団指導では媒体を作成しプレゼンテーションを行う。個別指導ではカウンセリング技法を学び模擬面接を行う。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>各ライフステージにおける適切な栄養指導の特徴を理解し、基本的な集団指導及び個別指導ができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 栄養指導の方法導入① アイスブレイク・コンセンサス法									
2. 栄養指導の方法導入① 自己開示(2分間スピーチ)									
3. 集団を対象とした栄養指導①: ライフステージの決定・情報収集									
4. 集団を対象とした栄養指導②: 指導計画立案									
5. 集団を対象とした栄養指導③: 媒体作り									
6. 集団を対象とした栄養指導④: 媒体作り									
7. 集団を対象とした栄養指導⑤: 発表と評価									
8. 集団を対象とした栄養指導⑥: 発表と評価									
9. 集団を対象とした栄養指導⑦: 発表と評価									
10. 個人を対象とした栄養指導①: 特定保健指導の実際① 階層化									
11. 個人を対象とした栄養指導②: 特定保健指導の実際② エネルギー調整の理解									
12. 個人を対象とした栄養指導③: 特定保健指導の実際③ 指導計画立案									
13. 個人を対象とした栄養指導④: カウンセリング・コーチングの確認と面接の提示									
14. 個人を対象とした栄養指導⑤: 特定保健指導の実際① 模擬面接と評価									
15. 個人を対象とした栄養指導⑥: 特定保健指導の実際② 模擬面接と評価									
<b>事前学習</b>	毎回の実習にあたって必要な情報の入手をすること。また、集団指導の発表については練習、個人指導については資料の準備に努めること								
<b>事後学習</b>	毎回の実習内容について復習に努め、各回において、認識した不足している知識を各自で学ぶこと								
<b>履修上の注意</b>	栄養指導の現実の場を想定し、能動的に取り組むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 40% (平常点は、書類作成の進行状況総合的に判断する)、 レポート 30% 発表 30%								
<b>教科書</b>	授業前に配布するプリント								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目	公衆栄養学				担当者	栗山 孝雄			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
公衆栄養学は地域や職域などの様々な集団を対象に、栄養状態、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。集団の健康・栄養に関する問題と政策、公衆栄養プログラムの流れと栄養疫学について解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
本科目の学習を通して、公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 公衆栄養学の概念									
2. 公衆栄養活動の歴史									
3. 栄養士・管理栄養士の養成制度と栄養士法									
4. わが国の栄養行政									
5. 地域栄養活動									
6. 国民健康・栄養調査									
7. 健康栄養に関連する指針：食育ガイド、身体活動・休養・睡眠指針									
8. 中間試験、公衆栄養プログラムにおけるマネジメント・アセスメント									
9. 公衆栄養活動における調査方法									
10. 公衆栄養活動における目標設定									
11. 公衆栄養活動の評価									
12. 都道府県・市町村の健康増進計画									
13. 栄養疫学の指標									
14. 世界の健康・栄養問題の現状									
15. 健康・食生活の危機管理と食支援									
16. 期末試験									
事前学習	授業テーマについて、教員からの情報や教科書などを参考に、内容を把握しておく。								
事後学習	授業内容を見直し、重要箇所や理解不十分の箇所の確認を行う。								
履修上の注意	本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。								
成績評価の方法・基準	・中間試験（35%）、期末試験（35%）、提出物（20%）、受講態度（10%）で評価を行う。※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。								
教科書	〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800円〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		調理科学論				担当者	濟渡 久美		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
食品を調理操作により食事として提供するために必要な食事設計と様式、嗜好性について概説する。次に調理操作の種類、用いる食品や素材の特性と調理操作における具体的な要点について解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
食べ物を、衛生的に安全な状態、栄養特性が生かされた状態に整えるために必要な知識を持ち、望ましい調理操作と食事設計ができるようになること									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食事設計と食事様式① 食事設計									
2. 食事設計と食事様式② 食事様式									
3. 調理と嗜好性									
4. エネルギー源および調理器具									
5. 調理操作① 調理操作の目的・調味操作									
6. 調理操作③ 加熱操作									
7. 調理操作② 非加熱操作									
8. 植物性食品の調理性① 米・小麦粉									
9. 植物性食品の調理性② いも類・豆類・野菜類									
10. 植物性食品の調理性③ 果物・種実類・きのこ類・海藻類・山菜類									
11. 動物性食品の調理性① 食肉類・魚介類									
12. 動物性食品の調理性② 鶏卵									
13. 動物性食品の調理性③ 牛乳・乳製品・その他									
14. 成分抽出素材の調理性 ① デンプン・ゲル化材料									
15. 成分抽出素材の調理性 ② 油脂類・新食品素材									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	教科書を熟読し課題を整理しておくこと								
<b>事後学習</b>	復習プリントに従って授業内容について確認すること								
<b>履修上の注意</b>	単元毎にまとめをしっかりとすること								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 40% (予習・復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する)、試験 60%								
<b>教科書</b>	〔調理学〕〔木戸詔子・池田ひろ〕〔化学同人〕〔2,700 円〕								
<b>参考書</b>	無し								

授業科目	調理学実習 I				担当者	済渡 久美			
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
日本料理・西洋料理・中国料理それぞれの調理操作の基本を組み込んだ献立をサイクルで展開して実習する。さらに、実施献立について、調理科学、栄養価、食文化の視点から考察をする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
基本的な調理操作を科学的に理解し、技術を中心として、調理器具、食材、食文化の特徴を習得し、調理の基本操作ができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：実習の基本事項									
-----									
2. 調理操作の基礎① 計量・食品の概量の把握									
-----									
3. 調理操作の基礎② 乾物類・塩蔵品の戻し方と量（重量・容量）変化の把握									
-----									
4. 調理操作の基礎③ 切り方の種類とその実際									
-----									
5. 日本①：三色丼・すまし汁									
-----									
6. 西洋①：スパゲッティミートソース・コンソメスープ									
-----									
7. 中国①：ごはん・麻婆豆腐・涼拌三絲・榨菜湯									
-----									
8. 日本②：ごはん・さばのみそ煮・けんちん汁・ほうれんそうのピーナツ和え									
-----									
9. 西洋②：マカロニグラタン・にんじんサラダ・グレープゼリー									
-----									
10. 中国②：ごはん・酢豚・粟米湯・杏仁豆腐									
-----									
11. 日本③：ごはん・鯔の南蛮漬・卵の花炒り・みそ汁									
-----									
12. 西洋③：ごはん・ハンバーグステーキ・ポテトサラダ・コーンスープ									
-----									
13. 中国③：ごはん・餃子・棒棒鶏・冬瓜湯									
-----									
14. 日本④：うな玉ちらし・冷やしじゅんさい汁・彩り野菜のキャベツ巻									
-----									
15. 日本・西洋・中国料理の基本のまとめ									
<b>事前学習</b>	実施予定献立に関係する食材および調理方法について、調理科学論で使用する教科書の該当する箇所を熟読すること。実習終了時に次の献立と調理のポイント事項は指示する。								
<b>事後学習</b>	実習内容についてレポートを作成する。								
<b>履修上の注意</b>	調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 50%（授業の取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50%								
<b>教科書</b>	配布プリント								
<b>参考書</b>	[新ビジュアル食品成分表] [大修館書店] [1,080 円]								



授業科目		調理学実習Ⅱ			担当者	濟渡 久美			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
調理学実習Ⅰの基礎的調理知識をもとに、日本料理、西洋料理、中国料理などについて、やや複雑で丁寧な応用調理法を献立に組み込み季節や行事に応じた調理を実習する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
調理の基本操作を習得したうえでさらに調理技術の向上を体得し応用的な調理操作ができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：調理操作の確認・切り方の実際									
2. 日本①：吹き寄せごはん・さんまのつみれ汁・菜果なます									
3. 西洋①：ごはん・ポテトコロッケ・コンソメスープ・パンプキンムース									
4. 中国①：粽子・芙蓉蟹・麻辣黄爪									
5. 日本②：はらこ飯・おくずかけ・笹かまおろし（宮城郷土料理）									
6. 西洋②：・白身魚の包み焼き・ミモザサラダ・ミネストローネ・(付 バターロール)									
7. 中国②：饅頭・涼拌茄子・魚羹									
8. 日本③：ごはん・煮魚・茶碗蒸し・白和え									
9. 西洋③：ピザパイ・ロールキャベツ・カスタードプリン									
10. 中国③：炒米粉・焼売・三絲湯・杏仁豆腐									
11. 西洋④：クリスマス料理：ローストチキン・コンソメ・ア・ラ・ブリュッスル・キャベツのかに包み巻・ウーパールー・クルベツトカクテル・ツリーサラダ・ノエルケーキ									
12. 日本④：正月料理：祝い寿司・えびしんじょの吸い物・末広焼・きんかんの洋酒煮・伊達巻・5色なます・煮しめ									
13. 中国④：什景炒麵・炸春捲・辣白菜									
14. 西洋⑤：バターライス・ビーフストロガノフ・シュークリーム									
15. 日本・西洋・中国料理の応用のまとめ									
<b>事前学習</b>	実施予定献立に関係する食材および調理方法について、調理科学論で使用する教科書の該当する箇所を熟読すること。								
<b>事後学習</b>	実習内容についてレポートを作成する。								
<b>履修上の注意</b>	調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗い、等衛生面）をしっかり認識して取り組むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 50%（授業への取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50%								
<b>教科書</b>	配布プリント								
<b>参考書</b>	[ビジュアル食品成分表] [修館書店] [1,080 円]								



授業科目	調理学実習Ⅲ				担当者	済渡 久美			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
調理学実習Ⅰ・Ⅱで習得した和・洋・中の調理知識・技術を基礎力として、世界の料理、郷土料理、災害時食等に分野を拡張し調理の視野を深める実習を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
和・洋・中以外の調理について知識を広げ、各国・各地の食文化や調理方法を理解し作製できる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：世界の料理、郷土料理、災害時食について									
2. 世界の料理①イギリス：フィッシュ&チップス・スコーン・イギリス風ビーフシチュー									
3. 災害食									
4. 世界の料理②タイ・インドネシア：ナシゴレン・トムヤムクン・ゴイクオン									
5. 郷土料理①秋田：きりたんぼ鍋・とんぶりと長芋の浸し・なんばこ									
6. 郷土料理②愛知県：天むす・味噌カツ・煮味噌									
7. 世界の料理③南フランス：ラタトゥイユ・ビシソワーズ・ ほうれんそうとベーコンのキッシュロレーヌ									
8. 世界の料理④韓国：ビビンバ・チヂミ・韓国スープ									
9. 郷土料理③北海道：いかめし・三平汁・いもだんご									
10. 郷土料理④沖縄：沖縄そば・ゴーヤチャンプルー・紅芋タルト									
11. 世界の料理⑤スペイン：パエリア・トルティージャ・ガスパチョ									
12. 世界の料理⑥インド：ナン・チキンカレー・ラッシー									
13. 世界の料理⑦ドイツ：ジャーマンポテト・ザワークラウト・ブロッコリーのスープ・ 黄桃のクーヘン									
14. 郷土料理⑤新潟：しょうゆおこわ・のっぺい汁・笹団子									
15. 世界の料理、郷土料理、災害時食のまとめ									
事前学習	実施予定献立に関係する食文化および食材についてプリント等で理解する。								
事後学習	実習内容についてレポートを作成する。								
履修上の注意	調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	平常点 50%（授業への取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50%								
教科書	[調理学実習 おいしさと健康] [和泉眞喜子] [アイ・ケイコーポレーション] [3,564 円]								
参考書	[ビジュアル食品成分表] [修館書店] [1,080 円]								

授業科目		給食管理学				担当者	益田 裕司		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を栄養、衛生面から順序だてて解説する。代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
給食の目的である栄養・食事管理、及び栄養教育の媒体となる食事提供のために、栄養士として給食管理業務を円滑に行うために必要な実践的知識を習得する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 給食管理の概念									
2. 安全衛生管理 食中毒の予防									
3. 献立作成基礎知識 (廃棄率など)									
4. 給食の計画 食事摂取基準									
5. 栄養・食事管理の計画① 給与栄養目標量・食事計画									
6. 栄養・食事管理の計画② 食品構成 献立作成の基礎知識									
7. 施設・設備管理 (施設・設備と機器、食環境)									
8. 作業管理 (大量調理における調理の工夫・作業工程・作業の標準化)									
9. 危機管理・ヒヤリハット									
10. 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割									
11. 保育所・学校・事業所給食									
12. 高齢者福祉施設給食									
13. 病院給食									
14. 災害時の備蓄について									
15. まとめ 給食における評価と改善									
16. 試験									
事前学習	帳票類の作成については、事前にテキストを参照しておくこと。								
事後学習	給食管理実習 I で行う作業と関連付けられるようにすること。								
履修上の注意	栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。								
成績評価の方法・基準	試験 50% 平常点 30% (平常点は、授業への参加状況および受講態度等で総合的に判断する。) 提出物 20% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)								
教科書	〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕 〔五訂「大量調理施設衛生管理のポイント」〕〔中央法規〕〔2,592 円〕								
参考書	〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,268 円〕								

授業科目		給食管理基礎演習 I			担当者		益田 裕司		
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
2年次の校外実習に向けた心構え、及び実習に必要な事項の実務について概説する。また、保育園・給食センター・病院の給食管理業務の見学および2年生による校外実習報告会に参加する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
校外実習に向けて、実習の意義を明確にするため、給食施設への見学を通して実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 施設見学の意義・目的									
2. 校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて									
3. 挨拶の練習 身だしなみチェック 報告書・お礼状について									
5. 各施設への見学事前準備 (施設の特徴や学習に必要な着眼点など)									
6. 保育園見学									
7. セントラルキッチン見学									
8. 病院見学									
8. 給食展示会見学									
8. 栄養まつり見学 (日本栄養士会主催)									
9. 施設見学後指導 校外実習に向けた対策と準備									
10. 給食施設献立の要点確認									
11. 給食施設献立の作成 (基礎)									
12. 給食施設献立の展開方法 (応用)									
14. 校外実習報告会① (2年生前半グループ) への参加									
15. 校外実習報告会② (2年生後半グループ) への参加									
事前学習	施設見学に際しては、事前に各施設の特色を理解しておき、見学の意義・目的を整理しておくこと。								
事後学習	2年次の校外実習に向け、見学後は実務のイメージトレーニングを行っておくこと。								
履修上の注意	本科目への取り組み状況 (提出物・遅刻・欠席・受講態度など) によっては2年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。施設見学の時期は、見学先との都合により変動することがある。								
成績評価の方法・基準	平常点 50% (平常点は、授業への参加状況および受講態度等で総合的に判断する。) レポート 50% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)								
教科書	〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,9442 円〕								
参考書	〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔3024 円〕								

授業科目	給食管理基礎演習Ⅱ				担当者	益田 裕司			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
「栄養士」資格取得のために必須な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、実習先の業務内容について解説し、テーマをもって実習に臨めるようにする。実習後は報告会をおこない、より幅広い給食管理業務を理解できるようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
給食管理校外実習において、何を習得するべきかを整理し、実習先の施設・対象者の特性から学ぶべきテーマを自分で見いだせるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 給食管理校外実習の意義・目的の明確化									
2. 実習の心構えについての確認 身だしなみチェック									
3. 実習先の情報収集および確認 校外実習オリエンテーションについて									
4. 実習内容について 実習計画案作成(学校給食)									
5. 実習日誌等記録の書き方について ①様式の説明・注意点									
6. 実習日誌等記録の書き方について ②報告書の目的とポイント									
7. 実習日誌等記録の書き方について ③表現法・言葉使い									
8. 施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について									
9. 実習前課題についての準備と対策									
10. 自主研究のテーマについて									
11. 実習内容について 実習計画案作成(自衛隊駐屯地・保育所)									
12. 実習内容について 実習計画案作成(高齢者施設・その他)									
13. 校外実習終了後のまとめ、反省点について									
14. 校外実習報告会①(前半グループ)									
15. 校外実習報告会②(後半グループ)									
<b>事前学習</b>	報告書にふさわしい言葉や表現、文章構成などができるよう、日頃から新聞や書籍などに目を通しておくこと。								
<b>事後学習</b>	校外実習ノートの様式を見て報告書を書く練習をしておく。								
<b>履修上の注意</b>	本科目への取り組み状況(遅刻、欠席、受講態度、提出物)によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。また、実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 50%(平常点は、授業への参加状況および受講態度等で総合的に判断する。) レポート 50%(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)								
<b>教科書</b>	〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,944円〕								
<b>参考書</b>	〔臨地・校外実習書〕〔建帛社〕〔2,160円〕								

授業科目	給食管理実習 I				担当者	益田 裕司			
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者の嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 給食管理実習の概論									
2. HACCP 大量調理衛生管理マニュアル									
3. 大量調理器具機材の使い方と特徴について									
4. 既定献立による大量調理の実施① (前半グループ)									
5. 既定献立による大量調理の実施② (後半グループ)									
6. 給与栄養目標量 献立組み合わせ検討									
7. 試作① 予定献立提示									
8. 試作② 予定献立提示 発注書作成									
9. アンケート作成 検食簿									
10. 予定献立による調理実習① (4グループに分かれ、調理、下処理、配膳、作業計画等)									
11. 予定献立による調理実習② (4グループに分かれ、調理、下処理、配膳、作業計画等)									
12. 予定献立による調理実習③ (4グループに分かれ、調理、下処理、配膳、作業計画等)									
13. 予定献立による調理実習④ (4グループに分かれ、調理、下処理、配膳、作業計画等)									
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃									
15. 実習後の報告と反省・まとめ									
<b>事前学習</b>	調理実習時には献立内容と作業計画を把握しておくこと。								
<b>事後学習</b>	調理実習後、割り当てられた業務以外も確認しておき、給食提供における一連の作業がつながるようにしておく。								
<b>履修上の注意</b>	実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 50% (平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。) レポート 50% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)								
<b>教科書</b>	[給食運営・経営管理実習のてびき第5版] [西川貴子] [医歯薬出版] [2,268円] [栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集] [鈴木久乃] [建帛社] [2,700円]								
<b>参考書</b>	[新ビジュアル食品成分表] [大修館書店] [1,080円]								

授業科目	給食管理実習Ⅱ				担当者	益田 裕司			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
給食管理の実務について理解を深めるようにする。「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
より実践的な大量給食調理を行うために必要な食事の計画や調理・提供を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 班編成 献立計画									
2. 献立作成・検討 調理室清掃									
3. 大量調理機器を使った調理法の確認(前半グループ) 試作計画、食材購入計画									
4. 大量調理機器を使った調理法の確認(後半グループ) 試作計画、食材購入計画									
5. 試作 献立再検討									
6. 対象者に向けた栄養媒体作り 書籍の利用 アンケート作成 発注書作成									
7. 実習準備 作業工程表作成 衛生関連の書類確認									
8. 調理実習①(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
9. 調理実習②(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
10. 調理実習③(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
11. 調理実習④(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
12. 調理実習⑤(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
13. 調理実習⑥(6グループに分かれ、調理、下処理、配膳、献立説明、作業計画等を行う)									
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃									
15. 実習後の報告と反省・まとめ									
事前学習	日常から食材に関心を持ち、食材の重量、価格、季節などを知っておくこと。また、調理実習前には当日の作業計画を理解したうえで、実習に臨むこと。								
事後学習	他の班が作成した献立や作業計画に対しても、関心を持って学ぶこと。								
履修上の注意	担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。								
成績評価の方法・基準	平常点 50% (平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。) レポート 50% (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)								
教科書	〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,268円〕 〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2,700円〕								
参考書	〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,080円〕								





授業科目		栄養士基礎演習			担当者	益田 裕司			
単位数	1	必・選	栄(必)	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
給食管理校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて解説する。また、実習に必要な実務について授業する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
給食管理校外実習をより効果的に行なえるように、実際の給食施設で勤務実績のある栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス 栄養士の職場環境について									
2. 保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について									
3. 聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について									
4. 栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）									
5. 栄養士の職務内容と実習②学校（講演）									
6. 栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）									
7. 栄養士の職務内容と実習④病院（講演）									
8. 栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）									
9. 円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所									
10. 円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設									
11. 対象者との接し方、コミュニケーションについて									
12. 校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）									
13. 校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）									
14. 校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）									
15. まとめ 栄養士に求められるスキルについて									
事前学習	自分が栄養士として業務を行うイメージで聴講すること。疑問があれば質問できるようにまとめておくこと。								
事後学習	講演時の配布資料を見直して、不明な点があれば質問すること。								
履修上の注意	各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識をもつこと。また、聴講においては身だしなみにも十分注意すること。なお、各講演の時期に関しては講師の都合により変動することがある。								
成績評価の方法・基準	平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度等で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）								
教科書	〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔3,024円〕								
参考書	〔各施設における講演時の配布資料〕								



授業科目	食文化論				担当者	深澤 律子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
日本人は古代から食物を獲得し、その土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全でおいしい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で、外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
① 食べ物と人の関わりを歴史の変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。 ② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し、管理栄養士としての役割を認識できる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 日本人の食文化 : 食生活の歴史と食文化									
2. 日本の植物性食材: 稲作の伝播と調理									
3. " : 米食と麦食の歴史と文化									
4. " : 麦食文化 (小麦の加工)、雑穀食文化									
5. " : 豆食文化 (大豆と精進料理)									
6. " : 豆食文化 (醤油・味噌などの発酵食品)									
7. " : 芋食文化									
8. " : 野菜類の伝播									
9. " : 果物類・砂糖の伝播									
10. 日本の動物性食材: 畜肉食文化 (日本の風土と仏教)									
11. " : 魚介類食文化									
12. 食 事 様 式: 江戸前料理・茶懐石料理・食卓・郷土料理、									
13. " : 海外から日本への食文化の伝来									
14. " : 世界の料理と文化①									
15. " : 世界の料理と文化②、健康な食事、地中海食等									
16. 筆記試験									
事前学習	教科書の関連頁に付箋を付けて読んでおく。								
事後学習	配布資料をファイルに保管する。重要な語句にアンダーラインを引く。								
履修上の注意	受講時は教科書の関連頁を開く。毎回、講義のまとめレポートを提出。								
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、授業態度 10% (熱心さ等)								
教科書	〔食文化論 (生活科学双書)〕〔吉川 誠次〕〔建帛社〕〔2,160 円〕								
参考書	講義の際に、その都度参考文献を提示する。								

授業科目	食生活支援論 I			担当者	伊藤常久・濟渡久美・松尾 広				
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
健康で豊かな生活を送るために日本の食に関する現状を理解すると共に、それぞれの食生活を振り返りながら正しい食生活の基本を学ぶ。また、食に関する課題に様々な側面からアプローチし、今後の食生活の方向性について考え、取り組もうとする力を養う。このような学びを通じて、食生活アドバイザー資格取得に向けたアドバイスも行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
①健康の保持増進に向けた主体的な食生活を送る上で必要な知識を習得すること、そして、②食に関する地域や歴史との関わりを知ることで、豊かで持続可能な自身の食生活を考える力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食生活の概念～食生活の意義・機能・構造 (担当：伊藤)									
2. 栄養と健康① 五大栄養素とその働き (担当：伊藤)									
3. 栄養と健康② 食事バランスガイド・食生活指針 (担当：濟渡)									
4. 栄養と健康③ 生活習慣病とメタボリックシンドロームの概念 (担当：伊藤)									
5. 栄養と健康④ 生活習慣病予防と食生活 (担当：伊藤)									
6. 栄養と健康⑤ 成長期の課題 ダイエット・欠食 (朝食抜き)・「こ」食 (担当：伊藤)									
7. 食の安全① 食中毒 (担当：伊藤)									
8. 食の安全② 法律・環境 (担当：伊藤)									
9. 食文化と食習慣① 日本と世界 (担当：濟渡)									
10. 食文化と食習慣② 地域の食事・行事食 (担当：濟渡)									
11. 食文化と食習慣③ 旬の食材・食の諺・テーブルマナー (担当：濟渡)									
12. 食の流通 (担当：松尾)									
13. 食品表示 (担当：松尾)									
14. 食と社会生活 (担当：松尾)									
15. 今後の食生活の展望・まとめ (担当：松尾)									
16. 試験 (担当：伊藤)									
事前学習	講義で取り上げる事柄やキーワードについて、予め調べておくこと。								
事後学習	学習した内容は必ず復習し、理解を深めること。								
履修上の注意	食の話題や事柄について普段から関心を持つこと。食生活アドバイザー検定の内容に準ずるため、履修生は受験することが望ましい。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出 (50%)、筆記試験 (50%)。								
教科書	〔食生活アドバイザー3級公式テキスト〕〔FLA ネットワーク協会〕〔日本能率協会マネジメントセンター〕〔1,944 円〕								
参考書	なし								

授業科目	食生活支援論Ⅱ			担当者	伊藤常久・濟渡久美・池田展敏				
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
健康で豊かな生活を送るために日本の食に関する現状を理解すると共に、それぞれの食生活を振り返りながら正しい食生活の基本を学ぶ。また、食に関する課題に様々な側面からアプローチし、今後の食生活の方向性について考え、取り組もうとする力を養う。このような学びを通じて、食生活アドバイザー資格取得に向けたアドバイスも行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
①健康の保持増進に向けた主体的な食生活を送る上で必要な知識を習得すること、そして、②食に関する地域や歴史との関わりを知ることで、豊かで持続可能な自身の食生活を考える力を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 食生活の概念～食生活の意義・機能・構造 (担当：伊藤)									
2. 栄養と健康① 五大栄養素とその働き (担当：伊藤)									
3. 栄養と健康② 食事バランスガイド・食生活指針 (担当：濟渡)									
4. 栄養と健康③ 生活習慣病とメタボリックシンドロームの概念 (担当：伊藤)									
5. 栄養と健康④ 生活習慣病予防と食生活 (担当：伊藤)									
6. 栄養と健康⑤ 成長期の課題 ダイエット・欠食(朝食抜き)・「こ」食 (担当：伊藤)									
7. 食の安全① 食中毒 (担当：伊藤)									
8. 食の安全② 法律・環境 (担当：伊藤)									
9. 食文化と食習慣① 日本と世界 (担当：濟渡)									
10. 食文化と食習慣② 地域の食事・行事食 (担当：濟渡)									
11. 食文化と食習慣③ 旬の食材・食の諺・テーブルマナー (担当：濟渡)									
12. 食の流通 (担当：池田)									
13. 食品表示 (担当：池田)									
14. 食と社会生活 (担当：池田)									
15. 今後の食生活の展望・まとめ (担当：池田)									
16. 試験 (担当：伊藤)									
事前学習	講義で取り上げる事柄やキーワードについて、予め調べておくこと。								
事後学習	学習した内容は必ず復習し、理解を深めること。								
履修上の注意	食の話題や事柄について普段から関心を持つこと。食生活アドバイザー検定の内容に準ずるため、履修生は受験することが望ましい。								
成績評価の方法・基準	受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出 (50%)、筆記試験 (50%)。								
教科書	〔改訂版食生活アドバイザー2級公式テキスト〕〔FLA ネットワーク協会〕〔日本能率協会マネジメントセンター〕〔2,160円〕								
参考書	なし								

授業科目	テーブルコーディネート I (テーブルマナーを含む)					担当者	小林 知恵子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>テーブルコーディネートの基本理論を踏まえ、テーブルウェアの基礎知識、セッティング、カラーコーディネートの基本を講義。各国の文化に即したセッティングの実習を通し、表現方法、技術が習得出来るよう指導する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>フードコーディネーターに必要な、テーブルコーディネートの基本的理論を学ぶ。テーブルウェアの特徴、カラーの効果を理解し、各国の文化にふさわしいアイテムを正しく選択。コーディネートされた基本のテーブルセッティングが出来る様になる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 導入：授業の目標と授業展開、テーブルコーディネートとは・食空間のあり方									
2. テーブルコーディネートの基礎理論									
3. 食空間演出：食空間の構成（実習）・テーブルウェアの知識：リネンについて									
4. テーブルウェアの知識：洋食器（陶磁器）について									
5. テーブルウェアの知識：ガラス器、カトラリーについて									
6. 食空間演出：カラーコーディネートについて									
7. テーブルウェアの知識：センターピース・フィギュアについて									
8. 食空間演出：洋食の基本セッティング（実習）									
9. テーブルウェアの知識：和食器（陶磁器）について									
10. テーブルウェアの知識：和食器（漆器・箸）について									
11. 食空間演出：和食の基本セッティング（実習）									
12. 食空間演出：中国料理の基本セッティング（実習）									
13. 食空間演出：プランニングシートの作成について									
14. 食空間演出：プランニングシートの作成（テーマ自由）									
15. 食空間演出：プレゼンテーション（グループで作成したプランニングシートについて）									
16. 試験									
事前学習	テキストをよく読んでおくこと。								
事後学習	テキスト・参考書・ノートで、講義の内容について再確認すること。実習後は、生活の中でテーブルウェアに沢山触れ、知識を定着させること。								
履修上の注意	グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。								
成績評価の方法・基準	学期末の試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）								
教科書	「フードコーディネーター 教本3級」 「柴田書店」 「3,240円」								
参考書	「食空間コーディネーター テキスト3級」 「NPO 法人食空間コーディネート協会」 「2,571円」								

授業科目	テーブルコーディネートⅡ				担当者	小林 知恵子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	食専1年
<b>授業の概要</b>									
各国料理のテーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識について講義。校外実習では、プロのコーディネート作品に触れる機会を設け、時代に即した表現方法、芸術的創造性を磨き、その後、行事のテーブルコーディネート実習が実社会に繋がる様指導する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
テーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識を習得。フードサービスビジネスにおける食空間デザインについて理解を深める。現代のライフスタイルに即したテーブルコーディネートの実習を通して、食卓を通じた文化の伝承を大切に出来る様になる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理）									
2. テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）									
3. テーブルマナーとサービスマナー（中国料理）									
4. プロトコル（国際儀礼）の基礎知識									
5. フードサービスにおける食空間デザイン									
6. テーブル展見学（校外実習）									
7. 食空間演出：ハロウィン（実習）									
8. 食空間演出：七五三（実習）									
9. 食空間演出：クリスマス（実習）									
10. 食空間演出：お正月（実習）									
11. 食空間演出：バレンタイン（実習）									
12. 食空間演出：上巳の節句（実習）									
13. 食空間演出：端午の節句（実習）									
14. 食空間演出：母の日（実習）									
15. 食空間演出：ウエディング（実習）									
16. 試験									
事前学習	テキストをよく読んでおくこと。								
事後学習	講義の内容について再確認すること。 行事の食卓を実生活でテーブルコーディネートしてみること。								
履修上の注意	行事の慣習の知識を深め、実習に成果を発揮すること。								
成績評価の方法・基準	学期末の試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）								
教科書	「フードコーディネーター 教本3級」「柴田書店」「3,240円」								
参考書	「食空間コーディネーター テキスト3級」「NPO法人食空間コーディネート協会」「2,571円」								

授業科目	フードマネジメント				担当者	堀田 宗徳			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
我々の食生活の中で、外食・中食は欠くことの出来ないものとなっているが、外食・中食を体系的に学ぶことがほとんど無い状況である。この講義では、外食・中食を理解するため、外食・中食の定義、業種・業態論、産業構造、食材調達とメニュー戦略、出店政策など、外食・中食の基本理論を具体的事例を織り交ぜながら体系的に講義を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
I. 食全体の仕組み（フードシステム）を理解できるようにする。 II. 外食・中食（なかしやく）の基本理論を習得する。 III. 外食・中食をマネジメントできる能力を習得する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：これから行う講義の目的・内容、進め方、参考文献等について説明									
2. フードシステムの考え方と外食・中食のポジショニング									
3. 外食・中食の定義、飲食店の機能と業種・業態論									
4. 外食産業の産業構造、市場規模、大手外食企業のシェア率など									
5. 外食産業の出店政策1：事業展開の仕組み									
6. 外食産業の出店政策2：既存店の現状と最近の出店政策									
7. 外食産業の競争構造：売上高ランキング、参入障壁、価格競争									
8. 外食産業の食材調達：食材調達の原則、国産・輸入の割合など									
9. 外食産業のメニュープランニングとメニュー戦略									
10. 外食産業の経営指標：貸借対照表と損益計算書									
11. 中食産業の構造と戦略									
12. 外食・中食産業史：外食・中食企業の発展過程									
13. 消費者の外食・中食行動									
14. 食の安全・安心と企業のコンプライアンス、将来の外食・中食像									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	次回講義する重要なワードについて毎回事前に調べてくること								
事後学習	講義をした内容についての質問を考えてくることを指示する								
履修上の注意	毎回、プリントを配布する								
成績評価の方法・基準	授業への取組方、平常点、試験等を基に総合的に判断する 基準は、授業への取組み方 30%、試験等 70%								
教科書	授業前に岩渕著「外食産業論」を基にしたプリントを配布								
参考書	「新版フードコティネーター教本」「日本フードコティネーター協会」「柴田書店」「3,240円」								

授業科目	フードエンタティメント演習				担当者	池田 展敏・堀江 志穂			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
あらゆる食の分野を複合的にコーディネートするのがフードコーディネーターの仕事です。ここでは、フラワーアレンジメントによる食空間の演出技法を学び、また、ホテル・結婚式場のレストラン・食品工場の見学を通じ、食分野をさまざまな視点から理解することで、フードコーディネーターとしての資質の向上を目指す授業を行います。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
フラワーアレンジメントの基礎事項を修得し作品を作ることができる。食空間に大切な要素は何かを理解する。テーブルマナーを身につける。接客の考え方について理解する。商品開発や工場管理の概要について理解する。以上のことがらを文章や口頭で説明できる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：授業の進め方、フードコーディネーターとは何か。(池田)									
2. テーブルフラワーアレンジメント①：基本のオールラウンド (堀江)									
3. テーブルフラワーアレンジメント②：和食用アレンジメント (堀江)									
4. テーブルフラワーアレンジメント③：ハロウィンのアレンジメント (堀江)									
5. テーブルフラワーアレンジメント④：クリスマスのアレンジメント (堀江)									
6. 産学連携講座①：シティーホテルの構成 (会場見学) と厨房見学 (以下、池田)									
7. 産学連携講座②：ホテルのレストランにおける各演出									
8. 産学連携講座③：テーブルマナー講座									
9. ブライダル会場の見学①：パーティー会場の見学と接客について									
10. ブライダル会場の見学①：結婚式場における食事提供の考え方									
11. 食品工場の見学①：商品開発やブランド戦略									
12. 食品工場の見学②：食品衛生の実際について									
13. グループ学習：パーティー企画立案または宮城の加工食品に関する調査									
14. グループ学習：パーティー企画立案または宮城の加工食品に関して発表準備									
15. まとめの授業 (グループ学習の発表)									
事前学習	見学場所について事前に情報を調べておく。フードコーディネーター教本などで、フードコーディネーターの考え方を理解しておく。								
事後学習	校外の見学の後にレポートを課す。大学祭の飾りつけの中でフラワーアレンジメントの復習を行う。								
履修上の注意	食事や花代、交通費等の実費を徴収する。校外の見学では、身だしなみやあいさつ、礼儀に気をつけること。								
成績評価の方法・基準	フラワーアレンジメントの作品 (40%)、レポートの内容 (40%)。発表の準備と評価 (20%)。								
教科書	必要時にプリントを配布する。								
参考書	[フードコーディネーター教本 3 級][柴田書院][3,240 円]								



授業科目	コンピュータサイエンス概論				担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	食専2年
<b>授業の概要</b>									
情報社会において必要となるコンピュータとネットワーク社会に関する基礎知識と、その中で生活するためのモラルとセキュリティーについて学ぶように授業を行う。アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
コンピュータの仕組み(デジタルデータ、コンピュータを構成するハードウェア)を理解する。インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解する。ネットワーク社会で必要となるセキュリティーの知識とモラルを習得し、実践できる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ネットワーク社会と情報 アクティブラーニングの手法について									
2. 「デジタル(ビット)がコンピュータのデータの基本である」の調査									
3. 「デジタル(ビット)がコンピュータのデータの基本である」の発表準備									
4. 「デジタル(ビット)がコンピュータのデータの基本である」の発表									
5. 「コンピュータは5つの機能を持つハードウェアからなる」の調査									
6. 「コンピュータは5つの機能を持つハードウェアからなる」の発表準備									
7. 「コンピュータは5つの機能を持つハードウェアからなる」の発表									
8. 「インターネットはどのような仕組みになっているのか」の調査									
9. 「インターネットはどのような仕組みになっているのか」の発表準備									
10. 「インターネットはどのような仕組みになっているのか」の発表									
11. 「インターネットを安全に使うためにはどのようにすれば良いか」の調査									
12. 「インターネットを安全に使うためにはどのようにすれば良いか」の発表準備									
13. 「インターネットを安全に使うためにはどのようにすれば良いか」の発表									
14. 情報モラルに関する学習									
15. コンピュータのハードとソフトの発展および小テスト									
事前学習	各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないと、チーム学習が成り立たない。よって、十分な予習を心がけること。								
事後学習	授業で終えることのできなかつた調査や資料収集を行い、予定通りに発表できるように授業後のフォローを行うこと。								
履修上の注意	自ら参加することが大事な授業なので、積極性を持って取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	発表の準備と内容(15%×4=60%)、テスト(40%)。								
教科書	〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕								
参考書	なし								



# 子ども生活専攻専攻科目

# 子ども生活専攻専攻科目

授業科目		保育原理				担当者	三浦 主博			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専1年	
<b>授業の概要</b>										
<p>保育士養成課程における必修科目であり、「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。「保育」の意義、保育所と幼稚園の違い、保育所保育指針における保育の基本、保育の現状と課題について概説する。</p>										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
<p>「保育」の意義、保育所と幼稚園の違い、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史について理解し、保育の現状と課題について考察できるようになる。</p>										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション										
2. 保育の本質：保育の意義とその思想										
3. 保育の歴史と現状										
4. 保育の場①：家庭、家庭的保育										
5. 保育の場②：保育施設（保育所の法的位置づけ）										
6. 保育の場③：保育施設（幼稚園の法的位置づけ）										
7. 保育の場④：保育施設（保育所の現状）										
8. 保育の場⑤：保育施設（幼稚園の現状）										
9. 保育の場⑥：保育施設（幼保一体化と子ども・子育て支援新制度）										
10. 保育の場⑦：保育施設（幼保連携型認定こども園）										
11. 保育所保育の原理①：保育の特性										
12. 保育所保育の原理②：保育の目標										
13. 保育所保育の原理③：保育の方法										
14. 保育所保育の原理④：保育の環境										
15. 保育所保育の原理⑤：保育所の社会的責任										
16. 期末試験										
<b>事前学習</b>	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。									
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。									
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。授業内容をしっかりとノートに取ること。									
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況（20%）、及び期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。									
<b>教科書</b>	〔改訂 なぜからはじめる保育原理〕〔池田隆英他〕〔建帛社〕〔2,052円〕									
<b>参考書</b>	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269円〕									

授業科目		教育原理				担当者	安部 日珠沙		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
本講義では、教育に関する基礎的・基本的な理論、教育思想・歴史、現代の教育の観点や課題等に関する知識と理解を深めることを通して、自己の教育観・教育者観の構築を目指すとともに、自身の言葉でそれらを説明できる能力を養う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>2. 欧米や日本の教育思想の歴史的変遷やその取り組みについて理解する。</li> <li>3. 「教育」及び「教育者」に対する自分なりの観点を持つこと定義づけができる。</li> </ol>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 教育の目的と意義									
3. 教育と保育									
4. 西洋の教育思想・歴史（1）コメニウス、ルソーなど									
5. 西洋の教育思想・歴史（2）ペスタロッチ、フレーベルなど									
6. 西洋の教育思想・歴史（3）ヘルバルト、デューイなど									
7. 日本の教育思想・歴史（1）古代、中世、近世の学校など									
8. 日本の教育思想・歴史（2）倉橋惣三、城戸幡太郎など									
9. 子ども観と教育観									
10. 学習指導									
11. 生徒指導									
12. 「生きる力」									
13. 学力観									
14. 現代社会と教育課題									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	前回の授業内容を振り返る。また、授業前に学習項目を確認し、自分の問題意識を明確にしてから授業に臨む。								
<b>事後学習</b>	前回までの学習内容と照らし合わせながら、配布資料を読み返し、要点を整理しておく								
<b>履修上の注意</b>	毎時コメントペーパーに所見を書いて提出すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	期末試験 60% 受講態度（提出物の提出状況、内容など） 40%								
<b>教科書</b>	授業前に資料を配布する。								
<b>参考書</b>	適宜指示する。								

授業科目		児童家庭福祉論				担当者	三浦 主博		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
保育士養成課程における必修科目であり、「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。児童家庭福祉の概念・理念、法律、制度、福祉機関・児童福祉施設などについて概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
現代社会における児童家庭福祉の意義、児童家庭福祉と保育（保育所保育）との関連性、児童の人権、児童家庭福祉に関する制度・機関・施設（児童福祉施設）を理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 児童家庭福祉の概念・理念①（児童福祉とは？）									
3. 児童家庭福祉の概念・理念②（児童の権利）									
4. 児童家庭福祉の制度①（法律・機関）									
5. 児童家庭福祉の制度②（施設）									
6. 児童家庭福祉に関する法律①（法律系の基本）									
7. 児童家庭福祉に関する法律②（児童福祉法）									
8. 児童家庭福祉に関する法律③（児童手当・母子に関する法律）									
9. 児童家庭福祉の機関（児童相談所・福祉事務所など）									
10. 児童家庭福祉の施設①（乳児院・児童養護施設など）									
11. 児童家庭福祉の施設②（保育所・児童厚生施設など）									
12. 児童家庭福祉の施設③（障害児入所施設など）									
13. 児童家庭福祉の施設④（児童自立支援施設・児童心理治療施設など）									
14. 児童家庭福祉の現状と課題①（少子化問題）									
15. 児童家庭福祉の現状と課題②（児童虐待・DV など）									
16. 期末試験									
<b>事前学習</b>	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。								
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。授業内容をしっかりとノートに取ること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況（20%）及び、期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。								
<b>教科書</b>	〔最新保育資料集 2017〕〔子どもと保育総合研究所〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,160 円〕								
<b>参考書</b>	授業中に指示する。								

授業科目		社会福祉論				担当者	大瀬戸 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理の中における保育の位置づけや役割を学んだ上で、子どもやそれを取り巻く環境に関わる政策や制度を説明する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、今後、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を考えさせる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>この科目を学ぶことで、「人権意識」を培い、保育士としての資質を高めることを目指す。具体的には、社会福祉の思想や施策、課題などを学び、「人間の幸せ」について多角的に考える視野を持つことができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 社会福祉の理念									
3. 人権とは何か									
4. 社会福祉の思想の史的展開									
5. 欧米における社会福祉の成り立ち									
6. 社会福祉の制度体系									
7. 社会福祉関係各法（1）－「児童福祉法」を中心として－									
8. 社会福祉関係各法（2）－「社会福祉法」を中心として－									
9. 社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ									
10. 児童福祉の法体系の基盤									
11. 児童福祉の制度・行政・機関									
12. 社会福祉における保育士の役割について									
13. 社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化									
14. 社会福祉制度の現状と課題－特に保育士に求められる役割について－									
15. まとめ									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくことよ。								
<b>事後学習</b>	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
<b>履修上の注意</b>	社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などについて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
<b>教科書</b>	「社会福祉の基本体制第5版」〔吉田眞理〕「青踏社」「1,900円」								
<b>参考書</b>	授業の中で指示する								

授業科目	地域福祉論				担当者	大瀬戸 美紀			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>地域福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。子育て支援においては、地域で子育てを支える社会づくりが重要であるという認識が広まりつつある。ここでは、子どもが健やかに育つための環境整備に関する施策や地域的な取り組みの現状と課題について概観する。その上で、コミュニティワークの基礎を理解させる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>この科目を学ぶことで、あらゆる分野の社会福祉の共通的、基本的な展開方法を理解することを目指す。具体的には、地域福祉の中で子育て支援はどのように展開されているかを概観することで、社会に求められている新たな保育者の役割について認識することができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 地域福祉の理念									
3. 地域福祉展開の原則とサービス提供原理									
4. 地域福祉実践の現状									
5. 生活を支える諸サービスと福祉環境整備									
6. 地域における子育て相談について									
7. 地域における子育て支援とニーズのキャッチ									
8. ソーシャルサポートネットワークについて									
9. 地域福祉におけるボランティアの重要性									
10. コミュニティソーシャルワークと保育士の仕事									
11. 地域福祉の主体形成の方法論									
12. 地域における福祉教育と子育て支援									
13. 地域におけるNPOの取り組み：事例「地域から始まる子育て支援」									
14. NPO活動の現状と課題									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくことよい。								
事後学習	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
履修上の注意	身近な地域の活動について、地域のボランティア活動に参加するなどして体験的に調べてみるとよい。								
成績評価の方法・基準	平常点(50%)、試験(50%)で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
教科書	「地域福祉の理論と方法」[坪井 真他編]「(株)みらい」「2,600円」								
参考書	授業の中で指示する								

授業科目		相談援助				担当者	大瀬戸 美紀				
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年		
<b>授業の概要</b>											
<p>相談援助は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。保育士による保護者に対する相談援助の重要性は、今日広く認識されるところである。ここではまず、相談援助の意義と原則について説明し、その上で、相談援助の内容や方法を学ばせる。また、児童福祉施設における保護者支援の実際についても、事例を通して理解させる。</p>											
<b>授業の目標(到達目標)</b>											
<p>この科目を学ぶことで、ソーシャルワークの基礎知識・技術を習得することを目指す。具体的には、ソーシャルワークの理論や方法を学ぶことにより、子育て支援の方法や技術の基礎を習得することができるようになる。</p>											
<b>授業計画及び内容</b>											
1. オリエンテーション											
2. ソーシャルワークとはなにか											
3. 相談援助の定義											
4. 相談援助の対象											
5. 相談援助の技術											
6. 相談援助の実際①：事例研究（時間を設定した面接相談）											
7. 相談援助の実際②：事例研究（送迎時の相談）											
8. 相談援助の実際③：事例研究（子育て支援の場面での相談援助）											
9. 相談援助の実際④：事例研究（子どもを対象としたグループワーク）											
10. まとめ											
11. 試験											
<b>事前学習</b>		事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくといよい。									
<b>事後学習</b>		授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。									
<b>履修上の注意</b>		グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。									
<b>成績評価の方法・基準</b>		平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。									
<b>教科書</b>		「演習・保育と相談援助」[前田敏雄監修]「(株) みらい」2,000円									
<b>参考書</b>		授業の中で指示する									



授業科目		社会的養護				担当者	大瀬戸 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>社会的養護は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知り、問題を抱えた子どもたちの生活環境を整えるための具体的方法を考察させる。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>この科目を学ぶことで、主として日本における子どもの社会的養護について、その原理や内容・方法を理解することを目指す。具体的には、家庭に代わって子どもを養育する仕組みについて学ぶことにより、児童福祉施設において不可欠となっている専門的素養を習得することができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 児童養護の意味									
3. 児童養護が目指すもの									
4. 保育士が児童養護を学ぶ視点									
5. 児童養護の史的展開									
6. 社会的養護の最近の動向									
7. 児童養護の基本的な考え方									
8. 児童養護の種類と内容（1）：乳児院									
9. 児童養護の種類と内容（2）：母子生活支援施設									
10. 児童養護の種類と内容（3）：児童養護施設									
11. 児童養護の種類と内容（4）：障害児入所施設									
12. 児童養護の種類と内容（5）：児童自立支援施設									
13. 家庭的養護の種類と内容									
14. 施設養護における保育士の援助・支援の在り方について									
15. まとめ									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくことよい。								
<b>事後学習</b>	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
<b>履修上の注意</b>	身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
<b>教科書</b>	「保育と社会的養護原理」[大竹 智他編]「(株) みらい」「2,200円」								
<b>参考書</b>	授業の中で指示する								



授業科目		保育者論				担当者	三浦 主博			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年	
<b>授業の概要</b>										
<p>保育士養成課程における必修科目であり、「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。「保育者になるということ」について考えることから始め、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、学生自身が保育者としてのキャリア形成について考えることができるようにグループワーク等を行う。</p>										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
<p>保育者の役割や専門性について理解した上で、卒業後の自分自身のキャリア形成について考え、自分が目指す保育者像を明確にできるようになる。</p>										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション										
2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私・・・プレ保育者アイデンティティ										
3. 保育者の役割と責務・倫理										
4. 保育者の制度的位置づけ・・・資格・要件・職務内容（サービス・身分保障等）										
5. 保育者の専門性①：幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割										
6. 保育者の専門性②：保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質										
7. 保育者の専門性③：幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割										
8. 保育者の専門性④：子ども理解・保育の計画・実践・省察										
9. 保育者の協働①：保護者支援										
10. 保育者の協働②：幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続										
11. 保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携										
12. 保育者の専門職的成長①：保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）										
13. 保育者の専門職的成長②：生涯発達とキャリア形成【グループワーク】										
14. 保育者の専門職的成長③：自分たちが目指す保育者像【グループワーク】										
15. まとめ										
<b>事前学習</b>	教科書・参考書の該当部分について熟読した上で次回までの課題（毎回プリントを配布）を行い、学習内容を確認したうえで授業に臨む。									
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。									
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業毎の提出課題を必ず提出すること。									
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況（30%）、及び提出課題（70%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。									
<b>教科書</b>	〔保育者のためのキャリア形成論〕〔石川昭義他〕〔建帛社〕〔2,160円〕									
<b>参考書</b>	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269円〕									

授業科目	発達心理学 I				担当者	三浦 主博			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
幼稚園教諭養成課程（教職に関する専門科目：教育の基礎理論に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学 I）」）の必修科目である。「発達」とは何か？ということを考えることから始め、乳児期及び幼児期の心身の発達特性、及び発達過程について様々な観点から概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
保育実践や子どもの発達にかかわる心理学の基礎を修得し、乳児期及び幼児期の心身の発達の理解とそれぞれの発達期の特徴を理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 発達とは？①：発達心理学における発達／発達と成長の違い									
3. 発達とは？②：発達を規定する要因（遺伝と環境）／発達の捉え方（発達曲線と発達段階）									
4. 身体・運動機能の発達①：身体発育									
5. 身体・運動機能の発達②：乳幼児期の運動機能の発達									
6. 社会的能力の発達①：微笑の発達									
7. 社会的能力の発達②：社会的相互交渉／社会的参照									
8. 社会的能力の発達③：愛着の成立									
9. 感情の発達①：感情の発達									
10. 感情の発達②：自己主張と自己抑制／道徳性と思いやり									
11. 認知機能の発達①：ピアジェの発達論									
12. 認知機能の発達②：ピアジェの発達段階									
13. 認知機能の発達③：変わる発達観（ピアジェとヴィゴツキー）									
14. パーソナリティの発達①：エリクソンの発達論									
15. パーソナリティの発達②：エリクソンの発達段階									
16. 期末試験									
事前学習	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
事後学習	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。								
履修上の注意	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。授業内容をしっかりとノートに取ること。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組みの状況（20%）、及び期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。								
教科書	〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博他〕〔萌文書林〕〔2,160 円〕								
参考書	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205 円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205 円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269 円〕								

授業科目		発達心理学Ⅱ			担当者		三浦 主博		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
幼稚園教諭養成課程（教職に関する専門科目：教育の基礎理論に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学Ⅱ）」）の必修科目である。「発達心理学Ⅰ」で学んだ内容を復習しながら、保育所保育指針における発達過程区分毎に子どもの発達に応じた保育や援助について概説する。また子どもの発達と保育についての理解を深めるために、「保育所実習」で学んだ内容をもとにグループ討議や発表を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
「発達心理学Ⅰ」で学んだ「子どもの発達の理解」をもとに、子どもの発達過程に応じた保育の実践や、発達援助について理解を深めることができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション：発達心理学Ⅰの復習									
2. 子どもの発達と保育：子どもの発達理解の重要性・発達過程と発達の課題									
3. 発達過程に応じた保育①：0・1・2歳児									
4. 発達過程に応じた保育②：3・4・5歳児									
5. 保育における発達援助：発達の課題に応じた援助やかかわり									
6. 子どもの発達の実際①：保育所実習Ⅰでの観察内容 [グループワーク]									
7. 子どもの発達の実際②：           "   [口頭発表]									
8. 子どもの発達に応じた保育実践①：保育所実習Ⅱでの観察・実践内容 [グループワーク]									
9. 子どもの発達に応じた保育実践②：   "   [口頭発表]									
10. まとめ									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
事後学習	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。								
履修上の注意	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。積極的にグループワーク等に参加すること。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組みの状況（30%）、及び提出課題（70%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。								
教科書	〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博他〕〔萌文書林〕〔2,160円〕								
参考書	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269円〕								

授業科目		教育心理学				担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
前半の「発達と教育」では虐待によって心身に発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せること、人間は他者の援助によって発達が促進されることなどについて解説する。後半の「授業と学習」では学習の転移と記憶を高める指導法や有意味学習の効果について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
1 虐待によって心身に深刻な発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せることを理解できる。 2 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。 3 学習の転移と記憶を高めるためには、ルールと事例をどのように関連づけて学ぶのがよいか、理解できる。 4 有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス (授業内容と教育目標)									
2. 「赤ちゃんー成長の不思議な道のりー」(NHK スペシャル) の視聴									
3. 虐待による発達の遅れの障害と補償教育の事例									
4. 人間における臨界期、敏感期の問題									
5. 発達障害ー学習障害、高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群の理解と支援ー									
6. 発達の成熟優位説とそれに反する事例									
7. IQ の遺伝決定論ー人間の測り間違いー									
8. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」									
9. ルール (法則) 学習の事例とその長所									
10. 「象徴事例」の提案とその使用									
11. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー①小学3年「金属ならば電気を通す」の授業ー									
12. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー②帰納法、演繹法に対する検証法の効果ー									
13. 有意味学習と機械的暗記学習ーシグナリング・先行オーガナイザー・スキーマなどー									
14. ルールによって意味を理解するー「砂漠は地球のどこにあるのか」の模擬授業を通してー									
15. 機械的暗記学習に基づく学習観・知識観に対する批判									
16. 学期末試験									
<b>事前学習</b>	シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくこと。								
<b>事後学習</b>	作成したノート、配られたプリントをもう一度、見直し、わかったところ、わからないところを明らかにしておくこと。ノートは後で見てわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
<b>履修上の注意</b>	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	試験の成績 90%、受講態度 10%								
<b>教科書</b>	授業前の前にプリントを配布する								
<b>参考書</b>	授業の中で適宜紹介する								

授業科目		臨床心理学				担当者	針生 隆		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>まだまだ謎が多い心（脳）のメカニズムを概説し、科学として語られる「心」、科学として語られない「心」を概説し、子どものメタ認知の発達過程を紹介する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>心理学と精神医学の支流からなる臨床心理学の概要の学びを通して、心理テスト、心理療法の基礎的習得を目指す。またホップ心理学などとの差異が理解できるようになることをねらいとする。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. はじめに									
2. 脳のメカニズムについて									
3. 心理学・精神医学の世界									
4. 臨床心理学の世界									
5. 意識とは									
6. 芸術を鑑賞する心Ⅰ（絵画）									
7. 芸術を鑑賞する心Ⅱ（音楽）									
8. リクエストテーマによる学び									
9. 認知心理学Ⅰ（子どもの情動）									
10. 認知心理学Ⅱ（子どもの言語発達）									
11. カウンセリング・セラピー領域の基礎知識と技能									
12. 絵本についてのフィールドワーク①（絵本についての説明）									
13. 絵本についてのフィールドワーク②（絵本に関する調査）									
14. 絵本についてのフィールドワーク③（絵本の構成要件の検証）									
15. まとめ									
<b>事前学習</b>	高校時代の現代社会、倫理の復習								
<b>事後学習</b>	講義では、基本的な話題提供に過ぎないので、各自が興味を持ったテーマ、及び授業で紹介する参考文献など素材として、図書館で学習することが望ましい。								
<b>履修上の注意</b>	常に歴史性のある音楽とか美術などの芸術作品にふれること。 選択授業なので、受講態度の評価に重きをおく。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	ミニレポート 20%、期末レポート 50%、受講態度 30%、								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。								
<b>参考書</b>	授業で紹介								

授業科目	親子カウンセリング論				担当者	針生 隆			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
夫婦、親子関係、家族の歴史性、現況を紹介し、家族の臨床・病理へと進み、カウンセリングの基礎、家族療法などを通して、家族のゆくえを概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
社会的構成の基本である「家庭とは」について考え、その環境における「家族とは」へと展開し、父と子、母と子、兄弟姉妹関係などについてカウンセリングの基礎理論からの理解をねらいとする。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. はじめに									
2. 家族とはⅠ (様々な風景)									
3. 家族とはⅡ (結婚・夫婦・子育て)									
4. 家族とはⅢ (親子関係)									
5. 子育て現場からの報告									
6. 日本と他国の子育ての比較について									
7. ロールプレイ①(家族のコミュニケーションについて)									
8. ロールプレイ②(虐待について)									
9. ロールプレイ③(保育者と保護者の会話)									
10. 事例を用いてのレポート発表①									
11. 事例を用いてのレポート発表②									
12. 事例を用いてのレポート発表③									
13. 家族心理学に基づく「心理テスト」「心理療法」の紹介									
14. 家族と法律と施策と家族の未来像									
15. まとめ									
事前学習	「家族」に関するニュース、時事問題を確認すること。								
事後学習	講義では、話題提供にすぎないので、興味あるテーマ、掘り下げて学習してほしいと指示するテーマは学んでほしい。								
履修上の注意	レポーターとしての発表評価に重きをおく。								
成績評価の方法・基準	ミニレポート 20%、期末レポート 30%、受講態度 50%								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	授業で紹介								

授業科目	子どもの保健 I					担当者	千葉 明子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専1年
授業の概要									
子どもの健康、心身の発育、発達と栄養、事故・けがへの対応などについて説明する。									
授業の目標(到達目標)									
学生各々が自らの理想像をもち、大人のミニチュアではない様々な可能性を持つ子どもの特性を理解し、その心と身体の健康と安全を保持、増進する実践活動に必要な十分な知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 子どもの保健 (理想の保育者)									
2. 子どもの健康と保健									
3. 低出生体重児・新生児と子どもの発育									
4. 運動機能の発達									
5. 精神機能の発達									
6. 生理機能の発達									
7. 感覚器の発達									
8. 心の健康① (心身症、問題行動、習癖異常など)、慢性疾患									
9.     "     ② (児童虐待、発達障害)									
10. 乳児期の栄養 (母乳、人工乳、特殊ミルク、離乳食など)									
11. 幼児期の食と栄養、肥満、生活習慣病、食育など									
12. 子どもの事故									
13. 子どもに多いケガ、症状等の対処									
14. 救急処置、心肺蘇生、AED									
15. まとめとワーク									
事前学習	教科書に目を通して問題意識をもって授業にのぞむこと。								
事後学習	教科書、プリント (授業で配布)、小テストの復習を通して知識の定着をはかる。								
履修上の注意	講義出席、受講態度重視 (欠課届の提出) レポートの提出のメ切期日を守ること。								
成績評価の方法・基準	平常点 60% (平常点は授業への参加、毎時間行う小テストの結果 (カンニング不可) 等で総合的に判断する。) レポート 40% (必ず提出、未提出は評価の対象としない。)								
教科書	[保育者・養護教諭を目指す人のための「子どもの保健 I・II」] [大澤眞木子監修] [日本小児医事出版] [2,700円]								
参考書	使用しない (授業でプリントを配布)								



授業科目		子どもの保健Ⅱ				担当者	千葉 明子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
子どもの症状と対応、様々な疾患と予防、保育環境、母子保健などについて説明する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
学生が自らの理想とする保育士像をもち、その実現にむけて、大人のミニチュアではない様々な可能性を持つ子どもの特性を理解し、心身の健康と安全を保持・増進する実践活動に必要な十分な知識を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 子どもの健康状態の把握、症状と対応									
2. 子どものかかりやすい病気									
3. 呼吸器疾患、耳鼻咽喉疾患、眼の疾患									
4. 消化器疾患、食中毒、脱水									
5. 皮膚疾患とスキンケア、泌尿器の疾患、骨格・筋疾患と成長痛									
6. 脳・神経疾患、血液疾患、悪性疾患									
7. 循環器疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー総論									
8. 免疫・アレルギー疾患									
9. う歯、その他の感染症（寄生虫、ペットなど、血液からうつるもの）川崎病、S I D S など									
10. 先天異常									
11. 感染症の予防（予防接種、学校感染症、健診）									
12. 保育環境①（衛生管理、安全対策）									
13.     〃     ②（熱中症対策、化学物質・煙草等、避難・不審者訓練）									
14. 職員の健康管理、母子保健、専門機関・地域との連携など									
15. まとめとワーク									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	教科書に目を通し、問題意識をもって授業にのぞむこと。								
<b>事後学習</b>	教科書、プリント（授業で配布）、小テストの復習を通して知識の定着をはかる。								
<b>履修上の注意</b>	講義出席、受講態度重視（欠課届の提出）								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点 60%（平常点は授業への参加、毎時間行なう小テストの結果（カンニング不可）等で総合的に判断する。）期末試験 40%（カンニング不可）								
<b>教科書</b>	〔保育者・養護教諭を目指す人のための「子どもの保健Ⅰ・Ⅱ」〕〔大澤眞木子監修〕 〔日本小児医事出版〕〔2,700円〕								
<b>参考書</b>	使用しない（授業でプリントを配布）								



授業科目	子どもの保健演習				担当者	岩佐 あけみ			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
1. 子どもの健康保持増進のために必要な援助、技術、応用能力を学び、実践できるようにする。									
2. 「子どもの保健Ⅰ、Ⅱ」で学んだ事を生かし、想像力を持って演習ができるようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
1. 健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。									
2. 日常の養護の具体的方法について学ぶことができ、実際にやってみることができる。									
3. 日常起こりうる症状やケガに対する手当を身につけることができる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 子どもの保健演習 オリエンテーションと保健計画について									
2. 保健計画立案 感染防止について									
3. 身体計測の意義と実施・評価 (計測し評価するまで)									
4. バイタルサインのチェックとその評価									
5. 子どもの基本的生活習慣の確保(睡眠・早起き・朝ごはん) 保健便り作成 [課題Ⅰ]									
6. 演習①子どもの養護、日常の世話① 抱き方、衣服の着脱、おむつ交換、スキンケア									
7. 演習②子どもの養護、日常の世話② 歯磨き、調乳、遊び									
8. 演習③沐浴、抱き方、衣服の着脱									
9. 演習④沐浴、抱き方、衣服の着脱 [演習、実施テスト・課題Ⅱ]									
10. 子どもによくある症状の手当									
11. 事故と安全教育(ビデオ学習含む)									
12. 子どもに起こりやすい事故の対応									
13. 三角巾・包帯の扱い方(ビデオ学習含む)									
14. 子どもの心肺蘇生法									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	日常的に子どもと接する機会や観察する機会を作り、身近な子どもの健康を守るにはなにが必要か考える。								
事後学習	保健活動を積み重ねることにより、学んだ知識、技術だけでなく、異なる方法や考え方があることを理解し、子どもにとってよりよい方法は何かを選択できる。								
履修上の注意	子どもに関する情報に関心を持つ。思いやりのある優しい元気な子ども達を育ててほしい。								
成績評価の方法・基準	筆記試験 50% レポート提出・実技 35% 受講状況 15%(受講態度が悪い時や遅刻は減点)								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で指示する								

授業科目	子どもの食と栄養 I				担当者	済渡 久美			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
乳幼児期の栄養の意義と特徴、児童福祉施設の「食」について解説する。乳幼児期の食事調製を学習するために調乳・離乳食の調理実習を実施する。保育者として、望ましい子どもの食生活への関わりを学習する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
子どもの発達段階に適した栄養の基本を理解し、保育者として子どもが心身共に健全な発育・発達をするための「食」分野での支援方法を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：子どもの健康と食生活									
2. 栄養に関する基礎知識 食べる機能・消化吸収機能の発達									
3. 新生児・乳児期の栄養 新生児期・乳児期の特性・乳汁栄養									
4. 実習① 調乳									
5. 離乳期の栄養 離乳食									
6. 調理の基礎知識									
7. 実習② 段階的な離乳食 主食									
8. 実習③ 段階的な離乳食 副食									
9. 幼児期の栄養特性と児童福祉施設における食生活 保育所給食									
10. 食育① 食育基本法・食事バランスガイド・バランスのよい食事について									
11. 食育② バランスのよい食事の実際：3・1・2弁当箱法									
事前学習	教科書を熟読すること。								
事後学習	実習についてはレポートを作成する。								
履修上の注意	保育所実習・施設実習に対応できるように授業日程を組んであるので、有意義に活用するように取り組むこと。調理実習では基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	平常点 40%（授業への取り組み状況等で総合的に判断する）、 レポート 30% 発表 30%								
教科書	配布プリント								
参考書	なし								

授業科目	子どもの食と栄養Ⅱ				担当者	済渡 久美			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
乳幼児期の食の安全、食育について解説する。調理保育の効果を学習するために幼児期の間食・日常食・饗応食献立の調理実習を実施する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
子どもの発達段階に適した栄養の基本を理解し、保育者として子どもが心身共に健全な発育・発達をするための「食」分野での支援方法を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：幼児期の食事の実際について・日常食・間食・饗応食									
2. 幼児期の食生活の現状と課題 国民健康栄養調査・乳幼児栄養調査結果									
3. 食の安全 特別な配慮を要する子どもへの対応									
4. 実習① 調理保育 子どもとともに作る間食 洋菓子									
5. 実習② 調理保育 子どもとともに作る間食 和菓子									
6. 実習③ 幼児期の日常食 主食・主菜									
7. 実習④ 幼児期の日常食 副菜・汁									
8. 実習⑤ 行事食（饗応食）の調理 クリスマス									
9. 実習⑥ 行事食（饗応食）の調理 クリスマス									
10. 食育③ 3・1・2弁当箱法リマインドコンテスト									
11. 食育④ バランスのよい食事の実際の確認									
事前学習	教科書を熟読すること。								
事後学習	実習についてはレポートを作成する。								
履修上の注意	保育所実習・施設実習に対応できるように授業日程を組んであるので、有意義に活用するように取り組むこと。調理実習では基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗い、等衛生面）をしっかり認識して取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	平常点 40%（授業への取り組み状況等で総合的に判断する）、 レポート 30% 発表 30%								
教科書	配布プリント								
参考書	なし								

授業科目		家庭支援論				担当者	大瀬戸 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>保育所における子育て支援は、次世代支援対策推進のために重点的に行っていかなければならない課題の1つであるが、保育所のみで完結できるものではない。各関連機関との連携が不可欠である。ここではまず、子どもを取り巻く環境及び家族機能の変化を概観する。その上で家族のニーズに応じた実践的支援方法と社会資源を学ぶ。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>家族援助論は、保育の対象の理解のための科目である。この科目を学ぶことで、現代の家族が抱える問題を概観し、実際のな子育て支援の方法について考えることを目指す。具体的には、家族ソーシャルワークの基礎的知識・技術を習得し、子育て支援の現場で生かすことができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 子育てと家族									
3. 家族の動向と現状									
4. 家族を取り巻く社会環境の変化									
5. 子育てをめぐる問題とその背景									
6. 子育て家庭支援の政策と制度（1）保育所での保育サービス等について									
7. 子育て家庭支援の政策と制度（2）ファミリー・サポート・センター事業等について									
8. 子育て家庭支援の政策と制度（3）その他の保育サービスについて									
9. 子育て家庭支援のあり方									
10. 家族支援の展開過程（1）相談援助技術を応用しての保育場面面接等の展開過程									
11. 家族支援の展開過程（2）相談援助技術を応用してのお便り帳などの記載について									
12. 相談・支援者（保育士）の役割と基本的態度									
13. ケーススタディ ー子育て支援室における相談・支援ー									
14. ケーススタディ ー特別なニーズを持つ家族の支援ー									
15. まとめ									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくことよ。								
<b>事後学習</b>	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
<b>履修上の注意</b>	学生と教員とが一緒に授業を作り上げていく「双方向型」授業を目指すので、授業の中でたくさん考え、たくさん意見を話して欲しい。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
<b>教科書</b>	「保育と家庭支援論」[江村圭壯他編]「学文社」「2.000円」								
<b>参考書</b>	授業の中で指示する								

授業科目	保育計画論				担当者	山崎 敦子			
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
保育課程論で学んだ保育計画が、実態把握、計画、実践、反省、評価、改善の流れがあることを基に、実際に指導計画を立て、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるように概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解できるようになる。また、実態把握、計画、実践、反省、評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解することができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 指導計画の作成に際して									
2. 指導計画の実際①：ディリープログラム書き写し									
3. 指導計画の実際②：書き写したディリープログラムから									
4. 指導計画の実際③：保育者の援助、配慮について									
5. 指導計画の実際（3～5歳児）④： // (登園、身支度)									
6. 指導計画の実際（3～5歳児）⑤： // (好きな遊び)									
7. 指導計画の実際（3～5歳児）⑥： // (後片付け)									
8. 指導計画の実際（3～5歳児）⑦： // (朝の集まり)									
9. 指導計画の実際（3～5歳児）⑧： // (昼食)									
10. 指導計画の実際（3～5歳児）⑨： // (帰りの集まり)									
11. 指導計画の実際（3～5歳児）⑩： // (降園準備・降園)									
12. 模擬保育の指導計画①：作成									
13. 模擬保育の指導計画②：振り返り・解説/指導計画書の実際（0～2歳児）①（排泄）									
14. 指導計画の実際（0～2歳児）②（午睡）									
15. 指導計画の実際（0～2歳児）③（授乳・食事）・全日指導計画作成									
16. 期末試験									
<b>事前学習</b>	既習の保育用語を整理し、きちんと漢字で書けるようにしておく。								
<b>事後学習</b>	指導計画のねらい、子どもの活動、保育者の配慮及び援助、環境構成について学習したポイントを整理し、まとめておく。								
<b>履修上の注意</b>	保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業の出席を重視する。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点（提出物・受講態度）（40％）期末試験（60％） 欠席が1/3以上の者には単位を認定しない								
<b>教科書</b>	〔教育課程・保育課程論〕〔河邊貴子〕〔東京書籍〕〔1,680円〕								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目		保育内容総論				担当者	山崎 敦子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b> 幼稚園や保育所等の保育施設における保育内容を具体的な実践につなげて理解し、環境を通して行う保育や遊びによる総合的な指導等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 保育内容を総合的に理解すると共に、子ども理解及び保育の基本を踏まえた保育内容の展開について具体的に学ぶ。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 保育内容とは何か①：幼稚園教育要領と保育内容（5領域について）									
3. 保育内容とは何か②：保育所保育指針と保育内容									
4. 現代社会における保育の課題①（少子化、子育て支援）									
5. 現代社会における保育の課題②（小学校との連携、認定子ども園）									
6. 保育内容の歴史の変遷									
7. 0歳児の生活と保育内容									
8. 1歳児の生活と保育内容									
9. 2歳児の生活と保育内容									
10. 3歳児の生活と保育内容									
11. 4歳児の生活と保育内容									
12. 5歳児の生活と保育内容									
13. 6歳児の生活と保育内容									
14. 遊びと保育内容①：集団遊び・ゲーム（1）（戸外遊び）									
15. 遊びと保育内容②：集団遊び・ゲーム（2）（室内遊び）									
16. 期末試験									
<b>事前学習</b>	幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書に目を通しておくこと。								
<b>事後学習</b>	0歳児～6歳児までの各発達段階の子どもの特性及び保育者の援助・配慮の留意点をしっかりとまとめ、理解しておく。								
<b>履修上の注意</b>	保育士資格取得の必修科目及び幼稚園教諭免許取得の必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点（提出物・受講態度）（40％）期末試験（60％） （欠席が1/3以上の者には単位を認定しない）								
<b>教科書</b>	[子どもと共に学びあう演習・保育内容総論][井上孝之・奥山優佳・山崎敦子][みらい][2,000円]								
<b>参考書</b>	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーバル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーバル館][205円] [幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーバル館][269円]								

授業科目		保育内容(健康Ⅰ)				担当者	土屋 葉子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>幼児の心とからだの発育発達について概要を捉える。また、子どもの成長発達について、具体的な子どもの姿を通して考える。さらに、保育者の望ましい保育における指導と援助について理解を深めるよう解説する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>保育における幼児の健康に関する諸課題について学び、健康な幼児を育てる為に必要な基礎知識を修得する。また、幼児に対する具体的な対応力を身につける。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス：領域「健康」における保育内容についてのグループ討論									
2. 発達の見方ととらえ方「発達の概要」									
3. 運動発達の方向性及び量と質 ビデオ視聴とグループ討論									
4. 知的発達の進み方									
5. 情緒の発達の概要									
6. 社会性の発達の概要									
7. パーソナリティの発達									
8. 心の安定と体の発達及び活動体力									
9. 心の安定を促すもの									
10. 生活習慣と遊び 子どもたちの姿についてビデオ視聴と討論									
11. ルールのある遊びと保育者の援助									
12. 道具を使った遊びと保育者の援助（指導案作成）									
13. 道具を使った遊びと保育者の援助（発表）									
14. 健康と生活リズム									
15. 安全指導及びまとめの講義									
16. 試験									
<b>事前学習</b>	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の解説書の関連項目を読む。								
<b>事後学習</b>	見学実習等において学んだことについて確認する。								
<b>履修上の注意</b>	教科書を持参し、ノートをしっかりとる。また配布資料をファイルする。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への参加状況及び試験（70%）レポートや提出物等（30%）、								
<b>教科書</b>	「幼稚園教育要領解説」「フレーベル館」「205円」 「保育所保育指針解説書」「フレーベル館」「205円」								
<b>参考書</b>	〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔Ⅱ〕〔269円〕								



授業科目		保育内容(健康Ⅱ)				担当者	土屋 葉子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年	
<b>授業の概要</b>										
<p>幼児を取りまく状況の様々な変化の中で、健康な幼児を育てるための保育者の役割について、指導計画や指導上の問題点を踏まえ解説する。また、家庭や地域との連携にもふれながら社会全体で子どもを育てることについて考えていく。</p>										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
<p>保育における幼児の健康に関する諸課題及び保育者の役割・指導と支援について学び、実践力を身につける。</p>										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. ガイダンス 幼児理解と健康、実習内容についてのグループ討論										
2. 子どもの健康と環境構成 遊具の配置										
3. 固定遊具の生かし方と保育者の支援										
4. 自然を生かす遊びと保育者の支援										
5. アスレチック遊具の構成を考える										
6. 室内遊びと保育の工夫										
7. 幼児の生活習慣の獲得										
8. 遊びの中で育む生活習慣 遊びと保育者の援助										
9. 幼児の体力づくり、スポーツ指導										
10. 幼児の病気、アレルギー及びまとめの講義										
11.										
12.										
13.										
14.										
15.										
16.										
事前学習	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の解説書の関連項目を読む。									
事後学習	新聞やテレビに出てくる学んだことの関連記事をスクラップする。									
履修上の注意	現場で実践に結びつく力をつける心掛けが必要である。									
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（70%）、レポート・提出物（30%）									
教科書	「幼稚園教育要領解説」「フレーベル館」「205円」 「保育所保育指針解説書」「フレーベル館」「205円」									
参考書	〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔Ⅱ〕〔269円〕									

授業科目		保育内容(人間関係Ⅰ)				担当者	大坪 豊		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」において、「保育内容」として設定されている5領域のうちの一つ「人間関係」に関する領域である。子どもたちの心身の発達と人とのかかわりの発達を具体的事例を見つめながら理解を深めるようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
子どもの人間関係の基礎的な理論や保育現場の事例を通して、様々な環境における人間関係についての理解と、保育者として子どもの人とのかかわりについて考えるようになることを目標とする。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1.	オリエンテーション								: 授業の目的とねらい, 授業の計画
2.	保育内容「人間関係」とは								: 「保育所保育方針」から
3.	〃								: 「幼稚園教育要領」から
4.	人とのかかわりとその発達								: 人とのかかわりの筋道
5.	〃								: かかわりの難しい子ども(軽度発達障害)
6.	子どもの生活と人とのかかわり								: 家庭生活と人とのかかわり(子育て白書から)
7.	〃								: 地域社会と人とのかかわり
8.	人とのかかわりを育てる保育実践								: 保育者とのかかわり
9.	〃								: 保育所生活を中心とした人とのかかわり①1-2歳児
10.	〃								: 幼稚園・保育所生活を中心とした人とのかかわり②3-5歳児
11.	〃								: 異年齢の子どもたちとのかかわり
12.	保育者に望まれる姿勢								: コミュニケーション能力を育てる場と機会
13.	〃								: 「心を結ぶお楽しみ会」をつくろう①計画
14.	〃								: 「心を結ぶお楽しみ会」をつくろう②実施
15.	ま	と	め						: 授業のまとめ(望まれる保育者となるために)
<b>事前学習</b>	授業で指示する内容について積極的に取り組むこと。								
<b>事後学習</b>	学習内容を整理整頓すること。(授業ファイル内容の整理整頓)								
<b>履修上の注意</b>	授業に積極的に臨むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	レポートや授業ファイル等提出物(含提出期限), 受講態度等を総合的に評価する。概ね, レポート(20%), 提出物(20%), 受講態度(授業参加への積極性)(60%)とする。								
<b>教科書</b>	なし								
<b>参考書</b>	[幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円]								
	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]								



授業科目		保育内容(環境Ⅰ)				担当者	山崎 敦子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年	
<b>授業の概要</b>										
領域「環境」の内容を扱う。幼児が周囲のあらゆる環境に主体的にかかわり、様々な刺激を受けながら、遊びや活動を展開し、充実感や満足感を味わうための保育者の援助の在り方について学習する。また、具体的な環境構成や保育実践の展開の仕方について概説する。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「環境」について理解すると共に、総合的観点から保育内容の理論と実践を学ぶ。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション：保育内容「環境」とは										
2. 保育の基本と保育内容「環境」										
3. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1) (秋の虫飼育・観察①)										
4. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2) (秋の虫飼育・観察②)										
5. 領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり (お散歩バッグ製作)										
6. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1) (散歩)										
7. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2) (自然物を使った製作)										
8. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3) (製作発表)										
9. 環境構成について(1)：魅力的な環境構成とは										
10. 環境構成について(2)：保育室内の環境構成										
11. 環境構成について(3)：指導計画の環境構成・準備物の書き方・人的環境について										
12. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4) (クリスマスカード作り)										
13. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5) (こままわし①)										
14. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(6) (こままわし②)										
15. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(7) (豆まき)										
<b>事前学習</b>	幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく。									
<b>事後学習</b>	身の回りの自然環境(動植物、自然事象など)に関心を寄せたり、その時期ならではの季節行事や活動を意識しながら生活する。									
<b>履修上の注意</b>	教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み(受講態度)を重視する。									
<b>成績評価の方法・基準</b>	平常点(受講態度)(50%) レポートや提出物(50%) 欠席が1/3以上の者には単位を認定しない									
<b>教科書</b>	[子どもと共に育ちあうエピソード保育者論][井上孝之・山崎敦子][みらい][2,000円]									
<b>参考書</b>	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]									

授業科目		保育内容(環境Ⅱ)				担当者	山崎 敦子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
子どもを取り巻く望ましい環境を踏まえ、発達の基礎を培うために必要な環境作りについて理論的に学び、領域「環境」の内容を様々な体験を通して理解できるよう概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「環境」について、具体的な事例や体験を通して、総合的に理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション・春の壁面製作①(グループ作り・話し合い)									
2. 春の壁面製作②(グループで製作)									
3. 身近な自然物を取り入れた保育:泥だんご作り①									
4. 身近な自然物を取り入れた保育:泥だんご作り②									
5. 身近な自然物を取り入れた保育:夏野菜の栽培・観察①(苗植え)									
6. 身近な自然物を取り入れた保育:夏野菜の栽培・観察②(栽培方法を調べて発表)									
7. 季節感を取り入れた保育:七夕飾り製作①									
8. 季節感を取り入れた保育:七夕飾り製作②									
9. 身近な自然物を取り入れた保育:夏野菜の栽培・観察③(夏野菜の収穫・調理)									
10. 身近な自然物を取り入れた保育:夏野菜の栽培・観察④(観察記録のまとめ)									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	1年次に学んだ領域「環境」の内容にかかわる様々な活動について整理しておく。								
事後学習	領域「環境」の内容に関して新たに体験した活動を整理し、そこから何を学んだかをまとめておく。								
履修上の注意	教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための選択科目である。授業への取り組み(受講態度)を重視する。								
成績評価の方法・基準	平常点(受講態度)50% レポートや提出物(50%) 欠席が1/3以上の者には単位を認定しない								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]								

授業科目		保育内容(言葉Ⅰ)				担当者	三浦 主博				
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年		
<b>授業の概要</b>											
幼稚園教諭養成課程(教職に関する専門科目:教育課程及び指導法に関する科目)及び、保育士養成課程(「保育の内容・方法に関する科目」)の必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「保育内容」5領域のうち「言葉」に関する科目である。子どもの言葉の発達と保育・教育の役割に関する理論の説明、及び絵本や紙芝居等の教材研究を行う。											
<b>授業の目標(到達目標)</b>											
保育内容「言葉」の領域に関する理論や保育教材の扱い方を理解し、それを保育実践できるようにする。											
<b>授業計画及び内容</b>											
1. オリエンテーション											
2. 言葉の指導と教材研究①:「夏の課題」発表											
3. 言葉の意義①:言葉の特性											
4. 言葉の意義②:言葉の機能											
5. 言葉の発達①:乳児期の言葉											
6. 言葉の発達②:幼児期の言葉											
7. 言葉の指導と教材研究②:「秋の課題」発表											
8. 言葉の指導と教材研究③:紙芝居・絵本の理解											
9. 言葉の指導と教材研究④:紙芝居の実演練習(1回目)											
10. 言葉の指導と教材研究⑤:紙芝居の実演練習(2回目)											
11. 言葉の指導と教材研究⑥:絵本の実演練習(1回目)											
12. 言葉の指導と教材研究⑦:絵本の実演練習(2回目)											
13. 言葉の指導と教材研究⑧:「冬の課題」の発表											
14. 「幼稚園教育要領」の領域「言葉」											
15. 「保育所保育指針」の領域「言葉」											
16. 期末試験											
<b>事前学習</b>	授業で使用する資料や教材を準備し、学習内容を確認しておく。また、発表や読み聞かせの練習を行う際は、その事前準備を充分に行って授業に臨む。										
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容(専門用語など)について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。										
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み(受講態度・課題提出)を重視します。演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。										
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況(20%)、期末試験(50%)、及び提出課題(30%)により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。										
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。										
<b>参考書</b>	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269円〕										



授業科目		保育内容(言葉Ⅱ)				担当者	三浦 主博		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
幼稚園教諭養成課程(教職に関する専門科目:教育課程及び指導法に関する科目)及び、保育士養成課程(「保育の内容・方法に関する科目」)の必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「保育内容」5領域のうち「言葉」に関する科目である。「言葉Ⅰ」で学習した内容をもとに、保育所実習と関連させながら、絵本や紙芝居などの保育教材の研究を中心に授業を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
この科目では、保育内容「言葉」の領域に関する理論や保育教材の扱い方を理解し、それらを保育実践できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション 保育内容の領域「言葉」の確認									
2. 言葉の指導と教材研究①:「春の課題」発表									
3. 言葉に関する保育教材の実演①(絵本1回目)									
4. 言葉に関する保育教材の実演②(絵本2回目)									
5. 言葉に関する保育教材の実演③(絵本3回目)									
6. 言葉の指導と教材研究②:「実習中の課題」発表									
7. 保育現場にある保育教材・保育者の言葉(実習中の観察から)									
8. 言葉の指導と教材研究③:ことば遊び									
9. 言葉の指導と教材研究④:「夏の課題」発表									
10. まとめ									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
<b>事前学習</b>	授業で使用する資料や教材を準備し、学習内容を確認しておく。また、発表や読み聞かせの練習を行う際は、その事前準備を充分に行って授業に臨む。								
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容(専門用語など)について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。								
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み(受講態度・課題提出)を重視します。演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況(50%)、及び提出課題(50%)により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。								
<b>参考書</b>	〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔205円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔〃〕〔269円〕								



授業科目	保育内容(表現 I)					担当者	横山 美喜子・山崎 敦子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>子どもの心身の発達と表現の発達を学び、具体的事例や実際の表現活動から理解が深まるように概説する。また、パネルシアターの製作・実演を通して2年次の実習や将来の保育実践に備える。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>幼児の豊かな感性を育み、伸ばすことのできるような環境づくり、柔らかな心で考えたり感じたりしたことを素直に自由に表現できるような環境づくりは、幼児にとっては必要不可欠なものである。そのため、幼児の感性と表現についての理解を深め、保育者を目指す学生自身の豊かな感性を育むことができるようになることを目標とする。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション・「表現」ってなんだろう？									
2. 保育内容「表現」の意義									
3. 領域「表現」のねらいと内容									
4. 幼稚園・保育所における表現①：幼児の感性と表現									
5. 幼稚園・保育所における表現②：感性と表現の発達									
6. 幼稚園・保育所における表現③：子どもの表現と援助									
7. 幼稚園・保育所における表現④：表現を育てる遊び									
8. パネルシアターについて									
9. パネルシアター製作①：パネル板作成									
10. パネルシアター製作②：下絵作り									
11. パネルシアター製作③：絵の具で着色									
12. パネルシアター製作④：絵の具で着色									
13. パネルシアター製作⑤：仕上げ									
14. パネルシアター発表（模擬保育）①：パネルシアターの実践及び参加									
15. パネルシアター発表（模擬保育）②：パネルシアターの実践及び参加									
事前学習	幼稚園教育要領解説書・保育士保育指針解説書の領域「表現」の頁に目を通しておく。								
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの見直し、用語の確認等しっかりと復習しておく。</li> <li>・パネルシアターの練習、手直し、新たなパーツ製作。</li> </ul>								
履修上の注意	保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。								
成績評価の方法・基準	出席を含む平常点・受講態度（50%）模擬保育・レポート（50%）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]								

授業科目	保育内容(表現Ⅱ)				担当者	横山 美喜子・大坪 豊			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>保育における子どもの表現は、体や物を媒体にして他者との相互作用のプロセスであり、他者を理解しようとするのと同時に、自分自身を理解しようとしていくプロセスである。この授業では、造形表現、音楽表現、身体表現、が複合した総合的な表現活動の計画を学生達共同で立案し実践する実体験を通して、共同活動をする子どもの気持ちへの理解を深めるようにする。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>保育内容(表現Ⅰ)を基に、音楽表現、身体表現、造形表現が複合した総合的な表現活動の計画を立案し、表現方法を工夫することを通して、他者との相互作用や、学生自身の「私の中の私たち」との対話の実験を体験しながら共同活動する子どもの気持ちの理解することの一助とすることが目標である。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション:表現を通して自己を知り、他者を知るとは ①テーマとなる絵本を読む									
2. 様々な分野を通して自己及び他者を表現するとは ②わたしの好きなシーン描く(絵画)									
3. ③私の好きなシーンからグループを編成し、表現活動の計画を立てる(共同制作絵画)									
4. ④私たちの好きなシーン共同制作作業(共同制作絵画)									
5. ⑤私たちの好きなシーン協同製作作業(共同制作絵画)仕上げと発表									
6. ⑥私たちの好きなシーン協同製作(作曲)ストーリーから共同作曲 楽器選択と構成,									
7. ⑦私たちの好きなシーン協同製作(作曲)演奏のための練習									
8. ⑧私たちの好きなシーン協同製作(作曲)演奏を収録,鑑賞									
9. ⑨私たちの好きなシーン協同製作(身体表現)ストーリーから振付									
10. ⑩私たちの好きなシーン協同製作(身体表現)身体表現練習									
11. ⑪私たちの好きなシーン協同製作(身体表現)身体表現発表・授業のまとめ									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	授業で指示することや必要となる内容について積極的に取り組むこと。								
事後学習	グループ内で協力し役割を果たし、学習内容を整理整頓すること。授業時間に終了しなかった活動は事後学習で完成させること。								
履修上の注意	授業に積極的に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	レポートや記録等提出物(含提出期限),受講態度を総合的に評価する。概ね,レポート(20%),提出物(20%),受講態度:グループ活動での積極的な参加等(60%)とする。								
教科書	授業の中でプリントを配布する。								
参考書	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]								

授業科目	教育・保育方法論				担当者	安部 日珠沙・松尾 広			
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
前半では、歴史的・理論的な視点から、教育方法論に関する基礎的・基本的な事柄を概説する。後半では視聴覚教育について概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
現在の幼児教育の方法に関する基礎概念や、西洋と日本の古典的な教育方法論の基本事項について学習し、教育方法に対するより学術的な観点からの理解を深める。また、視聴覚教育の意義、視聴覚教材・機器の特徴について理解する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス (1.～10. 担当：安部)									
2. 保育の方法論 (1) 保育方法の基本									
3. 保育の方法論 (2) 保育形態									
4. 幼児教育の方法論 (1) 幼児期の教育の基本									
5. 幼児教育の方法論 (2) 「遊び」とはなにか									
6. 西洋の教育方法論 (1) 古代 - 中世									
7. 西洋の教育方法論 (2) 近世 - 近代									
8. 西洋の教育方法論 (3) 近代 - 現代									
9. 日本の教育方法論									
10. 第2～9回目のまとめ									
11. 視聴覚機器の特性 (11.～15. 担当：松尾)									
12. ICT 機器と教育									
13. マスコミと教育									
14. コンピュータと視聴覚教材									
15. 視聴覚教材の制作									
16. 試験									
事前学習	前回の授業内容を振り返る。また、授業前に学習項目を確認し、自分の問題意識を明確にしてから授業に臨む。								
事後学習	配布資料を読み返し、前回までの学習内容と照合しながら、要点を整理しておく。								
履修上の注意	毎時コメントペーパーに所見を書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験 60%、受講態度 (提出物の提出状況、内容など) 40%								
教科書	プリントを事前に配布する。								
参考書	無し								

授業科目		児童文化				担当者	横山 美喜子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
自分自身の子ども時代の環境や文化を検証し、児童文化について考察できるようにする。絵本・紙芝居の鑑賞や児童文化をテーマにした紙芝居（または絵本）の制作を通して、さらに考察を深めさせる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
子どもを取り巻く環境や文化について、その意味と問題を紙芝居（または絵本）制作を通して考察できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 授業概要									
2. 自分自身の子ども時代を検証する									
3. 児童文化について考察する									
4. 紙芝居（または絵本）鑑賞①・紙芝居（または絵本）制作①あらすじ作り									
5. 紙芝居（または絵本）鑑賞②・紙芝居（または絵本）制作②絵コンテ制作									
6. 紙芝居（または絵本）鑑賞③・紙芝居（または絵本）制作③下書き									
7. 紙芝居（または絵本）鑑賞④・紙芝居（または絵本）制作④下書き									
8. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑤・紙芝居（または絵本）制作⑤本制作									
9. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑥・紙芝居（または絵本）制作⑥本制作									
10. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑦・紙芝居（または絵本）制作⑦本制作									
11. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑧・紙芝居（または絵本）制作⑧本制作									
12. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑨・紙芝居（または絵本）制作⑨本制作									
13. 紙芝居（または絵本）鑑賞⑩・紙芝居（または絵本）制作⑩仕上げ・発表練習									
14. 紙芝居（または絵本）発表・評価									
15. 授業のまとめ									
<b>事前学習</b>	絵本や紙芝居を数多く鑑賞し、児童文化を考察する機会を得ること。								
<b>事後学習</b>	お互いの作品を鑑賞し評価することによって、ともに学ぶ機会を持つこと。								
<b>履修上の注意</b>	制作中に服が汚れることがあるので、作業着で制作すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	受講状況を含む平常点 50% 課題制作 50%								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する								
<b>参考書</b>	授業の中で紹介する								

授業科目	乳児保育 I				担当者	大瀬戸 美紀			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
乳児保育 I は、保育の内容・方法の理解のための科目である。現代社会における著しい家族機能の低下により、育児の孤立化がすすんでいる。そして育児ノイローゼなどで子育てが困難になっている母親が増加している。特に母親になりたての女性にその傾向がみられると指摘されている。ここでは、乳幼児保育の実践的な方法とともに母親の育児負担の軽減を目指した親教育についても解説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
この科目を学ぶことで、近年、社会的に期待が高まっている乳児保育の基礎的な知識と内容を理解することを目指す。具体的には、乳児の発達の特徴とその時期に必要な保育の内容について理解することができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 生涯発達から見た乳児期とは									
3. 0歳児前半の発達の特徴									
4. 0歳児前半の発達の特徴									
5. 0歳児の保育の中で大切にしたいこと									
6. 1歳児前半の発達の特徴									
7. 1歳児後半の発達の特徴									
8. 1歳児の保育の中で大切にしたいこと									
9. 2歳児の発達の特徴									
10. 2歳児の保育の中で大切にしたいこと									
11. 3歳児の発達の特徴									
12. 3歳児の保育の中で大切にしたいこと									
13. 保育の中で乳児の発達を見つめる視点									
14. 子育て支援と保育士の役割									
15. まとめ									
事前学習	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくとうい。								
事後学習	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
履修上の注意	新生児人形や沐浴人形を使っての演習が多くなるので、日頃から「抱き方」「着脱の仕方」「沐浴の仕方」などを人形を使って練習しておくとうい								
成績評価の方法・基準	平常点 (50%)、試験 (50%) で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
教科書	「乳児の保育新時代」[乳児保育研究会編]「ひとなる書房」「1,800円」								
参考書	授業の中で指示する								

授業科目		乳児保育Ⅱ				担当者	大瀬戸 美紀			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年	
<b>授業の概要</b>										
乳児保育Ⅱは、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、児童虐待などの今日的課題により、子どもの身体や心の健康を守り、健やかな成長をささえることの重要性が再認識されてきている。ここでは、乳幼児の発達に必要なケアなどについて理解し、その上で乳児保育における保護者支援のあり方について理解できるようにさせる。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
この科目を学ぶことで、乳児保育の内容と方法を理解することを目指す。具体的には、乳児の保育園における基本的な生活と保育の方法についての基礎的専門知識・技術を習得することができるようになる。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション										
2. 保育園の一日の流れ										
3. 0歳児前半の保育と基本的な生活										
4. 0歳児後半の保育と基本的な生活										
5. 1歳児前半の保育と基本的な生活										
6. 1歳児後半の保育と基本的な生活										
7. 2歳児の保育と基本的な生活										
8. 特別な配慮を要する子ども										
9. 遊びのあり方										
10. 遊びの特徴と内容										
11. 遊びと環境										
12. 乳児保育と「三歳児神話」										
13. 乳児保育と親としての発達										
14. 乳児保育のこれからについて										
15. まとめ										
事前学習	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくといよい。									
事後学習	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。									
履修上の注意	新生児人形や沐浴人形を使つての演習が多くなるので、日頃から「抱き方」「着脱の仕方」「沐浴の仕方」などを人形を使つて練習しておくといよい									
成績評価の方法・基準	平常点(50%)、試験(50%)で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。									
教科書	「乳児の保育新時代」[乳児保育研究会編]「ひとなる書房」1,800円									
参考書	授業の中で指示する									

授業科目		障害児保育 I				担当者	三浦 主博		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
保育士養成課程における必修科目であり、「保育の内容・方法に関する科目」として位置づけられている。障がい児保育（インクルーシブ保育）に関する理念、様々な障がいの特徴について概説する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
障がい児保育（インクルーシブ保育）に関する基本的な考え方、及び様々な障がいについての理解を深めることができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 障がい児保育（インクルーシブ保育）を支える理念①（障がいの定義）									
3. 障がい児保育（インクルーシブ保育）を支える理念②（WHOのICF）									
4. 障がいの種類とその特徴①（視覚障がい・聴覚障がい）									
5. 障がいの種類とその特徴②（言葉の障がい・身体と運動の障がい）									
6. 障がいの種類とその特徴③（知的障がい）									
7. 障がいの種類とその特徴④（発達障がい）									
8. 障がいの種類とその特徴⑤（自閉症スペクトラム／自閉症とアスペルガー症候群）									
9. 障がいの種類とその特徴⑥（学習障がい・ADHD）									
10. 期末試験									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
事後学習	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。								
履修上の注意	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組みの状況（20%）、提出課題（20%）、及び期末試験（60%）により総合的に評価します。欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。								
教科書	〔ソーシャルインクルージョンのための障害児保育〕〔堀智晴他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2700円〕								
参考書	〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博他〕〔萌文書林〕〔2,160円〕								



授業科目		障害児保育Ⅱ				担当者	三浦 主博			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年	
<b>授業の概要</b>										
保育士養成課程における必修科目であり、「保育の内容・方法に関する科目」として位置づけられている。「障害児保育Ⅰ」に引き続き、様々な障がいの特徴と障がいのある子どもへの個別支援・援助の方法、及び統合保育（インクルーシブ保育）として他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について概説する。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
障がいのある子どもの個別支援・援助の方法、及び統合保育（インクルーシブ保育）として他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践についての理解を深めることができるようになる。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション										
2. 保育における援助①（知的障がい）										
3. 保育における援助②（自閉症スペクトラム／カナー型自閉症）										
4. 保育における援助③（自閉症スペクトラム／アスペルガー症候群）										
5. 保育における援助④（構造化）										
6. 保育における援助⑤（ソーシャル・スキル・トレーニング）										
7. 保育における援助⑥（気になる子ども）										
8. 統合保育①（保育現場での留意事項）										
9. 統合保育②（個に応じた保育支援）										
10. まとめ										
11.										
12.										
13.										
14.										
15.										
<b>事前学習</b>	教科書・参考書の該当部分について目を通し、次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。									
<b>事後学習</b>	毎回の授業内容を復習し、十分に理解できなかった内容（専門用語など）について自分で調べたり、担当教員に質問したりして理解を深める。									
<b>履修上の注意</b>	授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。									
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組みの状況（50%）、提出課題（50%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。									
<b>教科書</b>	〔ソーシャルインクルージョンのための障害児保育〕〔堀智晴他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2700円〕									
<b>参考書</b>	〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博他〕〔萌文書林〕〔2,160円〕									

授業科目	社会的養護内容				担当者	大瀬戸 美紀			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
社会的養護内容は、保育の内容・方法の理解のための科目である。社会的養護の役割は、子どもの権利擁護を基本とする。また、子どもの安全・安心な生活を守ることや心的ケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解できるようにさせる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
この科目を学ぶことで、児童福祉施設における社会的養護の実践と内容を理解することを目指す。具体的には、児童福祉施設における職員の職務内容や利用者の生活の実態などを概観することにより、施設実習における基礎的知識・技術を習得することができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション									
2. 現代の児童問題									
3. 児童養護の理念と施設養護の原則									
4. 施設養護の内容と実際									
5. 乳児院における養護の実際									
6. 母子生活支援施設における養護の実際									
7. 児童養護施設における養護の実際									
8. 児童自立支援施設における養護の実際									
9. 障害児入所施設における養護の実際									
10. まとめ									
11. 試験									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくことよい。								
事後学習	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
履修上の注意	グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。								
成績評価の方法・基準	平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
教科書	「演習児童の社会的養護内容」[神戸賢次他編]「(株)みらい」2,000円								
参考書	授業の中で指示する								

授業科目	保育相談支援					担当者	大瀬戸 美紀		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>保育相談支援は、保育の内容・方法の理解のための科目である。保育相談支援の知識、技術及び価値と倫理について、演習を通して実践的に学ぶ。具体的には、相談援助の展開過程や技法などを相談事例などにより学ぶ。その上で、現代社会の課題とされているインクルージョンや児童虐待などの問題についても概観する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>この科目を学ぶことで、社会福祉の対人援助の中心的役割を果たす基礎的専門技術の習得をめざす。具体的には、相談援助の展開過程について実践的に学ぶことにより、子育て支援の基礎知識・技術を習得することができるようになる。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 保育相談支援とはなにか									
2. 保育士と相談支援									
3. 保育相談支援の必要性									
4. 保育者に求められる専門性									
5. 保護者との信頼関係の構築									
6. 保護者の養育力向上									
7. 地域資源の活用と関係機関との連携・協力									
8. 保育相談支援の計画・記録・評価									
9. 特別な支援を必要とする保護者への支援									
10. まとめ									
11. 試験									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習	事前にテキストに目を通して、分からない所や質問したい所などを把握しておくとうい。								
事後学習	授業の中で、理解が難しかった所や興味関心があった所などについて教員に質問したり、自分で調べたりするとよい。								
履修上の注意	グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。								
成績評価の方法・基準	平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。								
教科書	「演習・保育と相談援助」[小原敏郎]「(株)みらい」2,200円								
参考書	授業の中で指示する								

授業科目	音楽Ⅰ				担当者	大坪 豊・阿部 玲子・渡邊 祐子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
音高読譜の仕方や基本的な音楽理論を理解しながら、広く幼稚園や保育所で行われている「弾き歌い」の歌唱法の基礎が身に付くようにする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
歌唱法や「弾き歌い」の演奏方法や保育に必要な音楽的活動の基礎的な演奏方法や基本的な音楽理論を理解しながら、練習方法を身に付けられるようになることが目標である。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 読譜に必要な基礎知識①：楽譜の基礎知識／歌唱法・歌唱指導①（春の歌）：楽譜を読みながら歌う（阿・大）									
2. 読譜に必要な基礎知識②：音の呼び方／歌唱法・歌唱指導②（春の歌）：歌詞の意味を考えて歌う（阿・大）									
3. 読譜に必要な基礎知識③：音符と休符／歌唱法・歌唱指導③（春の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う（阿・大）									
4. 読譜に必要な基礎知識④音階と調：拍子とリズム／歌唱法・歌唱指導④（春の歌）：気持ちを込めて歌う（阿・大）									
5. 読譜に必要な基礎知識⑤：和音／歌唱法・歌唱指導⑤（春の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う（阿・大）									
6. 読譜に必要な基礎知識⑥：簡単な鍵盤ハーモニカとコードネーム／歌唱法・歌唱指導⑥（夏の歌）：楽譜を読みながら歌う（阿・大）									
7. 読譜に必要な基礎知識⑦：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑦（夏の歌）：歌詞の意味を考えて歌う（阿・大）									
8. 読譜に必要な基礎知識⑧：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑧（夏の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う（阿・大）									
9. 読譜に必要な基礎知識⑨：速度記号／歌唱法・歌唱指導⑨（夏の歌）：気持ちを込めて歌う（阿・大）									
10. 読譜に必要な基礎知識⑩：強弱記号／歌唱法・歌唱指導⑩（夏の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う（阿・大）									
11. 読譜に必要な基礎知識⑪：アーティキュレーション／歌唱法・歌唱指導⑪（日常の歌）：楽譜を読みながら歌う（阿・大）									
12. 読譜に必要な基礎知識⑫：装飾音／歌唱法・歌唱指導⑫（日常の歌）：歌詞の意味を考えて歌う（阿・大）									
13. 鑑賞①：クラシック編／歌唱法・歌唱指導⑬（日常の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う（阿・大）									
14. 鑑賞②：世界の民族音楽編／歌唱法・歌唱指導⑭（日常の歌）：気持ちを込めて歌う（阿・大）									
15. 鑑賞③：日本の伝統音楽編／歌唱法・歌唱指導⑮（日常の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う／学習のまとめ（阿・大）									
事前学習	自分なりに学習範囲の歌詞の意味調べや弾き歌いの練習をすること。								
事後学習	身に付けた練習方法と知識を生かし、歌は暗譜で歌えるように練習を重ねる。								
履修上の注意	積極的に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	授業中の参加（口形や姿勢、ノートの取り方）、提出物、試験等を総合評価する。 概ね、授業受講や活動中の態度（60%）、提出物（20%）、各種試験（20%）								
教科書	[どものうた 100] [小林美実] [チャイルド本社] [1,728 円]								
参考書	なし								

授業科目	音楽Ⅱ				担当者	大坪 豊・渡辺 恵・渡邊 祐子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
音楽Ⅰ取得した技術や理論を基に、さらに読譜能力を高め、保育現場で子どもたちの感性やコミュニケーションツールとしての表現力を培うことができるような音楽活動のあり方を身に付けるようになる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
音楽Ⅰの学習内容を基に、さらに読譜能力を高め、広い視野から、保育に必要とされる音楽的活動に取り組み、子どもの感性の伸長や人間関係の手段としての基礎的な指導方法を身に付けられるようになることを目標とする。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 打楽器の演奏法：正しい奏法を学ぶ / 歌唱法・歌唱指導①(秋の歌)：楽譜を読みながら歌う (阿・大)									
2. 打楽器の合奏①：第1曲目のパート練習 / 歌唱法・歌唱指導②(秋の歌)：歌詞の意味を考えて歌う (阿・大)									
3. 打楽器の合奏②：第1曲目のグループ練習 / 歌唱法・歌唱指導③(秋の歌)：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う (阿・大)									
4. 打楽器の合奏③：第1曲目の全体合奏 / 歌唱法・歌唱指導④(秋の歌)：気持ちを込めて歌う (阿・大)									
5. 打楽器の合奏①：第1曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑤(秋の歌)：気持ちを込めて暗譜で歌う (阿・大)									
6. 打楽器の合奏④：第2曲目のパート練習 声楽アンサンブル①：合唱曲：楽譜を読みながら歌う (阿・大)									
7. 打楽器の合奏⑤：第2曲目のグループ練習 声楽アンサンブル②：合唱曲：歌詞の意味を考えて歌う (阿・大)									
8. 打楽器の合奏⑥：第2曲目の全体合奏 声楽アンサンブル③：合唱曲：気持ちを込めて暗譜で歌う (阿・大)									
9. 打楽器の合奏⑦：第3曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑥(冬の歌)：歌詞の意味を考えて歌う (阿・大)									
10. 打楽器の合奏⑧：第3曲目のグループ練習 / 歌唱法・歌唱指導⑦(冬の歌)：歌詞の意味を考えて歌う (阿・大)									
11. 打楽器の合奏⑨：第3曲目の全体練習 / 歌唱法・歌唱指導⑧(冬の歌)：気持ちを込めて歌う (阿・大)									
12. 音楽活動の指導案の書き方 / 歌唱法・歌唱指導⑨(冬の歌)：気持ちを込めて暗譜で歌う (阿・大)									
13. ピアノの活用法：劇中音楽など色々な活用法を学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑩(生活の歌)：楽譜を読みながら歌う (阿・大)									
14. 音楽教育用語：取り扱われやすい用語について学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑪(生活の歌)：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う (阿・大)									
15. 歌唱法・歌唱指導⑪(生活の歌)：気持ちを込めて暗譜で歌う/学習のまとめ (阿・大)									
事前学習	自分なりに学習範囲の歌詞の意味調べや弾き歌いの練習をすること。								
事後学習	身に付けた練習方法と知識を生かし、歌は暗譜で歌えるように練習を重ねる。								
履修上の注意	積極的に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	授業中の参加(口形や姿勢、ノートの取り方)、提出物、試験等を総合評価する。 概ね、授業受講や活動中の態度(60%)、提出物(20%)、各種試験(20%)								
教科書	[子どものうた100] [小林美実] [チャイルド本社] [1,728円]								
参考書	なし								

授業科目	ピアノ I				担当者	阿部 玲子・渡辺 恵・渡邊 祐子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年
授業の概要									
子どもの歌の弾き歌い、ピアノ曲の演奏法、簡易伴奏法について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
ピアノ演奏の基礎的な技術を身につけた上で、弾き歌いの技能を習得する。進度目標は以下の通りとする。 『ピアノテキスト』P.45 まで／『こどものうた 100』より 5～10 曲									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス／ピアノ曲を弾く									
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.6～22)									
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.24～34) ハ長調、ト長調のスリーコード									
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.36～46) ヘ長調、ニ長調のスリーコード									
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.48～54) スリーコードによる簡易伴奏法①									
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.56～62) スリーコードによる簡易伴奏法②									
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.65～71) 簡易伴奏試験									
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.72～78)									
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.80～84)									
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.86～94)									
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.162～168)									
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.170～175)									
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.178～184)									
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.186～189)									
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.192～195)									
16. 発表試験									
事前学習	「こどものうた」は、弾き歌いの練習のみではなく、詞を理解するための学習もすること。								
事後学習	授業時に指摘を受けた箇所について必ず復習すること。								
履修上の注意	課題を充分練習したうえで授業に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	発表試験の内容 40%、平常点 60% (平常点は、課題の取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。)								
教科書	『こどものうた 100』〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕／『ピアノテキスト』〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕								
参考書	なし								

授業科目	ピアノⅡ			担当者	阿部 玲子・渡辺 恵・渡邊 祐子				
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
子どもの歌の弾き歌い、ピアノ曲の演奏法、連弾について指導する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
ピアノ演奏の基礎的な技術を身につけた上で、弾き歌いの技能を習得する。進度目標は以下の通りとする。また、連弾を体験しアンサンブル力を身につける。 『ピアノテキスト』P.70 まで／『こどものうた 100』より 10 曲以上									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.96～102)									
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.104～111)									
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.114～120)									
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.122～124)									
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.126～132)									
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.134～138)									
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.140～144)									
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.146～152)									
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い (p.154～160)									
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い、生活の歌試験									
11. 童謡の弾き歌い (p.198～202)、連弾									
12. 童謡の弾き歌い (p.206～211)、連弾									
13. 童謡の弾き歌い (p.212～216)、連弾									
14. 童謡の弾き歌い (p.220～223)、連弾									
15. 童謡の弾き歌い (その他の歌)、連弾、まとめ									
16. 連弾発表試験									
事前学習	「こどものうた」は、弾き歌いの練習のみではなく、詞を理解するための学習もすること。								
事後学習	授業時に指摘を受けた箇所について必ず復習すること。								
履修上の注意	課題を充分練習したうえで授業に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	発表試験の内容 40%、平常点 60% (平常点は、課題の取り組み方、進度状況、受講態度等で総合的に判断する。)								
教科書	『こどものうた 100』〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕／『ピアノテキスト』〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕								
参考書	なし								



授業科目	ピアノⅡ				担当者	阿部 玲子・渡辺 恵			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b> 子どもの歌の弾き歌い、伴奏法、歌の指導法、初見演奏について指導する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> ピアノⅠで学んだことをもとにピアノ伴奏法を習得する。また、レパートリーを増やし、音楽的表現法も身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い①：「ふしぎなポケット」「たきび」の弾き歌い									
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い②：「ふしぎなポケット」「たきび」の伴奏法									
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い③：「ふしぎなポケット」「たきび」の指導法									
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い④：模擬保育（導入）									
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑤：模擬保育（歌唱指導）									
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑥：模擬保育（発表）									
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑦（p.96～102）									
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑧（p.104～111）									
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑨（p.114～116）									
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑩（p.120～124）									
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑪：初見演奏について									
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑫：初見演奏を体験する									
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑬：コードを使用しての初見演奏									
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑭：ルート伴奏法、その他									
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い⑮：まとめ									
16. 発表試験									
事前学習	弾き歌いする曲についての理解を深めておくこと。								
事後学習	授業時に指摘を受けた箇所について必ず復習すること。								
履修上の注意	課題を充分練習したうえで授業に臨むこと。								
成績評価の方法・基準	発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、課題の取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）								
教科書	〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600円〕／〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000円〕								
参考書	なし								

授業科目		ピアノⅢ				担当者	阿部 玲子・渡辺 恵		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
子どもの歌の弾き歌い、初見演奏、コード付け、即興演奏について指導する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
これまでに習得した技術をもとに、ピアノでの様々な音楽的展開法を身に付ける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 童謡の弾き歌い・初見演奏①：ハ長調・ヘ長調のコードの復習									
2. 童謡の弾き歌い・初見演奏②：ト長調・ニ長調のコードの復習									
3. 童謡の弾き歌い・初見演奏③：ハ長調のメロディにコードを付ける									
4. 童謡の弾き歌い・初見演奏④：ヘ長調のメロディにコードを付ける									
5. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑤：ト長調のメロディにコードを付ける									
6. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑥：ニ長調のメロディにコードを付ける									
7. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑦：曲にふさわしい伴奏型を考える									
8. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑧：マイナーコードについて									
9. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑨：その他のコードについて									
10. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑩：初見で伴奏付けをする									
11. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑪：ビーマーチをアレンジして弾く（様々な伴奏型）									
12. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑫：ビーマーチをアレンジして弾く（移調）									
13. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑬：場面に合った演奏①（簡単なメロディを作曲する）									
14. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑭：場面に合った演奏②（自作のメロディに即興で伴奏を付ける）									
15. 童謡の弾き歌い・初見演奏⑮：まとめ									
16. コード付け試験									
<b>事前学習</b>	弾き歌いの練習のほか、初見の練習も毎日行うこと。								
<b>事後学習</b>	授業時に指摘を受けた箇所について必ず復習すること。								
<b>履修上の注意</b>	課題を充分練習したうえで授業に臨むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、課題の取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）								
<b>教科書</b>	〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600円〕／〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000円〕								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目	造形 I					担当者	杉崎 正則・横山 美喜子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専1年	
<b>授業の概要</b>										
色や形の性質を理解し、効果的に造形表現できる力を身につける。また、様々な造形表現の技法とその表現効果について学ばせる。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
保育者として、より豊かな造形活動・造形指導を行うために、造形表現の知識と技能を習得し、その指導法を身につける。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. 授業概要										
2. 色彩の研究①「暖かいイメージ、冷たいイメージ」										
3. 色彩の研究②「捕色、調和配色」										
4. 色彩の研究③「感情表現」										
5. 表現技法①「デカルコマニー」										
6. 表現技法②「バチック」										
7. 表現技法③「フロッタージュ」										
8. 表現技法④「スクラッチ」										
9. 表現技法⑤「コラージュ」										
10. 表現技法⑥「紙の造形」										
11. 表現技法⑦「ちぎり絵」										
12. 表現技法⑧「細密デッサン」										
13. 表現技法⑨「ドリッピング」										
14. 表現技法⑩「たらし込み」										
15. 授業のまとめ「作品ファイル制作」										
事前学習	美術館や美術展覧会で造形作品を数多く鑑賞し、造形表現・造形技法を学ぶこと。									
事後学習	絵本や紙芝居には様々な造形表現・造形技法が使用されているので、数多く鑑賞し、その造形方法を学ぶこと。									
履修上の注意	制作中に服が汚れることがあるので、作業着で制作すること。									
成績評価の方法・基準	受講状況を含む平常点 50%、課題制作 50%									
教科書	授業前にプリントを配布する									
参考書	授業の中で紹介する									

授業科目	造形Ⅱ				担当者	杉崎 正則・横山 美喜子			
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
造形Ⅰで身につけた基礎的な造形技法を応用し、絵版画・粘土造形、ポスター制作に取り組む。複雑な制作工程と技術を習得し、それぞれの造形表現の特徴を理解させる。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
造形Ⅰの授業内容を更に発展させ、保育者として、より豊かな造形活動・造形指導を行うために造形表現の応用的な知識と技能を習得しその指導法を身につける。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. 授業概要									
2. 粘土造形①「キャラクター制作」アイデアスケッチ									
3. 粘土造形②「キャラクター制作」デザイン画									
4. 粘土造形③「キャラクター制作」紙粘土制作									
5. 粘土造形④「キャラクター制作」紙粘土着色									
6. ポスター制作①「クリスマス会」レタリング									
7. ポスター制作②「クリスマス会」アイデアスケッチ									
8. ポスター制作③「クリスマス会」下絵									
9. ポスター制作④「クリスマス会」着色①									
10. ポスター制作⑤「クリスマス会」着色②									
11. ポスター制作⑥「クリスマス会」着色③									
12. 紙版画①「私の世界」下絵									
13. 紙版画②「私の世界」版下製作									
14. 紙版画③「私の世界」刷り									
15. 授業のまとめ・作品鑑賞									
事前学習	日常生活の中で造形作品を数多く鑑賞し、造形表現・造形技法を学ぶこと。								
事後学習	同級生が制作した作品を鑑賞し、作者の創意工夫した点について研究すること。								
履修上の注意	制作中に服が汚れることがあるので、作業着で制作すること。								
成績評価の方法・基準	受講状況を含む平常点 50%、課題制作 50%								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で紹介する								

授業科目		造形Ⅲ				担当者	黒澤 宜子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>幼児に伝えたい内容や幼児が興味を示すような題材を選定し、布の特性を活かしたおはなし手袋、エプロンシアターの製作方法を教授する。語りや歌などに合わせておはなし手袋、エプロンシアターを発表する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>幼児が興味をもって見たり聞いたりし、想像する楽しさを味わえる視覚教材を製作する。幼児の発達過程や興味関心に応じて活用できるようになり、2年生での実践に備える。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. おはなし手袋：題材選定、台本作成、用具と材料／基礎縫い①：型紙、布裁断、ステッチ									
2. 基礎縫い②：ステッチ(オープンボタンホールSなど)／おはなし手袋製作①：型紙作成、裁断									
3. おはなし手袋製作②：布に型を写す、布の裁断、刺繍糸でかがる(オープンボタンホールステッチ)									
4.        "                   ③：綿を入れてかがる／エプロンシアター(題材選定、台本作成)									
5.        "                   ④：綿を入れてかがる、マジックテープを縫い付ける(たてまつり) エプロンシアター(用具と材料、型紙作成)									
6.        "                   ⑤：マジックテープ縫い付ける、仕上げ(細かいパーツを貼付)									
7.        "                   ⑥：おはなし手袋発表									
8. エプロンシアター製作①：布に型を写す、布の裁断									
9.        "                   ②：布の裁断、模様などを刺繍糸でステッチ									
10.       "                   ③：綿を入れて刺繍糸でかがる(オープンボタンホールステッチ、たてまつり)									
11.       "                   ④：綿を入れて刺繍糸でかがる(オープンボタンホールステッチ、たてまつり) マジックテープを縫い付ける(たてまつり)									
12.       "                   ⑤：綿を入れて刺繍糸でかがる(オープンボタンホールステッチ、たてまつり) マジックテープを縫い付ける(たてまつり)									
13.       "                   ⑥：エプロンに飾り布(背景)を縫い付ける(たてまつり)									
14.       "                   ⑦：エプロンに飾り布(背景)を縫い付ける(たてまつり)、仕上げ									
15.       "                   ⑧：エプロンシアター発表									
<b>事前学習</b>	製作に必要な用具を準備し、作業段階に合わせた縫製をイメージしておくこと。								
<b>事後学習</b>	完成までの見通しをもち、進捗を確認。必要に応じて時間外にも取り組むこと。								
<b>履修上の注意</b>	個々の製作物が異なるので作業過程を積極的に確認し、丁寧に取り組むこと。 材料費(手袋、エプロン代含む)3000円								
<b>成績評価の方法・基準</b>	課題作品 (60%)、事前・事後学習を含む授業姿勢 (40%)								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する								
<b>参考書</b>	なし								

授業科目		体育 I				担当者	土屋 葉子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
<p>幼児にとって運動は、その発育、発達過程において重要であることは周知の通りである。様々な運動遊びを習得するため、主に小型遊具を使った基本的な運動を理解し、楽しく指導ができるようにするとともに、模擬授業も取り入れ、より実践的な指導法を演習する。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>幼児の発育、発達段階に即した運動指導のできる知識、能力を養うとともに、自らの健康、体力とも維持できるような基礎的知識も身に付けること。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. ラジオ体操①									
3. ラジオ体操②反対動作の体操練習									
4. 竹馬①慣れる(1)									
5. 竹馬②慣れる(2)・鬼ごっこ①第1グループ									
6. 竹馬③高さを変える・鬼ごっこ②第2グループ・ボール遊び①(一人遊び・ゲーム)									
7. 竹馬④テスト・鬼ごっこ③第3グループ・ボール遊び②(二人組・ゲーム)									
8. 鬼ごっこ④第5グループ・サーキット遊び(ボール・フラフープ・三角コーン等)①グループ分け									
9. 鬼ごっこ⑤第6グループ・サーキット遊び(ボール・フラフープ・三角コーン等)②制作(1)									
10. 鬼ごっこ⑥第7グループ・サーキット遊び(ボール・フラフープ・三角コーン等)③制作(2)									
11. サーキット遊び(ボール・フラフープ・三角コーン等)発表									
12. 創作ダンス練習①グループ分け・曲決め									
13. 創作ダンス練習②創作(1)									
14. 創作ダンス練習③創作(2)									
15. 創作ダンス発表・鑑賞、まとめ									
事前学習	鬼ごっこは一人ずつの模擬授業を行うので、事前の予習(シミュレーション)を十分に行うこと。								
事後学習	他の学生の鬼ごっこや、他のグループのサーキット、ボール遊びのパターン等、学生各自がそれぞれまとめ、自分なりのノートを作成すること。								
履修上の注意	初回のガイダンスで説明する履修上の注意を厳守すること。								
成績評価の方法・基準	受講状況 70%、受講態度 30%								
教科書	授業中にプリントを配布する。								
参考書	その都度、指示する。								

授業科目		体育Ⅱ				担当者	土屋 葉子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
本講義では、体育Ⅰの演習をふまえ、主に大型遊具を使った基本的な運動を理解し、模擬的に実践しながら、指導者として創意工夫ができる能力を養う。また、様々な運動遊びの特性と幼児の発育・発達の特性を併せて適切な指導ができる指導力を育成する。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
様々な運動遊びについての指導内容、方法を習得する事を目的とし、保育の現場において幼児の発育、発達段階に応じた指導ができるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 縄跳び①個人跳び(1)									
3. 縄跳び②個人跳び(2)									
4. 自然散策 (台原森林公園)									
5. 講義 (幼児の発達と運動) ①運動遊びの必要性									
6. 講義 (幼児の発達と運動) ②幼児期の運動能力									
7. サーキット遊び (マット・平均台・跳び箱等) ①グループ分け									
8. サーキット遊び (マット・平均台・跳び箱等) ②制作(1)									
9. サーキット遊び (マット・平均台・跳び箱等) ③制作(2)									
10. サーキット遊び (マット・平均台・跳び箱等) 発表・創作ダンス練習①グループ分け									
11. 創作ダンス練習②創作(1)・バルーン遊び練習①グループ分け・曲決め									
12. 創作ダンス練習③創作(2)・バルーン遊び練習②創作									
13. 創作ダンス発表									
14. バルーン遊び発表、まとめ									
15. 自然散策 (水の森公園)									
<b>事前学習</b>	次時学習についての関連情報を収集すること。								
<b>事後学習</b>	他のグループのサーキット等、学生各自がそれぞれまとめ、自分なりのノートを作成する事。								
<b>履修上の注意</b>	初回のガイダンスで説明する履修上の注意を厳守すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	受講状況 70%、受講態度 30%								
<b>教科書</b>	授業中にプリントを配布する。								
<b>参考書</b>	その都度、指示する。								



授業科目		保育実習指導 I			担当者	三浦 主博・子ども生活専攻教員			
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	通年	対象	子専1年
<b>授業の概要</b>									
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習 I」の事前・事後指導に関する科目である。「保育実習 I (保育所・施設実習)」「保育所実習 II」に向けて、実習の意義・目的などの理解、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に保育所の見学及び、観察実習、児童福祉施設の見学を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
2年次の実習に向けて、実習の意義・目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション・1年間の予定 [三浦]					16. 保育実習報告会(2年生)への参加[全教員]				
2. 実習及び実習指導の予定・概略の説明[〃]					17. 実習記録(実習日誌)の書き方①[山崎・大坪]				
3. 実習先の説明・希望調査 [〃]					18. 指導計画(指導案)の作成と指導 [〃]				
4. ボランティアについて [全教員]					19. 保育所基礎実習 I の準備① [〃]				
5. 実習の意義・目的の理解 [三浦]					20. 保育所基礎実習 I の準備②/保育士の講義				
6. 保育所・施設についての理解 [山崎・大瀬戸]					21. 保育所基礎実習 I ・ガイダンス [大坪]				
7. 保育士の仕事についての理解 [山崎・大坪]					22. 保育所基礎実習 I (附属保育園) [三浦 他]				
8. 保育所見学の準備 [大坪・山崎]					23. 保育所基礎実習 I ・事後指導 [大坪・山崎]				
9. 保育所見学・ガイダンス [大坪]					24. 実習記録(実習日誌)の書き方② [〃]				
10. 保育所見学(附属保育園) [三浦 他]					25. 保育所基礎実習 II の準備 [〃]				
11. 保育所見学・事後指導 [大坪・山崎]					26. 保育所基礎実習 II (附属保育園) [三浦 他]				
12. 施設見学 I の準備 [大瀬戸・針生]					27. 保育所基礎実習 II ・事後指導 [大坪・山崎]				
13. 施設見学 I ・ガイダンス [〃]					28. 施設見学 II ガイダンス [大瀬戸・針生]				
14. 施設見学 I (障害児入所施設) [大瀬戸 他]					29. 施設見学 II (児童養護施設・障害者支援施設) [〃]				
15. 施設見学 I ・事後指導 [大瀬戸・針生]					30. 施設見学 II ・事後指導 [〃]、春休みの課題 [三浦]				
<b>事前学習</b>	授業で使用する資料等を準備し、教科書・参考書等で次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
<b>事後学習</b>	授業時に示す課題を作成し、必ず期日までに提出する。								
<b>履修上の注意</b>	本授業への取り組み状況(出席や各種課題の提出など)によっては2年次の実習が出来ないことがある。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	授業への取り組み状況(80%)提出課題(20%)により総合的に評価する。								
<b>教科書</b>	[保育者になるために][中田カヨ子他][萌文書林][1,620円] / [本当に知りたいことが分かる! 保育所・施設実習ハンドブック][小原敏郎他][ミネルヴァ書房][2,700円]								
<b>参考書</b>	[保育実習の手引き][宮城県保育士養成校連絡協議会]								

授業科目	保育実習指導Ⅱ			担当者	三浦 主博・子ども生活専攻教員				
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	通年	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
<p>保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修の3回の実習（保育所実習Ⅰ及びⅡ、施設実習：各10日間、合計約6週間）について、実習の意義・目的などの理解、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、実習終了後は、実習報告会等を通して実習の反省を行い、保育者になるための学習を行う。</p>									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
<p>実習前は、実習の意義・目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解を深め、実習後は反省や評価などを共有し、以後の課題を明確にできるようにする。</p>									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション [三浦]					16. 施設実習の準備 [大瀬戸・針生]				
2. 実習の意義・目的の明確化 [三浦]					17. 施設実習・直前ガイダンス [大瀬戸・針生]				
3. 実習の心構えについての確認 [三浦]					18. 施設実習の反省 [大瀬戸・針生]				
4. 保育所・施設保育士の仕事の確認 [山崎・大瀬戸]					19. 実習報告会準備① (資料の作成) [全教員]				
5. 保育所保育士による講義 [附属保育園長]					20. 実習報告会準備② (発表練習) [全教員]				
6. 日誌等記録の書き方① (実習日誌) [山崎]					21. 実習報告会 [全教員]				
7. 日誌等記録の書き方② (その他) [山崎]					22. 実習の反省 (グループ討議) [三浦]				
8. 保育計画の立案について [山崎]					23. 実習の反省評価と疑問の解消 [三浦]				
9. 指導案の書き方・作成について [山崎]					24. 今後の課題の明確化 [三浦]				
10. 保育所実習Ⅰの準備 [山崎・三浦]					25. 実習評価等の個別事後指導 [全教員]				
11. 保育所実習Ⅰ・直前ガイダンス [山崎・三浦]					26. 実践報告会の準備① (資料の作成) [全教員]				
12. 保育所実習Ⅰの反省 [山崎・三浦]					27. 実践報告会の準備② (発表練習) [全教員]				
13. 保育所実習Ⅱの準備 [山崎・三浦]					28. 保育実践報告会 [全教員]				
14. 保育所実習Ⅱ・直前ガイダンス [山崎・三浦]					29. 資格登録・免許申請書類の作成 [教務課]				
15. 保育所実習Ⅱの反省 [山崎・三浦]					30. まとめ [全教員]				
事前学習	授業で使用する資料等を準備し、教科書・参考書等で次回の学習内容を確認したうえで授業に臨む。								
事後学習	授業時に示す課題を作成し、必ず期日までに提出する。								
履修上の注意	本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては2年次の実習が出来ないことがある。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。								
教科書	[本当に知りたいことが分かる! 保育所・施設実習ハンドブック][小原敏郎他][ミネルヴェア書房][2,700円]								
参考書	[保育実習の手引き][宮城県保育士養成校連絡協議会]								

授業科目		保育実践演習				担当者	山崎 敦子			
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	通年	対象	子専2年	
<b>授業の概要</b>										
1年生で学んだ幼児理解と保育者の援助を基に、児童文化財（パネルシアター、エプロンシアター、絵本、紙芝居、童謡など）を用いたり、集団での遊びやゲームを取り入れたりしながら、実際の保育に活用できる指導案を作成する。また、作成した指導案にのっとり、実際に模擬保育を学生同士で行い、保育実習や保育実践に備える。										
<b>授業の目標(到達目標)</b>										
既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を培う。また、指導計画の作成について具体的に理解し、保育者として必要な知識、技能を修得できるようになる。										
<b>授業計画及び内容</b>										
1. オリエンテーション					16. 教育実習に向けて～指導案作成・教材準備①（3歳児の指導案について）					
2. 手遊び					17. 教育実習に向けて～指導案作成・教材準備②（4歳児の指導案について）					
3. 児童文化財（エプロンシアター）を用いての実演①					18. 教育実習に向けて～指導案作成・教材準備③（5歳児の指導案について）					
4. 児童文化財（エプロンシアター）を用いての実演②・模擬保育に向けて（指導案作成）					19. 模擬保育指導計画作成					
5. 保育実習に向けて（教材製作）					20. 保育指導計画にのっとっての模擬保育（集団遊び・ゲーム）①					
6. 保育指導計画にのっとっての模擬保育①					21. 保育指導計画にのっとっての模擬保育（集団遊び・ゲーム）②					
7. 保育指導計画にのっとっての模擬保育②					22. 保育指導計画にのっとっての模擬保育（集団遊び・ゲーム）③					
8. グループ発表（劇・ペープサート）準備①					23. 保育指導計画にのっとっての模擬保育（集団遊び・ゲーム）④					
9. グループ発表（劇・ペープサート）準備②					24. 保育指導計画にのっとっての模擬保育（集団遊び・ゲーム）⑤					
10. グループ発表（劇・ペープサート）準備③					25. 保護者対応 ロールプレイ①					
11. グループ発表（劇・ペープサート）準備④					26. 保護者対応 ロールプレイ②・まとめ					
12. グループ発表（劇・ペープサート）					27.					
13.					28.					
14.					29.					
15.					30.					
<b>事前学習</b>		・1年次に制作したエプロンシアターを実践できるように練習しておく。 ・1年次に学んだ保育課程論、保育計画論の内容を理解しておく。								
<b>事後学習</b>		手作り教材や手遊び、集団ゲーム等、保育現場で実践できるレポトリリーを増やしておく。								
<b>履修上の注意</b>		保育の技術や実践力を身に付けるために、積極的に授業に臨むこと。								
<b>成績評価の方法・基準</b>		平常点（受講態度）（50%）レポートや提出物（50%） 欠席が1/3以上の者には単位を認定しない								
<b>教科書</b>		[遊びの指導乳・幼児編][幼少年教育研究所][同文書院][3,600円]								
<b>参考書</b>		[保護者対応 困ったときのQ&A][ラポム編集部][学研][1,500円]								

# 教職に関する科目

# 教職に関する科目

授業科目		教育法規				担当者	安部 日珠沙		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
本講義では、法規・制度・行政が教育や教員の在り方に大きな影響を与えていることを把握した上で、其れらの視点から教育に関する知識と理解を深めるとともに、現在の子どもたちを取り巻く教育環境およびその課題について考察するための能力を培う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
1. 幼稚園教諭、保育士の身分と職務に関する制度ないし法規の内容を理解する。									
2. 学校教育に関する教育制度や教育行政に関する基礎的な知識を獲得する。									
3. 権利と義務という観点から具体的に教育について自分の意見を持てるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス									
2. 教育制度の理念と概要 (1) 教育を規定する法									
3. 教育制度の理念と概要 (2) 義務教育制度									
4. 諸外国の学校体系 (1) アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス									
5. 諸外国の学校体系 (2) フィンランド、中国、韓国									
6. 日本の学校体系 (1) 近代教育の興り									
7. 日本の学校体系 (2) 学校の種類									
8. 国と地方の教育行政									
9. 教育委員会									
10. 教職員の服務と身分 (1)									
11. 教職員の服務と身分 (2)									
12. 教職員の研修 (1) 義務・意義									
13. 教職員の研修 (2) 校内研修事例									
14. 教科書 (1) 諸制度の概要									
15. 教科書 (2) 家永教科書裁判									
16. 期末試験									
<b>事前学習</b>	前回の授業内容を振り返る。また、授業前に学習項目を確認し、自分の問題意識を明確にしてから授業に臨む。								
<b>事後学習</b>	前回までの学習内容と照らし合わせながら、配布資料を読み返し、要点を整理しておく								
<b>履修上の注意</b>	毎時コメントペーパーに所見を書いて提出すること。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	期末試験 70% 受講態度 30%								
<b>教科書</b>	授業前に資料を配布する。								
<b>参考書</b>	適宜指示する。								

授業科目		教育課程論				担当者	安部 日珠沙				
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	子専2年		
<b>授業の概要</b>											
本講義では、歴史的・理論的な側面から、教育課程に関する基礎的・基本的な知識や理解を深め、現在の学校教育における教育課程の編成・実施・評価がどのように行われているのかを知るとともに、どのように行っていくべきかを考察するための能力を養う。											
<b>授業の目標(到達目標)</b>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を習得する。</li> <li>2. 日本の教育課程の変遷と特質について理解する。</li> <li>3. 学校教育における教育課程の在り方について考えることができる。</li> </ol>											
<b>授業計画及び内容</b>											
1. ガイダンス											
2. 教育課程の基本原則（1）カリキュラムの構成要素											
3. 教育課程の基本原則（2）カリキュラムの諸類型											
4. 西洋における教育課程の展開（1）中世 - 近代											
5. 西洋における教育課程の展開（2）近代 - 現代											
6. 日本における教育課程の展開（1）昭和22・26・33年の学習指導要領の変遷											
7. 日本における教育課程の展開（2）昭和43・52年・平成元年の学習指導要領の変遷											
8. 日本における教育課程の展開（3）平成10・20年の学習指導要領の変遷											
9. 幼稚園教育要領の分析（1）「健康」											
10. 幼稚園教育要領の分析（2）「人間関係」											
11. 幼稚園教育要領の分析（3）「環境」											
12. 幼稚園教育要領の分析（4）「言葉」											
13. 幼稚園教育要領の分析（5）「表現」											
14. 教育課程の編成方法（1）編成の基本・手順											
15. 教育課程の編成方法（2）指導計画											
16. 期末試験											
<b>事前学習</b>	前回の授業内容を振り返る。また、授業前に学習項目を確認し、自分の問題意識を明確にしてから授業に臨む。										
<b>事後学習</b>	前回までの学習内容と照らし合わせながら、配布資料を読み返し、要点を整理しておく										
<b>履修上の注意</b>	毎時コメントペーパーに所見を書いて提出すること。										
<b>成績評価の方法・基準</b>	期末試験 70% 受講態度（提出物の提出状況、内容など） 30%										
<b>教科書</b>	授業前に資料を配布する。										
<b>参考書</b>	適宜指示する。										

授業科目	保育内容の指導法					担当者	山崎 敦子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
幼稚園教育の保育内容を理解し、専門家としての保育者になるための様々な保育方法を伝える。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
保育の内容が、それぞれ相互に関連性をもつことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識と技術を保育の様々な場面（エピソード）から学び、理解できるようになる。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. オリエンテーション・保育内容の指導法とは									
2. エピソード①：園外保育でつかまえたバッタ									
3. エピソード②：トラブルの場面									
4. 保育方法を考えるときに大切なこと									
5. 子どもが育つ環境をつくる方法 エピソード③：実習生部分実習から(1)									
6. エピソード④：実習生部分実習から(2)									
7. エピソード⑤：後片付けの場面 エピソード⑥：給食の場面									
8. 指導計画の作成・解説									
9. 実習の振り返り									
10. エピソード⑦⑧：子どもと子どもの関係の広がり									
11. エピソード⑨：仲間意識の芽生え									
12. エピソード⑩⑪⑫：子ども集団の育ち									
13. エピソード⑬⑭：気になる子ども・障害のある子どもへの援助									
14. 家庭・地域との連携									
15. 小学校・保育者間の連携									
16. 期末試験									
事前学習	幼稚園教育要領の内容を理解しておくこと。								
事後学習	保育の中の様々な場面における保育者のかかわり方、対処法について事例ごとに整理し、まとめておく。								
履修上の注意	幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。								
成績評価の方法・基準	出席を含む平常点・受講態度（50%） 期末試験（50%） 欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しない								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205 円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205 円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269 円]								



授業科目		教育相談			担当者		針生 隆		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b> 教育相談の領域を臨床心理学（カウンセリング）の視点から捉え、基礎理論を踏まえ、ケーススタディを通して、教育・保育現場に還元できる内容とする。									
<b>授業の目標(到達目標)</b> 教育・保育現場で避けては通れない保護者からの相談、子どもからの問いかけ、保育者同士の相談などに対応できる基礎的なスキルが会得されることをねらいとする。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. ガイダンス（相談とは）									
2. 子どもを取り巻く最近の社会情勢									
3. 教育機関での相談とはⅠ（法的根拠・進路相談）									
4. 保育所、施設での相談とはⅡ（臨床心理学から支援）									
5. 子ども理解Ⅰ（発達・成長）									
6. 子ども理解Ⅱ（言語発達）									
7. 子ども理解Ⅲ（特別支援）									
8. 子どもの世界の理解Ⅰ（一般的教養・心理学系の基礎知識など）									
9. 子どもの世界の理解Ⅱ（絵画・音楽など）									
10. カウンセリング、セラピー領域からの相談について									
11. 保育者と保護者の会話、ロールプレイ									
12. 発達障がいのある子どもの保護者・保育者としての対応									
13. 発達障がいなどに関する支援現場からのゲスト報告									
14. 子育てについての相談機関の紹介、説明									
15. まとめ									
<b>事前学習</b>	子ども、子育てに関する時事ニュース・問題に対して考えをまとめておくこと。								
<b>事後学習</b>	講義では、基本的な話題提供にすぎないので、興味のあるテーマ、掘り下げて学習してほしいと指示するテーマについて図書館等を利用して学んでほしい。								
<b>履修上の注意</b>	特に子どもに関するニュース、話題に敏感であること。 提出物の期限厳守。配布資料のファイリング。								
<b>成績評価の方法・基準</b>	期末レポート 60% 受講態度 30%、ミニテストなど 10%								
<b>教科書</b>	授業前にプリントを配布する。								
<b>参考書</b>	授業で指示								

授業科目	教育実習指導			担当者	三浦 主博・子ども生活専攻教員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	対象	子専1年次～2年次
<b>授業の概要</b>							
<p>「幼稚園教諭二種免許状」取得のために必修の教育実習について、実習の意義・目的などの理解、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、実習終了後は、「教職実践演習」の授業と連携して、実習後のまとめをする。</p>							
<b>授業の目標(到達目標)</b>							
<p>教職（幼稚園教諭）課程における必修科目であり、「教育実習」の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。実習前は、実習の意義、目的を明確にし、実習内容（実習の計画、観察、記録、評価の方法等）について理解を深め、実習後は反省や評価などを共有し、以後の課題を明確にできるようになる。</p>							
<b>授業計画及び内容</b>							
1. オリエンテーション[三浦]				1. オリエンテーション（2年次）[三浦]			
2. 実習及び実習指導の予定・概略 [三浦]				2. 実習の意義・目的の明確化 [大坪・横山]			
3. 実習先の説明・希望調査 [三浦]				3. 実習の心構えについての確認 [大坪・横山]			
4. 実習の意義・目的の理解 [三浦]				4. 幼稚園についての確認 [大坪・山崎]			
5. 基礎実習①幼稚園見学の準備 [大坪・山崎]				5. 幼稚園教諭の仕事についての確認[山崎・大坪]			
6. 基礎実習①ガイダンス [附属幼稚園主任]				6. 現場の幼稚園教諭による講義 [附属幼稚園長]			
7. 基礎実習①（附属幼稚園見学）[三浦 他]				7. 日誌等記録の書き方について [山崎・大坪]			
8. 基礎実習①事後指導（グループ討議）[大坪]				8. 指導計画立案及び指導案の作成 [山崎・大坪]			
9. 認定こども園見学準備・ガイダンス[大坪]				9. 実習関係書類の準備 [大坪・三浦・横山]			
10. 認定こども園見学 [大坪 他]				10. 実習先幼稚園との打合せについて[大坪他]			
11. 認定こども園見学事後指導 [大坪・山崎]				11. 実習直前ガイダンス [大坪・三浦・横山]			
12. 基礎実習②の準備・ガイダンス[大坪・山崎]				12. 実習の反省評価と疑問の解消 [三浦]			
13. 基礎実習②（附属幼稚園観察実習）[三浦 他]				13. 実習報告会準備 [大坪・三浦・横山]			
14. 基礎実習②事後指導 [大坪・山崎]				14. 実習報告会での発表 [全教員]			
15. 実習報告会（2年生発表）参加 [全教員]				15. 実習評価等の個別事後指導 [全教員]			
事前学習	授業で使用する資料等を準備し、学習内容を確認したうえで授業に臨む。						
事後学習	授業時に示す課題を作成し、必ず期日までに提出する。						
履修上の注意	本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては実習が出来ないことがある。なお、本科目は、教育実習と合わせて評価される。						
成績評価の方法・基準	受講態度、授業への参加状況（50%）提出課題（20%）により評価する。						
教科書	[保育者になるために] [中田カヨ子他] [萌文書林] [1,620円] [教育実習の手引き] [宮城県幼稚園教育実習連絡協議会]						
参考書	[本当に知りたいことが分かる! 保育所・施設実習ハンドブック][小原敏郎他][ミネルヴァ書房] [2,700円]						

授業科目	教職実践演習(教諭)			担当者	三浦 主博・大坪 豊・山崎 敦子他				
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	子専2年
<b>授業の概要</b>									
教職課程(幼稚園)および保育士養成課程におけるこれまでの学修の振り返りを行い、保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)として必要な資質能力を身につけるため、グループ討論、ロールプレイング、模擬保育、事例研究等を行う。									
<b>授業の目標(到達目標)</b>									
教職課程(幼稚園)および保育士養成課程における学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)として必要な知識技能を身につけたことを確認する。									
<b>授業計画及び内容</b>									
1. イントロダクション・これまでの学修の振り返り(後期・履修カルテの記入)[三浦 他]									
2. 保育・教育実習での学びの振り返り(グループ討論)[三浦 他]									
3. 子ども理解について:事例検討①(講義・グループ討論①)[山崎・大坪 他]									
4. 子ども理解について:事例検討②(グループ討論②・発表)[山崎・大坪 他]									
5. 子ども理解とクラス運営①(講義・グループ討論①)[山崎・大坪 他]									
6. 子ども理解とクラス運営②(グループ討論②・発表)[山崎・大坪 他]									
7. 社会性・対人関係能力について(講義・グループ討論)[三浦 他]									
8. 保育者の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任について(グループ討論)[三浦 他]									
9. 危機管理・保育現場でのトラブルの対応(講義・グループ討論)[三浦・山崎 他]									
10. 保護者対応について(講義・ロールプレイング)[山崎・三浦他]									
11. 保育内容等の指導力について①(講義・グループ討論①)[山崎・大坪 他]									
12. 保育内容等の指導力について②(グループ討論②)[山崎・大坪 他]									
13. 保育実践の発表(模擬保育)①[山崎・大坪 他]									
14. 保育実践の発表(模擬保育)②[山崎・大坪 他]									
15. 保育者としての資質能力の確認・まとめ[三浦 他]									
事前学習	授業および保育・教育実習での学修内容を振り返り確認しておく。								
事後学習	自分自身で保育者になるための課題を見つけ、自発的に取り組む。								
履修上の注意	保育者になるための総まとめの授業のため、積極的に授業に取り組む。								
成績評価の方法・基準	授業への取り組み状況(50%) レポートや提出物(50%)								
教科書	[保育所保育指針解説書][厚生労働省][フレーベル館][205円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][205円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269円]								
参考書	[本当に知りたいことが分かる! 保育所・施設実習ハンドブック][小原敏郎他][ミネルヴァ書房][2,700円]								